

神奈川県 文化財目録

(平成27年9月1日現在)

目 次

建造物	1
絵画	9
彫刻	17
工芸	31
書跡・典籍・古文書	43
考古資料	51
歴史資料	55
有形民俗文化財	57
無形民俗文化財	59
無形文化財	63
史跡	65
名勝（名勝、史跡・名勝、天然記念物及び名勝）	71
天然記念物	73
登録有形文化財の登録状況一覧	79
登録記念物の登録状況一覧	91

建造物

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国 宝	建造物	円覚寺舍利殿	えんがくじしゃりでん		1棟	S26.6.9	鎌倉市	円覚寺 (山ノ内409)	円覚寺		室町時代前期。禅宗様建築の代表作。旧太平寺の仏殿を室町時代末に移築したものと考えられている。
国	建造物	旧燈明寺本堂	きゅうとうみょうじほんどう		1棟	T10.4.30	横浜市	三溪園(中区本牧三之谷58-1)	公益財団法人 三溪園保勝会		室町時代初期。中世密教寺院本堂。
国	建造物	臨春閣	りんしゅんかく	第一屋・第二屋・第三屋	3棟	S6.12.14	横浜市	三溪園(中区本牧三之谷58-1)	公益財団法人 三溪園保勝会		江戸時代初期。臨春閣は第一屋から第三屋まで雁行する形で池をめぐるように建てられている。臨春閣とは三棟の建物の総称で現在地へ移築されてからの名称である。数寄屋造の影響を受けた書院造の建物で、かつて聚楽第にあったという伝えがある。
国	建造物	月華殿	げっかでん		1棟	S6.12.14	横浜市	三溪園(中区本牧三之谷58-1)	公益財団法人 三溪園保勝会		桃山時代。所伝では伏見城の遺構と伝えるが、現状では後世の数寄屋風の加味が大きく全体として江戸初期の書院である。
国	建造物	春草廬	しゅんそうろ		1棟	S6.12.14	横浜市	三溪園(中区本牧三之谷58-1)	公益財団法人 三溪園保勝会		江戸時代。宇治金蔵院にあって九窓亭と呼ばれていた。織田有楽斎の作と伝えられている。
国	建造物	旧天瑞寺寿塔履堂	きゅうてんずいじじゅうとう おおいどう		1棟	S6.12.14	横浜市	三溪園(中区本牧三之谷58-1)	公益財団法人 三溪園保勝会		桃山時代。豊臣秀吉が母大政所の病氣平癒を祈り、天正16年に大徳寺塔頭として創立した天瑞寺の建物である。
国	建造物	聴秋閣	ちゅうしゅうかく		1棟	S6.12.14	横浜市	三溪園(中区本牧三之谷58-1)	公益財団法人 三溪園保勝会		江戸時代初期。小規模ながら外観室内ともに軽妙洒脱な楼閣造りの建物。京都二条城内に建てられたと伝えられる。
国	建造物	旧東慶寺仏殿	きゅうとうけいじぶつでん		1棟	S6.12.14	横浜市	三溪園(中区本牧三之谷58-1)	公益財団法人 三溪園保勝会		江戸時代(棟札に寛永11年の銘)。細部手法が簡素な禅宗様仏殿である。
国	建造物	旧燈明寺三重塔	きゅうとうみょうじさん じゅうのとう		1基	S6.12.14	横浜市	三溪園(中区本牧三之谷58-1)	公益財団法人 三溪園保勝会		室町時代。本格的な和様の三重の塔である。
国	建造物	旧矢筈原家住宅	きゅうやはらはけじゅうたく		1棟	S31.6.28	横浜市	三溪園(中区本牧三之谷58-1)	公益財団法人 三溪園保勝会		江戸時代末期。旧所在岐阜県大野郡荘川村岩瀬、上級の合掌造り民家の代表的遺構である。
国	建造物	天授院	てんじゅいん		1棟	S35.6.9	横浜市	三溪園(中区本牧三之谷58-1)	公益財団法人 三溪園保勝会		江戸時代(慶安4年の墨書あり)。鎌倉の旧心平寺地蔵堂であったと考えられている。
国	建造物	関家住宅	せきけじゅうたく	主屋・書院・表門	3棟	S41.6.11	横浜市	都筑区勝田町	個人	S53.5.31 追加指定 (書院・表門)	江戸時代初期。寄棟造茅葺。入口に長屋門を置き、広い敷地内には本屋、離れ座敷、倉を配し、後方の高見には鎮守や墓地もある堂々たる屋敷構えは、当時最上級の民家と思われる。

建造物

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国	建造物	旧横浜正金銀行本店本館	きゅうよこはましょうきん ぎんこうほんてんほんか ん		1棟	S44.3.12	横浜市	県立歴史博物館 (中区南仲通5-60)	神奈川県	S38.3.5 県指定	明治37年完成した本格的様式建築の傑作である。外観は全体として手堅くまとめられている。
国	建造物	横浜市開港記念会館	よこはましかいこうきね んかいかん	附)設計図(青写真)46枚	1棟	H元.9.2	横浜市	中区本町1-6	横浜市		大正6年。横浜開港50周年を記念し、市民から寄付を募って建設された公会堂建築。大正期の建物として意匠が優れ、また、煉瓦造の建物に構造補強を施した早い例であり、復旧した内部も建物に調和していて価値が高い。
国	建造物	旧内田家住宅	きゅううちだけじゅうたく		1棟	H9.5.29	横浜市	中区山手町16	横浜市		旧所在地は東京都渋谷区南平台で、ガーデン設計による外交官内田定槌の住宅。
国	建造物	旧横浜船渠株式会社第二号船渠(ドック)	きゅうよこはませんきよ かぶしきがいしゃだいに ごうせんきよ(どっく)		1基	H9.12.3	横浜市	西区みなとみらい 2-2-1	三菱地所株式会社		現存する商船用石造ドックとして最古のもので、近代土木技術史上の成果として重要。現在は「ドックヤードガーデン」として活用。
国	建造物	旧横浜船渠株式会社第一号船渠(ドック)	きゅうよこはませんきよ かぶしきがいしゃだいい ちごうせんきよ(どっく)		1基	H12.12.4	横浜市	西区みなとみらい 2-7-10	横浜市		建設当時、日本最大規模を有した明治期を代表する乾船渠のひとつ。現在は「日本丸メモリアルパーク」として活用。
国	建造物	旧伊藤家住宅	きゅういとうけじゅうたく		1棟	S39.5.29	川崎市	日本民家園(多摩区 枳形7-1-1)	川崎市		江戸時代。旧所在川崎市金程。入母屋造茅葺。ヒロマ型平面で、前面の格子窓は17世紀末にさかのぼるものである。
国	建造物	旧北村家住宅	きゅうきたむらけじゅうたく		1棟	S41.12.5	川崎市	日本民家園(多摩区 枳形7-1-1)	川崎市		江戸時代(貞享4年の墨書)。旧所在秦野市堀山下。寄棟造茅葺。ヒロマ型平面をもつ民家である。
国	建造物	旧佐々木家住宅	きゅうささきけじゅうたく	附)寛保三亥年家普請人足諸入用帳、延享四年座敷普請入用覚帳	1棟	S42.12.11	川崎市	日本民家園(多摩区 枳形7-1-1)	川崎市		江戸時代(享保17年)。旧所在長野県南佐久郡八千穂村。寄棟造茅葺。土間側をカブト造としてある。
国	建造物	旧太田家住宅	きゅうおおたけじゅうたく	主屋・土間	2棟	S43.4.25	川崎市	日本民家園(多摩区 枳形7-1-1)	川崎市		江戸時代中期。旧所在茨城県笠間市。両棟とも寄棟造茅葺。土間を別棟とした分棟型民家である。
国	建造物	旧江向家住宅	きゅうえむかいけじゅう たく		1棟	S44.6.20	川崎市	日本民家園(多摩区 枳形7-1-1)	川崎市		江戸時代中期。旧所在富山県東礪波郡平村。切妻造妻入茅葺。五箇山地方の典型的な合掌造民家である。
国	建造物	旧工藤家住宅	きゅうくどうけじゅうたく		1棟	S44.12.18	川崎市	日本民家園(多摩区 枳形7-1-1)	川崎市		江戸時代。旧所在岩手県紫波郡紫波町。寄棟造茅葺。
国	建造物	旧作田家住宅	きゅうさくたけじゅうたく	主屋・土間	2棟	S45.6.17	川崎市	日本民家園(多摩区 枳形7-1-1)	川崎市		江戸時代中期。旧所在千葉県山武郡九十九里町。主屋寄棟造茅葺。土間寄棟造妻入茅葺。別棟造民家の典型である。

建造物

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国	建造物	石井家住宅	いしいけじゅうたく	附)古図1枚	1棟	S46.12.28	相模原市	緑区澤井	個人		江戸時代(宝永2年)の、式台を持つ格式の高い民家。大工銘まであるめずらしいものである。
国	建造物	光明寺本堂内厨子	こうみょうじほんどうないずし	附)木造聖観音立像	1基	S45.6.17	平塚市	光明寺(南金目896)	光明寺	S38.9.20 県指定	室町時代。一間厨子。入母屋造。本瓦形板葺。なお前立の木造聖観音像の胎内銘に明應7年とある。
国	建造物	鶴岡八幡宮大鳥居(一の鳥居)	つるがおかはちまんぐうおおとりい(いちのとりい)		1基	M37.8.29	鎌倉市	由比ガ浜2-1082	鶴岡八幡宮(雪ノ下2-1-31)		江戸時代(寛文8年)。源頼朝の創建以来幾度かの造替を経て、現在のものは徳川秀忠夫人の遺願により建てられたものである。
国	建造物	建長寺仏殿	けんちょうじぶつでん		1棟	T11.4.13	鎌倉市	建長寺(山ノ内8)	建長寺		江戸時代、寛永創立の芝増上寺の崇源院霊牌所本殿を正保4年に移築したと思われる。禅宗様の内でも自由かつ達な処理が認められる。
国	建造物	建長寺昭堂	けんちょうじしょうどう		1棟	T11.4.13	鎌倉市	建長寺(山ノ内8)	建長寺		室町時代。禅宗様式の簡素な建物である。
国	建造物	建長寺唐門	けんちょうじからもん		1棟	T11.4.13	鎌倉市	建長寺(山ノ内8)	建長寺		江戸時代初期。正保4年幕府より賜った廟門である。全体の気分もよく、桃山時代の作風がある。
国	建造物	覚園寺開山塔	かくおんじかいさんとう		1基	S9.1.30	鎌倉市	覚園寺(二階堂421)	覚園寺		鎌倉時代。関東形宝篋印塔の代表作。修理の際開山骨蔵器、墨釉壺、銅製五輪塔、銘石が発見された。
国	建造物	覚園寺大燈塔	かくおんじだいとうとう		1基	S9.1.30	鎌倉市	覚園寺(二階堂421)	覚園寺		鎌倉時代。開山塔とほとんど同形同大の塔。塔内で古瀬戸壺、銅製台付の水晶五輪塔などが発見された。
国	建造物	建長寺大覚禅師塔	けんちょうじだいがくぜんじとう		1基	S9.1.30	鎌倉市	建長寺(山ノ内8)	建長寺		鎌倉時代末。鎌倉地方における石造無縫塔の代表例であり、保存状態がよく、後世補修のあとがない。
国	建造物	極楽寺忍性塔	ごらくじにんしょうとう		1基	S9.1.30	鎌倉市	極楽寺(極楽寺3-6-7)	極楽寺		鎌倉時代末。銘文はないが忍性塔と伝わる花崗岩製の大五輪塔である。
国	建造物	浄光明寺五輪塔	じょうこうみょうじごりんとう		1基	S13.8.26	鎌倉市	浄光明寺(扇ガ谷2-12-1)	浄光明寺		鎌倉時代末。地輪の下方から「多宝寺覚賢長老遺骨也嘉元4年3月16日入滅」と刻んだ骨壺が発見された。
国	建造物	極楽寺五輪塔	ごらくじごりんとう		1基	S28.8.29	鎌倉市	極楽寺(極楽寺3-6-7)	極楽寺		鎌倉時代。台座正面に刻銘があり、鎌倉地方の年代の明らかで形の整った五輪塔として貴重な塔である。
国	建造物	安養院宝篋印塔	あんよういんほうきょういんとう		1基	S29.3.20	鎌倉市	安養院(大町3-1-22)	安養院		鎌倉時代。相輪は後補。台座上部の蓮弁および側面の格狭間は、よく時代の特徴をあらわしている。
国	建造物	旧一条恵観山荘	きゅういちじょうえかんさんそう		1棟	S39.5.26	鎌倉市	浄明寺5-1-23	財団法人茶道宗徧流不審庵	S35.5.17 県指定	江戸時代初期。旧所在京都府京都市北区西賀茂川上町。江戸時代初期の貴族の茶屋の傑出した遺構である。
国	建造物	鶴岡八幡宮末社丸山稲荷社本殿	つるがおかはちまんぐうまっしやまるやまいなりしやほんでん		1棟	S42.6.15	鎌倉市	鶴岡八幡宮(雪ノ下2-1-31)	鶴岡八幡宮		室町時代。関東における純粋で本格的な和様中世神社本殿として重要な建物である。
国	建造物	旧石井家住宅	きゅういしいけじゅうたく		1棟	S44.6.20	鎌倉市	龍宝寺(植木128)	龍宝寺		江戸時代中期。旧所在鎌倉市関谷。神奈川県民家の主流をなす。ヒロマ型で四方下屋造の代表民家である。

建造物

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国	建造物	鶴岡八幡宮上宮	つるがおかはちまんぐう うえみや	附)普請文書 3巻	3棟	H8.7.9	鎌倉市	鶴岡八幡宮(雪ノ 下2-1-31)	鶴岡八幡宮		文政再建時のもの。回廊が巡る一郭の内部中軸線上に本殿、幣殿、及び拝殿が工字型に接続。
国	建造物	鶴岡八幡宮摂社若宮	つるがおかはちまんぐう せっしゃわかみや	附)棟札1枚	1棟	H8.7.9	鎌倉市	鶴岡八幡宮(雪ノ 下2-1-31)	鶴岡八幡宮	S30.8.30 県指定	徳川秀忠による寛永造替時のもの。本殿、幣殿及び拝殿が工字型に接続する複合社殿。
国	建造物	光明寺本堂	こうみょうじほんどう		1棟	H11.12.1	鎌倉市	光明寺(材木座6- 17-19)	光明寺		元禄11年建立。現存する鎌倉近世仏殿のうち最大。桁行9間、梁間11間、入母屋造銅板葺。
国	建造物	荏柄天神社本殿	えがらてんじんしゃほん でん		1棟	H17.7.22	鎌倉市	荏柄天神社 (二階堂74)	荏柄天神社		鶴岡八幡宮の若宮本殿を移築したもので、鶴岡八幡宮の室町時代に遡る主要社殿を伝える唯一の例として重要である。内外ともに細部の意匠も優れ、中世鎌倉における社殿の様式を知る上で貴重な遺構である。
国	建造物	建長寺山門	けんちょうじさんもん		1棟	H17.7.22	鎌倉市	建長寺(山ノ内8)	建長寺	S29.12.3 県指定	禅宗様を基調とした三間二階二重門。三間二重門として東日本最大の規模を誇り、建長寺の近世伽藍再興の集大成といえる重要な建築である。
国	建造物	建長寺法堂	けんちょうじはつどう		1棟	H17.7.22	鎌倉市	建長寺(山ノ内8)	建長寺	S29.12.3 県指定	方三間もこし付の仏堂で、禅宗様を基調としている。組物や軒廻りも大建築に応じた量感をもたせており、大型禅宗様仏堂として高い価値がある。
国	建造物	英勝寺	えいしょうじ	・仏殿 附)棟 札4枚、扁額1 面、梁牌2枚、 ・山門 附)棟 札2枚、扁額2 面、 ・祠堂 附)英 勝院墓1基石 造笠塔婆、 ・鐘楼 ・祠堂門	5棟	H25.8.7	鎌倉市	英勝寺 (扇ガ谷1-16-3)	英勝寺	仏殿・鐘 楼・祠堂 ・祠堂門 S31.8.17 県指定 山門 H15.2.10 県指定	英勝寺は徳川家康の側室の英勝院が創建した寺院。各建造物は江戸時代前期に建てられた主要な堂宇で、墓所と一体となって良好に保存されている点が貴重である。禅宗様と和様を自由に組合わせた意匠を持ち、屋根の弛みも軒の反りもつけない直線的な形状で統一されている点が独創的な造りである。
国	建造物	五輪塔	ごりんとう		1基	S28.8.29	逗子市	東昌寺 (池子2-8-33)	東昌寺		鎌倉時代。台石に乾元2年の刻銘がある。
国	建造物	宝城坊旧本堂内厨子	ほうじょうぼうきゅうほん どうないずし		1基	S43.4.25	伊勢原市	宝城坊 (日向1644)	宝城坊	S40.8.10 県指定	室町時代初期。一間厨子。入母屋造。柿葺。禅宗様を摂取した厨子のもっとも古い例の一つである。
国	建造物	宝城坊本堂	ほうじょうぼうほんどう		1棟	H7.12.26	伊勢原市	宝城坊 (日向1644)	宝城坊		江戸時代。茅葺。広大な内陣と華やかな外陣が特徴。
国	建造物	五輪塔	ごりんとう		3基	S28.8.29	箱根町	元箱根	箱根町		鎌倉時代。二基は同一基壇上に相接して立ち竈を造って地蔵菩薩を浮彫し、他の一基に銘文を刻む。
国	建造物	宝篋印塔	ほうきょういんとう		1基	S36.3.23	箱根町	元箱根	箱根町		鎌倉時代。台石四面に格狭間を彫る関西形宝篋印塔の優作である。

建造物

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国	建造物	福住旅館萬翠楼・金泉楼	ふくずみりょかんばんす いうろく・きんせんろう		2棟	H14.12.26	箱根町	湯本643	有限会社湯本 福住		明治11年(萬翠楼)、同10年(金泉楼)竣工。1、2階は木骨石造で3階は土蔵造。数少ない擬洋風建築物。
国	建造物	国道一号箱根湯本道路施設 函嶺洞門、千歳橋、旭橋	こくどういちごうはこねゆ もとどうろしせつ かんれいどうもん、ち とせばし、あさひばし	附)箱根塔ノ 澤架設千歳橋 計算書一 冊、国道第一 号線足柄下郡 湯本町地内旭 橋設計計算書 一冊、国道一 号線旭橋改築 工事設計書	3基	H27.7.8	箱根町	箱根町湯本、塔之 澤	神奈川県		国道一号箱根湯本道路施設は、箱根山の東麓に位置する近代の道路施設で、函嶺洞門(昭和6年竣工)、千歳橋(昭和5年竣工)、旭橋(昭和8年竣工)から構成されている。これらは、自動車交通に対応した我が国初期の幹線道路施設で、国道一号の険路であった箱根路の近代化を象徴する施設として、近代道路史上、価値が高い。また、高度な鉄筋コンクリート技術を駆使して建設され、昭和初期における道路構造物の技術的達成度を示す遺構として重要である。
県	建造物	東漸寺釈迦堂	とうぜんじしゃかどう		1棟	S46.9.17	横浜市	東漸寺(磯子区杉 田1-9-1)	東漸寺		梁牌に正安3年(1301)の年号がある。桁行5間1重寄棟造。創建当初の材を多数転用している。
県	建造物	東漸寺五輪塔	とうぜんじごりんとう		3基	S47.11.24	横浜市	東漸寺(磯子区杉 田1-9-1)	東漸寺		鎌倉時代。鎌倉後期以降造られる安山岩製五輪塔に先行する凝灰岩製五輪塔である。
県	建造物	旧太田家住宅	きゅうおおたけじゅうたく		1棟	S48.12.21	横浜市	都筑区大瀬町254 他	横浜市		江戸時代。書院造。もと松平不昧公の江戸中屋敷と伝え、材料はぜいたくに吟味された本格的な建物である。
県	建造物	称名寺金堂	しょうみょうじこんどう	附)天和三年 祈祷札(1枚)	1棟	H7.2.14	横浜市	称名寺(金沢区金 沢町212-1)	称名寺		江戸時代。桁行5間、梁間5間入母屋造、禅宗様。
県	建造物	旧横浜居留地48番館	きゅうよこはまきよりゅう ち48ばんかん		1棟	H13.2.13	横浜市	中区山下町54	神奈川県		明治16年創建の横浜居留地建築唯一の遺構。石灰目地のフランス積み煉瓦造り。モリソン商会の建物として大正15年まで使用された。
県	建造物	旧清宮家住宅	きゅうきよみやけじゅう たく		1棟	S46.3.30	川崎市	日本民家園(多摩 区柘形7-1-1)	川崎市		江戸時代初期。一重寄棟造。南面一部庇付。旧所在川崎市登戸。ヒロマ後半に小室をもち、周囲の間取り等も古式の民家である。
県	建造物	旧野原家住宅	きゅうのほらけじゅうたく		1棟	S46.3.30	川崎市	日本民家園(多摩 区柘形7-1-1)	川崎市		江戸時代後期。合掌造平入。旧所在富山県東礪波郡利賀村。庄川支流利賀川筋の民家である。
県	建造物	旧広瀬家住宅	きゅうひろせけじゅうたく		1棟	S46.3.30	川崎市	日本民家園(多摩 区柘形7-1-1)	川崎市		江戸時代中期。切妻造。旧所在山梨県塩山市上萩原。甲州型切妻民家として最も古い遺構の一つである。
県	建造物	旧山下家住宅	きゅうやましたけじゅうた く		1棟	S47.11.24	川崎市	日本民家園(多摩 区柘形7-1-1)	川崎市		江戸時代。合掌造。旧所在岐阜県大野郡御母衣村。現存の合掌造としては、比較的よく、かつ整備されている重要な遺構である。
県	建造物	旧鈴木家住宅	きゅうすずきけじゅうたく		1棟	S47.11.24	川崎市	日本民家園(多摩 区柘形7-1-1)	川崎市		江戸時代後期。寄棟造。旧所在福島県松川町。奥州街道の馬宿で、奥行が長い典型的な宿場建築である。
県	建造物	旧三澤家住宅	きゅうみさわけじゅうたく		1棟	S47.11.24	川崎市	日本民家園(多摩 区柘形7-1-1)	川崎市		江戸時代。切妻造。旧所在長野県伊那市西町。幕末の整備された町屋建築である。

建造物

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
県	建造物	影向寺薬師堂	ようごうじやくしどう	附)厨子(1基)、銅板屋根替銘札(2枚)、薬師堂前石燈籠(1基)、境内出土古瓦(15個)、塔心礎(通称影向石1個)	1棟	S52.8.19	川崎市	影向寺(宮前区野川419)	影向寺		江戸時代(造営銘札に元禄7年)。桁行5間梁行5間、寄棟造。内陣、外陣で構成され内部は中世以来の伝統的な密教本堂の形式によるものである。なお、当堂に関する文化財も一括指定した。
県	建造物	旧岩澤家住宅	きゅういわさわけじゅうたく		1棟	S61.11.28	川崎市	日本民家園(多摩区枳形7-1-1)	川崎市	S62.4.1 変更	江戸時代中期。寄棟造。旧所在愛甲郡清川村煤ヶ谷。神奈川県近世民家の古い特徴を示す民家である。
県	建造物	旧井岡家住宅	きゅういおかけじゅうたく	附)旧柱等部材11丁	1棟	S61.11.28	川崎市	日本民家園(多摩区枳形7-1-1)	川崎市		江戸時代中期。切妻造。旧所在奈良市高畑町。奈良市付近の近世町屋の典型である。
県	建造物	旧菅原家住宅	きゅうすがわらけじゅうたく	附)祈祷札1枚	1棟	H元.2.10	川崎市	日本民家園(多摩区枳形7-1-1)	川崎市		江戸時代。茅葺寄棟造、二面破風付。旧所在山形県東田川郡朝日村。東北豪雪地帯の特色をあらわしたはっぽう造りによる近世民家。
県	建造物	旧山田家住宅	きゅうやまだけじゅうたく		1棟	H9.2.10	川崎市	日本民家園(多摩区枳形7-1-1)	川崎市		18世紀前期。平入り、切妻の合掌造の古例。越中に所在しながら飛騨の特徴を有する。
県	建造物	旧青柳寺庫裡	きゅうせいりゅうじくり		1棟	S56.7.17	相模原市	緑区大島3853-8	相模原市	S56.7.28 変更	江戸時代。大型の広間型民家の間取りと、庫裡の特色を併せ持つ。
県	建造物	小原宿本陣	おばらじゆくほんじん		1棟	H8.2.13	相模原市	緑区小原698-1	相模原市		江戸時代後期。本陣特有の座敷を構え、全体は江戸後期の養蚕民家の形式を示している。
県	建造物	石橋尾神社本殿	いわだておじんじゃほんでん		1棟	H8.2.13	相模原市	石橋尾神社(緑区佐野川3448)	石橋尾神社		16世紀末。津久井郡旧佐野川村の鎮守。蛙股、組物などに顕著な地方色が見られる。
県	建造物	妙覚寺四脚門	みょうかくじしきやくもん		1棟	S48.12.21	平塚市	妙覚寺(上吉沢388)	妙覚寺		室町時代。本県にはめずらしい室町様式の小規模な四脚門である。
県	建造物	光明寺観音堂	こうみょうじかんのんどう		1棟	S54.2.16	平塚市	光明寺(南金目896)	光明寺		江戸時代(明應7年創建の前身堂の部材がある)。桁行5間梁行6間宝形造向拝附。内部は内陣、外陣を仕切る密教本堂の形式である。
県	建造物	覚園寺本堂(薬師堂)	かくおんじほんどう(やくしどう)		1棟	S29.12.3	鎌倉市	覚園寺(二階堂421)	覚園寺		江戸時代。桁行5間梁間5間寄棟造。梁牌に源朝臣尊氏の銘文が残されている。
県	建造物	長勝寺法華堂	ちょうしょうじほっけどう		1棟	S44.5.20	鎌倉市	長勝寺(材木座2-12-17)	長勝寺		室町時代末。桁行5間梁間6間一重寄棟造。本県唯一の中世五間堂である。
県	建造物	建長寺西来庵唐門	けんちょうじせいらいあんからもん		1棟	S46.3.30	鎌倉市	建長寺(山ノ内8)	建長寺		江戸時代。一間平唐門。正保4年に芝の崇源院霊牌所から移築したもので、巧みな意匠で造られている。

建造物

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
県	建造物	杉本寺観音堂	すぎもとでらかんのんどう	附)棟札2枚	1棟	S52.11.18	鎌倉市	杉本寺 (二階堂903)	杉本寺		江戸時代(棟札に延宝6年)。桁行5間梁間5間寄棟茅葺。内・外陣に分かれる中世密教本堂形式のものである。
県	建造物	常楽寺仏殿	じょうらくじぶつでん	附)牌2点、板榜1点	1棟	S53.2.21	鎌倉市	常楽寺 (大船5-8-29)	常楽寺		江戸時代(元禄4年)建立。桁行梁行とも3間、床を石敷の土間床とする。小形禅宗様仏殿である。
県	建造物	旧内海家住宅	きゅううつみけじゅうたく		1棟	S53.11.17	鎌倉市	覚園寺 (二階堂421)	覚園寺	S53.12.1 変更	江戸時代(宝永3年の墨書)。茅葺寄棟屋根。旧所在鎌倉市手広。神奈川県内で最も早い時期の四間取りの大型民家である。
県	建造物	円覚寺山門	えんがくじさんもん	附)円覚寺山門棟札1枚 (鎌倉国宝館寄託)	1棟	H7.2.14	鎌倉市	円覚寺 (山ノ内409)	円覚寺		江戸時代。3間2階二重門の禅宗様で、上層は周囲に擬宝珠高欄のついた縁がある。
県	建造物	光明寺山門	こうみょうじさんもん		1棟	H13.2.13	鎌倉市	光明寺 (材木座6-17-19)	光明寺		江戸時代(弘化4年)建立。県下唯一の五間二階二重門。
県	建造物	勝福寺本堂	しょうふくじほんどう		1棟	S32.2.19	小田原市	勝福寺 (飯泉1161)	勝福寺		江戸時代(棟札に宝永3年)。桁行5間梁間5間一重宝形造。基本的に中世密教本堂の継承であるが、彫刻欄間や手挟、絵様の豊富さに時代の特色を示している。
県	建造物	小田原城天守模型 木造三重	おだわらじょうてんしゅも けい もくぞうさんじゅう		1個	S38.3.5	小田原市	小田原城天守閣 (城内6-1)	大久保神社 (城山3-27-7)		江戸時代。三重4階の天守で、おそらく(安政大地震後)再建を企てて造られたものと考えられる模型。
県	建造物	小田原城天守模型 木造三重	おだわらじょうてんしゅも けい もくぞうさんじゅう		1個	S38.3.5	小田原市	小田原城天守閣 (城内6-1)	小田原市		江戸時代。明治3年の取壊中の天守写真に最も近い模型で、20分の1の縮尺で作られたものである。
県	建造物	二宮尊徳生家 茅葺寄棟造 (旧二宮家住宅)	にのみやそんとくせい かかやぶきよせむねつくり (きゅうにのみやけじゅう たく)		1棟	S38.3.5	小田原市	小田原市尊徳記念館 (栢山2065-1)	小田原市		江戸時代。寄棟造。ヒロマ型民家の代表例であるとともに、二宮尊徳の生家として有名である。
県	建造物	宗福院地蔵堂	そうふくいんじぞうどう		1棟	H8.2.13	小田原市	宗福院(板橋566)	宗福院		江戸時代中期。正面中央間が著しく大きい。県下唯一の黄檗仏殿遺構である。
県	建造物	神武寺薬師堂	じんむじやくしどう	附)棟札3枚	1棟	S60.11.29	逗子市	神武寺(沼間2-1402)	神武寺		慶長3年造立上葺棟札がある。桁行3間梁間3間寄棟造。近世初期の年代判明遺構である。
県	建造物	海南神社本殿、幣殿及び拝殿	かいなんじんじゃほん でん、へいでんおよびはい でん	附)棟札2枚	1棟	H23.3.22	三浦市	海南神社(三崎4-12-11)	海南神社		棟札から本殿は寛保3年(1743)、幣殿及び拝殿は寛政10年(1798)の建立。本殿は元は二間社流造で、地方の社殿としては規模が大きく、控えめながら装飾の質も高く、県内の江戸時代中期を代表する社殿である。拝殿及び幣殿は、細部が時代に比して古様であり、本殿との調和を強く意図したと思われる。

建造物

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
県	建造物	本禅寺本堂	ほんぜんじほんどう	附)本禅寺本堂棟札1枚	1棟	H7.2.14	厚木市	本禅寺(飯山3515)	本禅寺		江戸時代。桁行5間、梁間6間寄棟造、鉄板葺。日蓮宗本堂の典型的建物。
県	建造物	荻野神社本殿及び拝殿	おぎのじんじゃほんでん およびはいでん	附)貞享四年木札(奉造立石神大明神社惣旦那寄進之覚)	2棟 (1枚)	H26.3.28	厚木市	荻野神社(上荻野1番地イ)	荻野神社		本殿は貞享4年(1687)という年代の割には、細部の手法は先進的であり、また装飾も大変豊かで質も高いもので、当時の江戸の作風を見事に消化しきった建築として高く評価されている。 また、拝殿は延享2年(1745)と造立時期は、本殿より遅れるが、細部に複雑な細工がほどこされており、華やかな本殿の雰囲気によく調和した端正な社殿として評価されている。
県	建造物	地藏堂内厨子	じぞうどうないずし		1基	S54.2.16	南足柄市	地藏堂(矢倉沢2391)	地藏堂自治会		室町時代末。三間厨子入母屋造。軸部に唐様、軒を和様とした折衷様厨子である。
県	建造物	新善光寺四脚門	しんぜんこうじしきやくもん		1棟	S39.12.15	葉山町	新善光寺(上山口1368)	新善光寺		江戸時代初期。四脚門切妻造。当時鎌倉地方で宗派をこえて強かった禅宗様式で作られたものである。
県	建造物	新善光寺本堂	しんぜんこうじほんどう	附)厨子1基	1棟	S47.11.24	葉山町	新善光寺(上山口1368)	新善光寺		江戸時代初期。桁行7間寄棟造。四脚門同様禅宗様式により、厨子は棟札によると寛政9年の建造である。
県	建造物	五所神社本殿	ごしょじんじゃほんでん	附)五所神社元和七年棟札1枚	1棟	H7.2.14	湯河原町	五所神社(宮下359-1)	五所神社		室町時代後期。三間社流造、瓦棒鉄板葺。

絵画

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国宝	絵画	絹本着色 北条実時像 絹本着色 北条顕時像 絹本着色 金沢貞顕像 絹本着色 金沢貞将像	けんぼんちゃくしよく ほう じょうさねときぞう けんぼんちゃくしよく ほう じょうあきときぞう けんぼんちゃくしよく かな ざわさだあきぞう けんぼんちゃくしよく かな ざわさだまさぞう	附)絹本着色 顕弁像1幅	4幅	S41.6.11	横浜市	県立金沢文 庫(金沢区 金沢町142)	称名寺(金沢 区金沢町212- 1)	M33.4.7指定、 S30.6.22追加 指定、 S52.6.11名称 変更	実時像:鎌倉時代後期作の法体坐像であ る。 顕時像:鎌倉時代後期作の法体坐像、下部 に「前越前守顕時法名慧日」の墨書があ る。 貞顕像:鎌倉時代後期作の俗体坐像、下方 に「修理権大夫貞顕法名宗顕」の墨書があ る。 貞将像:鎌倉時代後期作の俗体坐像、下方 に「武蔵前司貞将」の墨書がある。 顕弁像:室町時代作の法体坐像、顕弁は顕 時の長男と推定される。
国宝	絵画	紙本淡彩 十便図 池野大雅筆 紙本淡彩 十宜図 与謝蕪村筆	しほんたんさい じゅうべ んず いけのたいがひつ しほんたんさい じゅうぎず よさのぶそんひつ	宜風図に明和 八年八月の年 記がある	2帖	S26.6.9	鎌倉市	川端康成記 念館(長谷 1-12-5)	財団法人川端 康成記念会	S10.4.30指定	江戸時代(明和8年)。清初の季漁笠翁の 伊園十便十二宜の詩に基づいて大雅、蕪 村がそれぞれ十図を描いて二帖としたも のである。
国宝	絵画	絹本淡彩 蘭溪道隆像	けんぼんたんさい らんけ いどうりゅうぞう	文永八年の自 賛がある	1幅	S27.3.29	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1- 1)	建長寺 (山ノ内8)	M38.4.4指定	鎌倉時代(文永8年)。曲象に坐す道隆(大 覚禪師)58歳の時の頂相の像である。
国宝	絵画	紙本着色 当麻曼荼羅縁起	しほんちゃくしよく たいま まんだらえんぎ	附)寛政五年松 平定信添書1 巻	2巻	S30.6.22	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1- 1)	光明寺 (材木座6-17- 19)	M41.4.23指定	鎌倉時代。奈良当麻寺に伝わる浄土变相 図当麻曼荼羅の織成伝説を描く絵巻。大 和絵の正統を伝えている点で当代絵巻屈 指の名作である。
国宝	絵画	紙本墨画 凍雲篩雪図 浦上玉堂 筆	しほんぼくが とううんしせ つず うらがみぎよくどうひ つ		1幅	S40.5.29	鎌倉市	川端康成記 念館(長谷 1-12-5)	財団法人川端 康成記念会	S27.7.19指定	江戸時代。画面全体に雪の降る静かで寒 ざむとした山中の世界を細やかな筆法で 描いたものである。
国宝	絵画	絹本着色 一遍上人絵伝 法眼圓 伊筆	けんぼんちゃくしよく いっ ぺんしょうにんえでん ほう げんえんいひつ	正安元年聖戒 の奥書がある	12巻	S27.3.29	藤沢市	清浄光寺 (西富1-8- 1)	清浄光寺	H16.12.24所 有者変更	鎌倉時代。生涯の大半を諸国の遊行に費 やし踊念仏をするなど、布教につとめた時 宗の開祖の一遍上人の行状を詳しく図絵 したものである。
国	絵画	紙本着色 提婆達多像	しほんちゃくしよく だいば だったぞう		1幅	M33.4.7	横浜市	總持寺(鶴 見区鶴見2- 1-1)	總持寺		高麗時代。提婆達多が地獄より天上に復 治する所を描いたものと云える珍しい作例 である。
国	絵画	絹本着色 前田利家夫人像	けんぼんちゃくしよく まえ だとしいえふじんぞう	僧象山の賛が ある	1幅	M38.4.4	横浜市	總持寺(鶴 見区鶴見2- 1-1)	總持寺		桃山時代。小袖の上に白衣を纏い、白の 頭巾を頂き、手に数珠を執って上置しにや や左斜向きに坐す婦人像である。
国	絵画	絹本着色 十二神将像	けんぼんちゃくしよく じゅう にしんしょうぞう		12幅	M43.8.29	横浜市	県立金沢文 庫(金沢区 金沢町142)	称名寺		鎌倉時代。十二神将は薬師如来の眷属で ある。本像は比較的濃彩を賦してあり保存 状態は良好である。
国	絵画	絹本着色 紹瑾和尚像	けんぼんちゃくしよく しょう きんおしょうぞう	元応元年九月 八日の自賛が ある	1幅	S10.4.30	横浜市	總持寺(鶴 見区鶴見2- 1-1)	總持寺		南北朝時代(元応元年の賛あり)。總持寺 開山瑠山紹瑾の頂相で自賛もあり珍重さ れる作品である。
国	絵画	板絵著色 弥勒来迎図・弥勒浄土 図	いたえちゃくしよく みろくら いごうず・みろくじょうどず	附)板絵著色弥 勒浄土図断片 1面 (金堂来迎壁)	2面	S30.2.2	横浜市	称名寺(金 沢区金沢町 212-1)	称名寺	H22.6.29追加 指定	鎌倉時代。称名寺本堂の来迎壁に、黄土 と白土で下地を作り、表裏に弥勒来迎図と 弥勒浄土図を描いたものである。

絵画

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国	絵画	絹本着色 十王図	けんぼんちゃくしよく じゅうおうず		10幅	S38.2.14	横浜市	県立歴史博物館(中区南仲通5-60)	神奈川県		宋時代。十王図の構成としては筆致もしっかりしており、特に平等王の幅を持った図柄はめずらしいものである。
国	絵画	絹本墨画淡彩 十六羅漢像	けんぼんぼくがたんさい じゅうろくらかんず		16幅	S48.6.6	横浜市	称名寺(金沢区金沢町212-1)	称名寺		元時代。本像は禅月様のもので、描線にはあまり肥瘦がないが、時おり強まり筆の返しを見せるものである。
国	絵画	絹本着色 北条実泰像	けんぼんちゃくしよく ほうじょうさねやすぞう	東明恵日の賛がある	1幅	H元.6.12	横浜市	称名寺(金沢区金沢町212-1)	称名寺	S46.3.30県指定	鎌倉時代。上置に坐す僧形の肖像画で、金沢文庫を創設した北条実時の父、実泰と考えられる。
国	絵画	絹本着色 審海像	けんぼんちゃくしよく しんかいぞう		1幅	H7.6.15	横浜市	称名寺(金沢区金沢町212-1)	称名寺	S46.3.30県指定	称名寺の開山、妙性房審海の画像。鎌倉時代の著名な律僧の肖像画として重要である。
国	絵画	絹本着色 忍性像	けんぼんちゃくしよく にんしょうぞう		1幅	H11.6.7	横浜市	称名寺(金沢区金沢町212-1)	称名寺	S42.2.3県指定	鎌倉時代末。大衣を着し、法被をかけた椅子に坐し、両手に弘子をとする像容で描かれ、保存は良好である。
国	絵画	紙本着色 花鳥人物図 等春筆六曲屏風(十一図)	しほんちゃくしよく かちょう じんぶつず とうしゅんひ つるつきよびょうぶ(じゅういちず)	各扇に景徐周麟の賛がある	1双	S63.6.6	川崎市	寺田倉庫棟(品川区東品川12-6-10)	個人	H17.8.1所有者変更に伴い東京都から移入	
国	絵画	絹本着色 仏涅槃図	けんぼんちゃくしよく ぶつねはんず		1幅	M32.8.1	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	円覚寺(山ノ内409)		南北朝時代。通途の図様の涅槃図である。
国	絵画	絹本着色 虚空蔵菩薩像	けんぼんちゃくしよく こくぞうぼさつぞう		1幀	M32.8.1	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	円覚寺(山ノ内409)		鎌倉時代末期。月輪中宝蓮座上に跏趺する虚空蔵菩薩。大和絵の手法を基調に多分に宋元様式を加味する。
国	絵画	絹本着色 五百羅漢像	けんぼんちゃくしよく ごひゃくらかんぞう		33幅	M32.8.1	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	円覚寺(山ノ内409)	S43.2.2名称変更	北宋時代。張思恭筆と伝えるが、詳細は不明である。背景にある樹石の表現は保守的な北宋山水画風である。
国	絵画	絹本着色 十六羅漢像	けんぼんちゃくしよく じゅうろくらかんぞう		8幅	M32.8.1	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	建長寺(山ノ内8)	S43.2.2名称変更	室町時代。各幅にそれぞれ羅漢二人を大きく描く。中国画風の画風を顕著にそなえている。
国	絵画	絹本着色 釈迦三尊像	けんぼんちゃくしよく しゃかさんぞんぞう		1幅	M32.8.1	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	建長寺(山ノ内8)	S43.2.2名称変更	宋時代。総体に細微に彩色を施した、13世紀頃の宋朝風の華麗な絵である。
国	絵画	紙本淡彩 頼焼阿弥陀縁起	しほんたんさい ほほやきあみだえんぎ		2巻	M33.4.7	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	光触寺(十二所793)		鎌倉時代。本尊の阿弥陀如来像に関する伝説の絵巻物。
国	絵画	絹本着色 大覚禅師像	けんぼんちゃくしよく だいがくぜんじぞう	霊石如芝の賛がある	1幅	M38.4.4	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	建長寺(山ノ内8)		元時代。大まかな筆致でよく禅師の風貌を描出している。もと京都南禅寺金地院にあったといわれている。
国	絵画	絹本着色 夢窓国師像	けんぼんちゃくしよく むそうこくしぞう	自賛がある	1幅	M39.4.14	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	黄梅院(山ノ内428)		室町時代。夢窓疎石は南北朝時代きっての名僧で、全国的に活躍したが鎌倉においても多数の寺で一世を風靡した。
国	絵画	絹本墨画 観音像	けんぼんぼくが かのんぞう		32幅	M41.4.23	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	建長寺(山ノ内8)		鎌倉時代。絵は全体に古風な印象がある。岩や水流、草木を水墨画法で描き、くつろいだ姿勢の観音を配する。

絵画

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国	絵画	紙本墨画 喜江禅師像	しほんぼくが きこうぜんじぞう	玉隠叟英の賛がある	1幅	M41.4.23	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	建長寺(山ノ内8)		室町時代。喜江禅師の伝記は不明だが、画面上部に玉隠英 明応9年の賛があり、その事蹟にふれている。
国	絵画	絹本著色 当麻曼荼羅図	けんぼんちゃくしよく たいままだらぞう		1幅	M41.4.23	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	光明寺(材木座6-17-19)		鎌倉時代後期。形状は通途の当麻曼荼羅と同じだが、その寸法は原本の9分の1で九分一曼荼羅とも言われる。
国	絵画	紙本著色 浄土五祖絵伝	しほんちゃくしよく じょうどごそえでん	嘉元第三暦 伝々の奥書がある	1巻	M41.4.23	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	光明寺(材木座6-17-19)		鎌倉時代。中国浄土宗の祖師5人の伝歴を描いた絵巻。中国水墨画の筆致を学んだと思われる表現がある。
国	絵画	絹本著色 十八羅漢及僧像	けんぼんちゃくしよく じゅうはちらかんおよびそうぞう		19幅	M41.4.23	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	光明寺(材木座6-17-19)		鎌倉時代。総体に剥落は少なく、比較的厚での彩色もよく残っている。
国	絵画	絹本著色 被帽地藏菩薩像	けんぼんちゃくしよく ひぼじぞうぼさつぞう		1幅	M41.4.23	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	円覚寺(山ノ内409)	S37.2.2 名称変更	元時代。頭に頭巾を被った半迦の地藏の下に、宮人、比丘を対い合せ、その中間に獅子を配した構図の例。
国	絵画	絹本著色 仏光国師像	けんぼんちゃくしよく ぶっこうこくしぞう	弘安七年九月の自賛がある	1幅	T2.4.14	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	円覚寺(山ノ内409)		鎌倉時代。円覚寺開山無学祖元の頂相で図上の自賛の弘安7年は歿する2年前に当たる。
国	絵画	紙本淡彩 跋陀婆羅像(宗淵筆)	しほんたんさい ぱつたばらぞう(そうえんひつ)		1幅	T2.4.14	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	円覚寺(山ノ内409)		室町時代。十六羅漢中第六番目の跋陀婆羅の画。
国	絵画	紙本淡彩 鍾馗図(山田道安筆)	しほんたんさい しょうきず(やまだどうあんひつ)		1幅	T14.4.24	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	円覚寺(山ノ内409)		室町時代。紙本淡彩。頭冠の鍾馗像。右方に方形重廓朱文「山田道」の印がある。
国	絵画	紙本著色 玉隠和尚像	しほんちゃくしよく ぎょくいんおしょうぞう	自賛がある	1幅	T14.4.24	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	明月院(山ノ内189)		室町時代。頂相画として、豊富な色彩をした宋風の肖像。上部に玉隠の自賛文がある。
国	絵画	絹本著色 之庵和尚像	けんぼんちゃくしよく しあんなおしょうぞう	元弘三年の自賛がある	1幅	S11.5.6	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	帰源院(山ノ内416)		南北朝時代。曲家に法被をかけて右手に中圭をもった肖像画。七言古詩のあとに自賛を入れてある。
国	絵画	紙本淡彩 送海東上人帰国図	しほんたんさい おくるかいとうしょうにんきこくず	鐘唐傑並に寶從周の賛がある	1幅	S15.5.3	鎌倉市	常盤山文庫(笹目町4-3)	公益財団法人常盤山文庫		南宋時代。古来より栄西禅師帰国図として著名であるが確証はない。
国	絵画	紙本淡彩 帰郷省親図	しほんたんさい ききょうしょうしんず	恵森等十三僧の賛がある	1幅	S16.7.3	鎌倉市	常盤山文庫(笹目町4-3)	公益財団法人常盤山文庫		室町時代。室町時代初期に盛行した詩画軸の代表例の一つである。
国	絵画	紙本金地著色 犬追物図 六曲屏風	しほんきんじちやくしよく いぬおもうものず(ろつきよくびょうぶ)		1双	S31.6.28	鎌倉市	常盤山文庫(笹目町4-3)	公益財団法人常盤山文庫		桃山時代。犬追物とその見物人を描いた屏風で、犬追物の古式を示す点で史的価値も高く、風俗画の遺例として注目される。
国	絵画	絹本著色 柿本人麿像(詫摩栄賀筆)	けんぼんちゃくしよく かきのもとひとまるぞう(たくまえいがひつ)	性海霊見八十一歳の賛がある	1幅	S32.2.19	鎌倉市	常盤山文庫(笹目町4-3)	公益財団法人常盤山文庫		室町時代。友之装束の狩衣に風竹烏帽子をいたたく人麿像。朱文長方形印で「栄賀」の印がある。
国	絵画	絹本著色 大覚禅師像(経行像)	けんぼんちゃくしよく だいがくぜんじぞう(きんひんぞう)		1幅	S48.6.6	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	建長寺(山ノ内8)		鎌倉時代。自賛像に比べ静寂で繊細な画境を示す。画面はかなり燻んでいる。

絵画

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国	絵画	紙本著色 浄土五祖絵(善導巻)	しほんちゃくしよく じょうど ごそえ(ぜんどうかん)		1巻	S50.6.12	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	光明寺(材木 座6-17-19)	S33.1.14県指 定 S50.6.12名称 変更	鎌倉時代。本絵巻はこの善導の言行を語り 図示しているものである。
国	絵画	紙本墨画 拾得図	しほんぼくが じゅつとくず	虎岩浄伏の賛 がある	1幅	S51.6.5	鎌倉市	常盤山文庫 (笹目町4-3)	公益財団法人 常盤山文庫		元時代。禅画独特な減筆体の描法で、殊 に画風の描き方がすぐれている。
国	絵画	紙本墨画 叭々鳥図(雪村筆)	しほんぼくが ははちょう ず(せつそんひつ)	天文二十四年 九月四印道人 の賛がある	1幅	S52.6.11	鎌倉市	常盤山文庫 (笹目町4-3)	公益財団法人 常盤山文庫		室町時代。本図には四印道人惠蒙なる人 の著賛がある。
国	絵画	絹本著色 八字文殊曼荼羅図	けんぼんちゃくしよく はち じもんじゅまんだらず		1幅	H7.6.15	鎌倉市		個人		鎌倉時代始めの八字文殊曼荼羅図として 現在最古の遺品。
国	絵画	絹本著色 後醍醐天皇御像	けんぼんちゃくしよく ごだ いごてんのうおんぞう		1幅	M33.4.7	藤沢市	清浄光寺 (西富1-8-1)	清浄光寺		室町時代。画面上部に三社明神号を記し、 冠をつけ、礼服上に袈裟をまとして、五鈷 鈴を手に持つ異形の画。
国	絵画	絹本著色 一向上人像	けんぼんちゃくしよく いっ こうしょうにんぞう		1幅	S34.6.27	藤沢市	清浄光寺 (西富1-8-1)	清浄光寺	S29.7.27県指 定	南北朝時代。粗衣をまとして遊行念仏して いる姿を、いきいきとした描線で写實的に 描いた優品。
国	絵画	絹本著色 阿弥陀如来像	けんぼんちゃくしよく あみ だによらいぞう		1幅	M32.8.1	小田原 市	東京国立博 物館(東京 都台東区上 野公園13-9)	報身寺 (南町3-11-3)		鎌倉時代。独尊の阿弥陀如来が雲にのっ て来迎するさまを表した来迎図である。
国	絵画	絹本淡彩 北条早雲像	けんぼんたんさい ほう じょうそうんぞう		1幅	M41.4.23	箱根町	早雲寺 (湯本405)	早雲寺		室町時代。上置に坐し向かって右斜向き僧 形の北条早雲を描いたものである。
国	絵画	紙本著色 箱根権現縁起	しほんちゃくしよく はこね ごんげんえんぎ		1巻	S11.5.6	箱根町	箱根神社 (元箱根80-1)	箱根神社		鎌倉時代。箱根権現の縁起をかきつづ つたもの。永仁の再興時の作といわれる。
国	絵画	紙本著色 紫式部日記繪詩残闕	しほんちゃくしよくむらさき しきぶにっきえことばざん けつ		1幅	S27.7.19	不明 (鎌倉市)		不明	(愛知県より流入 後)H5.1.16所有者 変更 H7.12.24所 所有者、所在場所 変更	紫式部が中宮彰子に仕えた期間のうち、 寛弘五年七月から約一年半にわたる生活 等を記した「紫式部日記」の繪詩の一部、 (* H17.11.18付け文化庁通知により手続 が完了し本県所在の重要文化財となる。)
県	絵画	板絵著色 山桜図 安藤広重筆	いたえちゃくしよく やまざく らず あんどうひろしげひ つ		8面	S33.1.14	横浜市	泉谷寺(港 北区小机町 256)	泉谷寺		江戸時代。広重の肉筆により八面の板戸 に堂々と山桜を描いた大作で、「一立弁広 重画」と歎するものである。
県	絵画	絹本著色 千手観音二十八部衆像	けんぼんちゃくしよく せん じゅかんのんにじゅうはち ぶしゅうぞう		1幅	S34.3.6	横浜市	弘明寺(南 区弘明寺町 267)	弘明寺		鎌倉時代後期。十一画四十二臂の千手観 音を中心にしてその左右に二十八部衆を あらかず画面構成のものである。
県	絵画	絹本著色 両界曼荼羅図	けんぼんちゃくしよく りょう かいまんだらず		2幅	S36.4.18	横浜市	宝生寺(南 区堀ノ内1-68)	宝生寺		鎌倉時代末。この曼荼羅は素描画風な趣 を具えているもので、所々に切金を使った 痕跡があるものである。
県	絵画	絹本著色 僧形八幡神像	けんぼんちゃくしよく そう ぎょうはちまんしんぞう		1幅	S42.2.3	横浜市	称名寺(金 沢区金沢町 212-1)	称名寺		鎌倉時代後期。衲衣をつけた老比丘の姿 に描かれ、左手に水精念珠、右手には六 輪錫杖を持つ。頭上の日輪は現在は欠失 している。

絵画

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
県	絵画	絹本着色 伝南山和尚像	けんぼんちやくしよく でん なんざんおしょうぞう		1幅	S42.2.3	横浜市	称名寺(金 沢区金沢町 212-1)	称名寺		鎌倉時代後期。袈裟を環でつり法被をかけた椅子に坐し、両手に払子をとり傍らには合掌する侍衛の天部一人を描くものである。
県	絵画	絹本着色 伝靈芝和尚像	けんぼんちやくしよく でん れいしおしょうぞう		1幅	S42.2.3	横浜市	称名寺(金 沢区金沢町 212-1)	称名寺		鎌倉時代後期。茶褐色の法衣をまとう僧像で、右手に筆、左手に巻物をとる姿に描き傍らには硯をささげる侍童一人を描くものである。
県	絵画	絹本着色 種子愛染明王図	けんぼんちやくしよく しゅ じあいぜんみょうおうず		1幅	S42.2.3	横浜市	称名寺(金 沢区金沢町 212-1)	称名寺		鎌倉時代後期。二重框座に宝瓶を置き、その上に大月輪があり、月輪内に蓮華座を置きその上に愛染明王の種子を大書する。
県	絵画	絹本着色 焰魔天曼荼羅図	けんぼんちやくしよく えん まてんまんだらず		1幅	S42.2.3	横浜市	称名寺(金 沢区金沢町 212-1)	称名寺		鎌倉時代後期。内院中央水牛に左脚を垂下し、右手肘を屈し仰装し左手に檀努幢も執り、真正面を向いて坐す焰魔天を図するものである。
県	絵画	絹本着色 三千佛像	けんぼんちやくしよく さん ぜんぶつぞう		1幅	S42.2.3	横浜市	称名寺(金 沢区金沢町 212-1)	称名寺		南北朝時代。三千佛は一幅本と三幅本とがあり、称名寺本はもと三幅本だったと思われるが、現在は二幅となっている。二幅共に中央に一画区を設けて代表尊を大寫するものである。
県	絵画	絹本着色 千体佛像	けんぼんちやくしよく せん たいぶつぞう		2幅	S42.2.3	横浜市	称名寺(金 沢区金沢町 212-1)	称名寺		南北朝時代。中央区画の三体の本尊は、共に数段の框を重ねた蓮華座上に結跏し、何れも通肩で袈裟を着けて、描かれているものである。
県	絵画	絹本着色 石清水八幡宮図	けんぼんちやくしよく いわ しみずはちまなくうず		1幅	H7.2.14	横浜市	県立歴史博 物館(中区 南仲通5- 60)	神奈川県		鎌倉時代の作。京都八幡町の石清水八幡宮の本殿での出来事を描いている。
県	絵画	紙本墨画淡彩 一遍上人像	しほんぼくがたんさい いっぺんしょうにんぞう		1幅	H7.2.14	横浜市	県立歴史博 物館(中区 南仲通5- 60)	神奈川県		南北朝時代の作。念仏札をさし出す図柄の古い例として優れた作品。
県	絵画	紙本着色 花鳥図 賢江祥啓筆	しほんちやくしよく かちょう ず けんこうしょうけいひつ		1幅	H10.2.17	横浜市	県立歴史博 物館(中区 南仲通5- 60)	神奈川県		室町時代。建長寺の僧賢江祥啓の作で中国南宋時代の画風、日本の花鳥図の最初期の作品。
県	絵画	絹本着色 高僧像	けんぼんちやくしよく こう そうぞう		1幅	H11.2.12	横浜市	称名寺(金 沢区金沢町 212-1)	称名寺		南北朝時代。法被をかけた椅子に袈裟を着し、手に払子をもって座した僧の像で、傍らに角髪を結って袋を下げる童子が描かれている。
県	絵画	紙本金地著色 鳥合わせ図屏風	しほんきんじちやくしよく と りあわせずびょうぶ		6曲1双	S59.11.22	川崎市	長念寺(多 摩区登戸 1416)	長念寺		江戸時代。伝承によれば、永徳筆というが不明、めずらしい主題である鳥の鳴きくらべを描いている。
県	絵画	紙本淡彩 十六羅漢図 久隅守景筆	しほんたんさい じゅうろく らかんず くすみもりかげ ひつ		16幅	S33.1.14	相模原 市	光明寺(緑 区青山 2591)	光明寺		江戸時代。十六幅の中の一冊に「守景筆」の落款があり狩野探幽門下の久隅守景の作と知られている。
県	絵画	絹本着色 夢窓疎石像	けんぼんちやくしよく むそ うそせきぞう		1幅	H19.2.9	相模原 市	県立歴史博 物館(中区 南仲通5- 60)	光明寺(緑区 青山2591)		優れた画質を有する南北朝時代の絵画で、月江正印の筆跡を画上に持ち、留学僧による請贊の経緯が分かることなどの諸点において、夢窓の頂相のなかで極めて重要な作品。

絵画

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
県	絵画	絹本着色 熊野権現影向図	けんぼんちゃくしよく くまのこんげんようごうず		1幅	S34.3.6	相模原市	正念寺(緑区名倉3967)	正念寺		室町時代中期。熊野権現の本地仏である阿弥陀如来が来迎印を結び山上にわきあがる雲より来迎する図である。
県	絵画	絹本着色 花鳥図	けんぼんちゃくしよく かちょうず		2幅	S28.12.22	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	報国寺(浄明寺2-7-4)		明時代。花、鳥、虫の細部にいたるまで実に刻銘に描写され、写生画として立派になりたつものである。
県	絵画	絹本着色 五百羅漢図	けんぼんちゃくしよく ごひゃくらかんず		16幅	S28.12.22	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	円覚寺(山ノ内409)		室町時代。一幅に十羅漢ずつ描いたもので、構図的にもかなり堅実な手法で細部に至るまで丁寧に描かれている。
県	絵画	絹本着色 十六羅漢図	けんぼんちゃくしよく じゅうろくらかんず		16幅	S28.12.22	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	円覚寺(山ノ内409)		鎌倉時代末期。宋元の新様の混入が認められるもので、十六幅を完備して全図様を知り得る貴重なものである。
県	絵画	絹本着色 仏鑑禪師像図	けんぼんちゃくしよく ぶつかんぜんじぞうず	東陵永瑱の賛がある	1幅	S29.7.27	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	円覚寺(山ノ内409)		鎌倉時代。「仏鑑禪師」は無準師範といひ禪師号は皇帝からの徽号である。衲衣に袈裟をかけた姿で描かれている。
県	絵画	絹本着色 羅漢図	けんぼんちゃくしよく らかんず		1幅	S29.7.27	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	報国寺(浄明寺2-7-4)		室町時代。羅漢像として様式的に特色はないが、背後の衝立に水墨をもって山水画を描いている。
県	絵画	絹本着色 仏涅槃図	けんぼんちゃくしよく ぶつねはんず		1幅	S33.1.14	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	宝戒寺(小町3-5-22)		鎌倉時代。この図の描法は新様を交え、釈尊を囲繞する諸聖衆諸天禽獣等の悲歎憫等の表現も目に余る誇張もなく佳作である。
県	絵画	絹本着色 在中広行像	けんぼんちゃくしよく ざいちゅうこうえんぞう		1幅	S40.5.14	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	報国寺(浄明寺2-7-4)		南北朝時代(嘉慶2年)。当画像は頂相としては珍しく墨画で描かれている。日本墨画の先駆的な作例である。
県	絵画	絹本着色 十六羅漢図	けんぼんちゃくしよく じゅうろくらかんず		16幅	S57.2.9	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	建長寺(山ノ内8)		南北朝～室町時代。背景は描かず尊者を大きく描く。元時代の一群の作品を学んだものと思われる。
県	絵画	紙本着色 長谷寺縁起絵巻	しほんちゃくしよく はせでらえんぎえまき		2巻	S59.11.22	鎌倉市	長谷寺(長谷3-11-2)	長谷寺		室町時代。奈良長谷寺の草創と十一面観音造立の由来を描いたものである。上・中二巻のみで、下巻を欠いている。
県	絵画	絹本着色 二河白道図	けんぼんちゃくしよく にかびやくどうず		1幅	S28.12.22	藤沢市	清浄光寺(西富1-8-1)	清浄光寺		室町時代。善導大師が願往生心をすすめる二河白道の喩えを描いた浄土教の比喩画。
県	絵画	紙本着色 遊行上人縁起絵巻	しほんちゃくしよく ゆぎょうしょうにんえんぎえまき		10巻	S57.2.9	藤沢市	清浄光寺(西富1-8-1)	清浄光寺		室町時代。宗俊によって編集された十巻本の系統に属する。1～4巻に一巻、5～10巻に他阿の事跡を描く。
県	絵画	絹本着色 一遍上人像	けんぼんちゃくしよく いっぺんしょうにんぞう		1幅	H7.2.14	藤沢市	清浄光寺(西富1-8-1)	清浄光寺		鎌倉時代の作。数多い一遍上人像の中で最も有名な作品。
県	絵画	紙本墨画淡彩 一遍上人像	しほんぼくがたんさいいっぺんしょうにんぞう		1幅	H7.2.14	藤沢市	清浄光寺(西富1-8-1)	清浄光寺		室町時代の作。阿弥衣に横線を重ねて描き、衣の質感をだす工夫がされている。
県	絵画	絹本着色 日蓮上人像	けんぼんちゃくしよく にちれんしょうにんぞう		1幅	S33.6.17	小田原市	鎌倉国宝館(鎌倉市雪ノ下2-1-1)	浄永寺(城山2-24-20)		桃山時代。女人成仏を説く日蓮上人の説法画像である。

絵画

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
県	絵画	絹本着色 真言八祖像	けんぼんちゃくしよくしんごんはっそぞう		8幅	H19.2.9	小田原市	宝金剛寺(国府津2038)	宝金剛寺		鎌倉～南北朝時代の祖師像の優品と認められる。また県内に希少な真言八祖像の遺品としても貴重である。
県	絵画	絹本着色 大威徳明王像	けんぼんちゃくしよくだいいとくみょうおうぞう		1幅	S29.3.30	逗子市	神武寺(沼間2-1402)	神武寺		鎌倉時代末期。水上を突進する水牛の背上で忿怒の大威徳明王を描き、「怨敵調伏」の祈願の本尊と思われる。
県	絵画	絹本着色 千手観音像	けんぼんちゃくしよくせんじゅかんのんぞう		1幅	S29.3.30	逗子市	神武寺(沼間2-1402)	神武寺		鎌倉時代末期。十一面四十二臂の立像を画面中央に描き、衣部には切金文様を施し描かれている。
県	絵画	板絵著色 歌川国経筆美人図絵馬	いたえちゃくしよくうたがわくにつねひつびじんずえま		1面	S35.11.4	伊勢原市	上粕屋比々多神社(上粕屋1764)	上粕屋比々多神社		江戸時代(享和2歳12月吉日の年記がある。)。描線は流暢でデッサンは正確ですぐれた手腕で描かれている。
県	絵画	紙本着色 北條氏綱像	しほんちゃくしよくほうじょううじつなぞう		1幅	S42.2.3	箱根町	早雲寺(湯本405)	早雲寺		桃山時代。早雲の長子で本像は藍色の衣をつけ、上げ畳の上は座る姿を描き、顔は細かく入念に描写されている。
県	絵画	紙本着色 北條氏康像	しほんちゃくしよくほうじょううじやすぞう		1幅	S42.2.3	箱根町	早雲寺(湯本405)	早雲寺		江戸時代。氏綱の長子で小田原に城を築いた。この像も氏綱同様の構図で描かれている。
県	絵画	紙本着色 枇杷小禽図	しほんちゃくしよくびわしやうきんず		1幅	S42.2.3	箱根町	早雲寺(湯本405)	早雲寺		室町時代。中国の花鳥図の影響を受けて、細かく描かれている写生的な花鳥図である。
県	絵画	紙本墨画 早雲寺本堂襖絵	しほんぼくが そううんじほんどうふすまえ		38面	S42.2.3	箱根町	早雲寺(湯本405)	早雲寺		江戸時代。本堂襖絵で、竜虎図と山水人物の二種類に分けることが出来る。
県	絵画	紙本墨画 羅漢図	しほんぼくが らかんず		3幅	S42.2.3	箱根町	早雲寺(湯本405)	早雲寺		江戸時代。寺伝では雪村筆と伝えるが不明である。羅漢の衣や岩坐など処々に鋭い筆法や表現が認められる。
県	絵画	紙本墨画淡彩 機婦図	しほんぼくがたんさいきふす		2幅	S59.11.22	箱根町	早雲寺(湯本405)	早雲寺		室町末期～桃山時代。室内で三人の人物が糸を紡いでいる図と、機を織る夫人と糸車を回す人物が描かれた図の二幅からなる。

彫刻

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国宝	彫刻	銅造 阿弥陀如来坐像	どうぞう あみだによらいざぞう		1躯	S33.2.8	鎌倉市	高德院(長谷4-2-28)	高德院	M30.12.28指定	鎌倉時代。像高12.38メートル。鎌倉彫刻の円熟期の傑作。室町時代以降露座。
国	彫刻	厨子入金属製 愛染明王坐像	ずしいりきんぞくせい あいぜんみょうおうざぞう	永仁五年二月廿七日の銘あり	1躯	M43.8.29	横浜市	県立金沢文庫(金沢区金沢町142)	称名寺		鎌倉時代。極めて小型の金銅仏であるが、精緻な技巧を駆使しており、同時代金銅仏技法の一頂点を示す作例である。
国	彫刻	木造 十一面観音立像	もくぞう じゅういちめんかんのりゅうぞう		1躯	T4.8.10	横浜市	弘明寺(南区弘明寺町267)	弘明寺		平安時代。一木造。丸のみの彫痕を表面に残した鉦彫の典型的な作品である。
国	彫刻	木造 弥勒菩薩立像	もくぞう みろくぼさつりゅうぞう	像内に建治二年三月三十日の銘がある。 附)像内納入品 [版本法華経8巻、紙本三劫三千仏撰仏3包(内包紙一紙に弘安元年十一月二日奉籠の記がある)、紙本墨書願文・消息等1括(建治三年四月十三日桑んさい、弘安元年十月十五日及び十一月一日ふちわらの女、弘安元年十一月一日しんくわん、弘安元年十一月一日れん心等の記がある)、版本種子曼荼羅・真言等1巻、木製舍利塔残闕・竹筆等6点]	1躯	T14.4.24	横浜市	称名寺(金沢区金沢町212-1) 附)像内納入品については県立金沢文庫(金沢区金沢町142)	称名寺	S36.6.30追加指定	鎌倉時代。寄木造。頭には華やかな宝冠をかぶり、衣文は波状に刻んで、彩色の上に細かく載金の模様をほどこす装飾性の強い宋風彫刻の典型的な作品である。
国	彫刻	木造 釈迦如来立像(釈迦堂安置)	もくぞう しゃかによらいりゅうぞう(しゃかどうあんち)		1躯	T14.4.24	横浜市	県立金沢文庫(金沢区金沢町142)	称名寺		鎌倉時代(胎内に徳治3年の造像銘)。寄木造。いわゆる清涼寺式釈迦如来の等身の模像である。
国	彫刻	木造 阿弥陀如来及両脇侍像	もくぞう あみだによらいおよびりょうきょうじぞう		3躯	T14.4.24	横浜市	證菩提寺(栄区上郷町1864)	證菩提寺		鎌倉時代。寄木造。定朝様の典型的な藤原末鎌倉初の三尊像である。
国	彫刻	木造 十一面観音立像	もくぞう じゅういちめんかんのりゅうぞう		1躯	S2.4.25	横浜市	県立金沢文庫(金沢区金沢町142)	称名寺		鎌倉時代。寄木造。もと海岸寺の本尊で、明治40年にこの寺が称名寺に合併された時移座された。
国	彫刻	木造 釈迦如来立像	もくぞう しゃかによらいりゅうぞう		1躯	S8.1.23	横浜市	真福寺(青葉区荏田町432-8)	真福寺		鎌倉時代。寄木造。清涼寺式釈迦如来像。切れ長の眉や眼、固く結んだ唇などに個性的な表情が認められる。
国	彫刻	木造 舞楽面(陵王、抜頭)	もくぞう ぶがくめん(りょうおう、ぱっとう)		2面	H12.12.4	横浜市	瀬戸神社(金沢区瀬戸18-14)	瀬戸神社		鎌倉時代。舞楽の面だが、神楽や雨乞いにも使われたと考えられる。

彫刻

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国	彫刻	木造 大威徳明王像(運慶作)、像内納入品	もくぞう だいいいとくみょうおうぞう(うんけいさく)、ぞうないのうにゅうひん	像内納入品 一、蓮実製舍利容器1口 一、大威徳種子・梵字三身真言・梵字愛染真言・梵字千手陀羅尼 1巻 建保四年十一月、源氏大式殿、法印運慶の奥書がある	1軀、1口・1巻	H20.7.10	横浜市	県立金沢文庫(金沢区金沢町142)	光明院(金沢区金沢町215)		数少ない運慶の真作として、さらに運慶最晩年の作として極めて重要。像内納入品は蓮実製舍利容器1口と文書1巻で、文書の奥書から本像が建保4年(1216)運慶作と判明し、運慶と鎌倉幕府との緊密な関係が裏付けられるなど、歴史的に見ても貴重。
国	彫刻	木造 薬師如来両脇侍像	もくぞう やくしにょらいりょうきょうじぞう		3軀	M33.4.7	川崎市	影向寺(宮前区野川419)	影向寺		平安時代。一木造。量感に富むが、全体に彫り口は浅く、地方的な一種荒い作風を示す。
国	彫刻	木造 阿弥陀如来及両脇侍像(運慶作)	もくぞう あみだにょらいおよびりょうきょうじぞう(うんけいさく)	各の像内に梵字宝篋印陀羅尼等の記がある。附)木造月輪形銘札3枚	3軀	T15.4.19	横須賀市	浄楽寺(芦名2-30-5)	浄楽寺	S50.6.12 追加指定	鎌倉時代。寄木造。内割部に毘沙門天像の胎内銘札と同筆で陀羅尼呪文が書かれており、運慶一派の手によってつくられたものと思われる。
国	彫刻	木造 菩薩立像	もくぞう ぼさつりゅうぞう		1軀	S47.5.30	横須賀市	満願寺(岩戸1-4-9)	満願寺		鎌倉時代。寄木造。運慶様の堂々たる量感をもった像。宋風様式に先行する作品である。
国	彫刻	木造 地藏菩薩立像	もくぞう じぞうぼさつりゅうぞう		1軀	S47.5.30	横須賀市	満願寺(岩戸1-4-9)	満願寺		鎌倉時代。寄木造。像の表現は菩薩像とほとんど共通し、同一作家の手によるものと考えられる。
国	彫刻	木造 不動明王・毘沙門天立像(運慶作)	もくぞう ふどうみょうおう・びしゃもんでんりゅうぞう(うんけいさく)	附)木造月輪形銘札2枚(各に種子、梵字宝篋印陀羅尼及び文治五年三月廿日平義盛芳縁小野氏、大仏師興福寺内相応院勾当運慶、執筆尋西等の記がある)	2軀	S50.6.12	横須賀市	浄楽寺(芦名2-30-5)	浄楽寺	S38.9.20 県指定	鎌倉時代。寄木造。玉眼、ずんぐりとしたプロポーションの造形。胎内の銘札により和田義盛夫婦を願主として運慶により造られたことが判明。
国	彫刻	木造 三浦義明坐像(御霊明神社安置)	もくぞう みうらよしあきざぞう(ごれいみょうじんじゃあんち)		1軀	H5.1.20	横須賀市	満昌寺(大矢部1-15-10)	満昌寺		鎌倉時代末期の作。神格化されたやや異質な武人俗体肖像彫刻の古例として注目される。
国	彫刻	木造 観音菩薩坐像	もくぞう かのんのぼさつざぞう		1軀	H10.6.30	横須賀市	清雲寺(大矢部5-9-20)	清雲寺	H3.2.8 県指定	南宋時代。京都泉涌寺の木造観音菩薩坐像とともに、わが国に遺存する南宋彫刻の代表的作例。
国	彫刻	木造 十二神将立像	もくぞう じゅうにしんしょうりゅうぞう		12軀	H24.9.6	横須賀市	東京国立博物館(東京都台東区上野公園13-9)	曹源寺	S41.7.19 県指定	鎌倉時代。作風から運慶周辺の仏師によるものと考えられる。12軀が完存し保存状態がよいことや、図像的に東国の十二神将像の起点となる特徴を具えていることでも注目される。

彫刻

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国	彫刻	木造 不動明王立像	もくぞう ふどうみょうおうりゅうぞう		1躯	S8.1.23	平塚市	八剣神社 (下吉沢712)	八剣神社		平安時代。一木造。藤原様式の優美な像。製作は非常に優れ、中央から移入されたとの説もある。
国	彫刻	木造 北条時頼坐像	もくぞう ほうじょうときよりざぞう		1躯	M32.8.1	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	建長寺 (山ノ内8)		鎌倉時代。寄木造。五代執権で建長寺開基である時頼の俗体武人像。強装束の臍部は簡潔にまとめられる。
国	彫刻	木造 上杉重房坐像	もくぞう うえすぎしげふさざぞう		1躯	M32.8.1	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	明月院 (山ノ内189)		鎌倉時代。寄木造。烏帽子狩衣姿の俗体武士姿の肖像彫刻である。
国	彫刻	木造 地藏菩薩坐像	もくぞう じぞうぼさつざぞう		1躯	M32.8.1	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	浄智寺 (山ノ内1402)		鎌倉時代。寄木造。運慶作品の影響が色濃く認められるが、全体に形式化された感じが強い。
国	彫刻	木造 十一面観音立像(伝僧円仁作)	もくぞう じゅういちめんかんのりゅうぞう(でんそうえんにんさく)		1躯	M32.8.1	鎌倉市	杉本寺(二階堂903)	杉本寺		鎌倉時代。寄木造。表現にかなり古様が認められ、神経の細かくゆきとどいた作品である。
国	彫刻	木造 十一面観音立像(伝僧源信作)	もくぞう じゅういちめんかんのりゅうぞう(でんそうげんしんさく)		1躯	M32.8.1	鎌倉市	杉本寺(二階堂903)	杉本寺		鎌倉時代。寄木造。前代藤原様式の名残が認められる堅実な作品である。
国	彫刻	木造 菩薩面	もくぞう ぼさつめん		1面	M33.4.7	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	鶴岡八幡宮 (雪ノ下2-1-31)		鎌倉時代。檜材製。表は布貼りサビ下地に漆箔で造られ、自然味の強い目鼻だちのまとめ方は鎌倉時代の菩薩像をみる思いがする。
国	彫刻	木造 聖観音立像	もくぞう しょうかんのりゅうぞう		1躯	M33.4.7	鎌倉市	東慶寺(山ノ内1367)	東慶寺		鎌倉時代。寄木造。土紋附で高く結い上げた頭髪などに宋風が認められる。太平寺より移されたと伝えられる。
国	彫刻	木造 地藏菩薩立像	もくぞう じぞうぼさつりゅうぞう		1躯	M41.4.23	鎌倉市	覚園寺(二階堂421)	覚園寺		鎌倉時代。寄木造。像の全体が薫香のためか黒色にかわり、黒地藏と呼ばれ広く信仰を集めている。
国	彫刻	木造 釈迦如来立像	もくぞう しゃかによらいりゅうぞう		1躯	M41.4.23	鎌倉市	極楽寺(極楽寺3-6-7)	極楽寺		鎌倉時代。寄木造。清涼寺式釈迦像の忠実な模造のひとつである。
国	彫刻	木造 釈迦如来坐像	もくぞう しゃかによらいざぞう		1躯	M41.4.23	鎌倉市	極楽寺(極楽寺3-6-7)	極楽寺		鎌倉時代。寄木造。全国でも珍しい転法輪の印を結ぶ。
国	彫刻	木造 不動明王坐像	もくぞう ふどうみょうおうざぞう		1躯	T8.4.12	鎌倉市	極楽寺(極楽寺3-6-7)	極楽寺		平安時代。一木造。通例の不動明王像。大正年間に移入された。
国	彫刻	木造 阿弥陀如来及両脇侍立像	もくぞう あみだにょらいおよびりょうきょうじりゅうぞう		3躯	T12.8.4	鎌倉市	光触寺(十二所793)	光触寺		鎌倉時代。寄木造。寺伝では同寺に伝わっている類焼阿弥陀縁起絵巻に出てるのは本像であるとする。
国	彫刻	木造 十大弟子立像	もくぞう じゅうだいでしりゅうぞう		10躯	T14.4.24	鎌倉市	極楽寺(極楽寺3-6-7)	極楽寺		鎌倉時代。寄木造。鎌倉様式の特徴を示す作。十大弟子像の最後を飾る貴重な一群である。

彫刻

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国	彫刻	木造 地藏菩薩立像	もくぞう じぞうぼさつりゅうぞう		1軀	T14.4.24	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	寿福寺(扇ガ谷1-17-7)		鎌倉時代。一木造。蓮華座まで一木から作り、内割りもないこの時代には珍しい構造の像である。
国	彫刻	木造 阿弥陀如来及両脇侍坐像	もくぞう あみだによらいおよびりょうきょうじざぞう		3軀	T14.4.24	鎌倉市	浄光明寺(扇ガ谷2-12-1)	浄光明寺		鎌倉時代。寄木造。典型的な土紋が多く残る。宋風の強い鎌倉様式の典型作の一つである。
国	彫刻	木造 歡喜天立像	もくぞう かんぎてんりゅうぞう		1軀	T14.4.24	鎌倉市	宝戒寺(小町3-5-22)	宝戒寺		鎌倉時代。寄木造。象頭人身の抱擁する二天像。衣部には土紋が用いられる。
国	彫刻	木造 地藏菩薩坐像	もくぞう じぞうぼさつざぞう	胎内に貞治四年五月造の銘がある	1軀	T15.4.19	鎌倉市	宝戒寺(小町3-5-22)	宝戒寺		南北朝時代(貞治4年の朱書銘あり)。鎌倉地方には珍しい円派の作品である。
国	彫刻	木造 夢窓国師坐像	もくぞう むそうこくしざぞう		1軀	T15.4.19	鎌倉市	瑞泉寺(二階堂710)	瑞泉寺		南北朝時代。寄木造。ほぼ等身大の像。卵形の頭部や撫で肩等、夢窓疎石の身体的特徴を的確に写す頂相彫刻の秀作。
国	彫刻	木造 弁才天坐像	もくぞう べんざいてんざぞう	右足に文永三年九月廿九日造立の銘がある	1軀	T15.4.19	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	鶴岡八幡宮(雪ノ下2-1-31)		鎌倉時代。寄木造。裸形であり、これに衣裳を着け安置する着装像。中原光次が舞楽院に安置した像。
国	彫刻	木造 舞楽面(陵王、散手、貴徳鯉口、貴徳番子、二ノ舞)	もくぞう ぶがくめん(りょうおう、さんじゅ、きとくこいぐち、きとくばんず、にのまい)		5面	T15.4.19	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	鶴岡八幡宮(雪ノ下2-1-31)		鎌倉時代。木造。二ノ舞以外は13世紀中葉を降らぬ作と思われ、当時の舞楽盛行ぶりがしのばれる。
国	彫刻	木造 仏光国師坐像(開山塔安置)	もくぞう ぶっこうこくしざぞう(かいざんとうあんち)		1軀	S2.4.25	鎌倉市	円覚寺(山ノ内409)	円覚寺		鎌倉時代。寄木造。駄部は定型的であるが、鉢の張った頭や穏やかな中にも近寄りたいたい禅像の威風を表す。
国	彫刻	銅造 阿弥陀如来及両脇侍立像	どうぞう あみだによらいおよびりょうきょうじりゅうぞう	中尊の台座に文永八年十月十九日鑄奉、鑄物師加茂延時の刻銘がある	3軀	S2.4.25	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	円覚寺(山ノ内409)	S39.5.26 名称変更	鎌倉時代(文永8年の刻銘)。銅造。いわゆる善光寺式三尊像である。
国	彫刻	木造 惟賢和尚坐像	もくぞう ゆいけんおしょうざぞう	附)紙本墨書惟賢筆 応安五年造像記1通	1軀	S2.4.25	鎌倉市	東京国立博物館(東京都台東区上野公園13-9)	宝戒寺(小町3-5-22)		南北朝時代。寄木造。宝戒寺二世となった惟賢の84歳の寿像。頭部内面に「ちょうけい」の朱書銘がある。
国	彫刻	木造 退耕禅師坐像	もくぞう たいこうぜんじざぞう		1軀	S17.12.22	鎌倉市	浄妙寺(浄明寺3-8-31)	浄妙寺		鎌倉時代。寄木造。通常の頂相の形をとり、衣文はかなり簡略化しているが、面相は個性的である。
国	彫刻	木造 地藏菩薩坐像(本堂安置)	もくぞう じぞうぼさつざぞう(ほんどうあんち)		1軀	S17.12.22	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	伝宗庵(山ノ内483)		鎌倉時代。寄木造。土紋彩色。円覚寺の塔頭、伝宗庵の本尊である。
国	彫刻	木造 東明禅師坐像	もくぞう とうみんぜんじざぞう		1軀	S17.12.22	鎌倉市	白雲庵(山ノ内462)	白雲庵		鎌倉時代。寄木造。通形の頂相彫刻。衣文はかなり簡略化されているが、面貌は老僧の個性をよくとらえている。

彫刻

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国	彫刻	木造 薬師如来及日光・月光菩薩坐像	もくぞう やくしによらいおよびにっこう・がっこうぼさつざぞう	日光菩薩像頭部内に仏師法橋朝祐心永廿九年三月廿一日の銘がある	3軀	S24.2.18	鎌倉市	覚園寺(二階堂421)	覚園寺		鎌倉時代。寄木造。中尊は古様を伝える鎌倉期の作。両脇侍は室町期の朝祐作。宋風の特徴が目立つ作品である。
国	彫刻	木造 弘法大師坐像(本堂安置)	もくぞう こうぼうだいしざぞう(ほんどうあんち)		1軀	S33.2.8	鎌倉市	青蓮寺(手広769)	青蓮寺	S31.8.17 県指定	鎌倉時代。寄木造。着装像で、両膝頭が接ぎ手による特殊な工夫により屈伸でき、鎮大師と称されている。
国	彫刻	木造 初江王坐像・閻魔王坐像・俱生神坐像	もくぞう しょこうおうざぞう・えんまおうざぞう・ぐしょうじんざぞう	初江王坐像は像内に建長三年幸有作の銘がある。附)木造鬼卒立像1軀、木造檀拏幢1基	4軀	S47.5.30	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	円応寺(山ノ内1543)	M33.4.7 指定を統合。 S44.12.2 附)県指定。	初江王坐像：鎌倉時代(墨書で建長三年の銘あり)。寄木造。東国に残る鎌倉彫刻中でも屈指の優品である。 閻魔王坐像：鎌倉時代。寄木造。頭部は鎌倉時代であるがその他は後補、頭部がやや大振りで、誇張された忿怒は力強い。 俱生神坐像：鎌倉時代。寄木造。俱生神とは閻魔王に人間の現世での所業を奏上する神で、動きは十王像に対してひかえ目ではあるが、作風は近い。
国	彫刻	木造 天神坐像	もくぞう てんじんざぞう	像内に弘長元年五月八日荏柄神主平政泰の造立銘がある。附)木造 天神立像1軀	1軀	S52.6.11	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	荏柄天神社(二階堂74)		鎌倉時代。寄木造。等身の神体像。像内には脊椎骨や体毛の数などが書いてある珍しい遺例である。
国	彫刻	木造 高峰頭日坐像	もくぞう こうほうけんいちざぞう	像内に正和四年九月、院恵等の銘がある	1軀	H3.6.21	鎌倉市	正統院(山ノ内92)	正統院	S53.11.17 県指定	鎌倉時代。松の寄木造。玉眼。像主の生前に製作される寿像の数少ない遺例として貴重。
国	彫刻	銅造 薬師如来坐像(鶴岡八幡宮伝来)	どうぞう やくしによらいざぞう(つるがおかはちまんぐうでんらい)		1軀	H5.6.10	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	寿福寺(扇ガ谷1-17-7)		鎌倉時代。本体を均等な厚さに鋳上げる鋳技はすばらしく、当時の一流仏師による製作。
国	彫刻	木造 十二神将立像	もくぞう じゅうにしんしょうりゅうぞう		12軀	H17.6.9	鎌倉市	覚園寺(二階堂421)	覚園寺	S44.12.2 県指定	室町時代。関東地方で活躍した仏師による基準的な作品である。
国	彫刻	木造 阿弥陀如来及両脇侍像龕	もくぞう あみだによらいおよびりょうきょうじぞうがん		1基	H19.6.8	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	英勝寺(扇ガ谷1-16-3)		木造素地。白檀(びやくだん)の板状のブロックを穿って三尊像および光背・台座を彫刻す巧緻な作品で、10世紀末～11世紀初め頃の作。日本製作の檀龕仏(だんがんぶつ)の初期の例であり、日本におけるこの時期の彫檀技術の成熟がうかがえる貴重な作品である。
国	彫刻	木造 伽藍神像	もくぞう がらんじんぞう		5軀	H22.6.29	鎌倉市	建長寺(山ノ内8)	建長寺	S60.11.29 県指定	禅宗寺院の伽藍を守護する伽藍神の一具揃った遺品として最古のものであり、伽藍神像の最も重要な遺品であるのに加え、南宋彫刻のかなり直接的な影響が認められ、鎌倉地方の宋風彫刻を考える上でも見逃せない作例。

彫刻

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国	彫刻	木造 不動明王坐像	もくぞう ふどうみょうおうざぞう		1躯	H24.9.6	鎌倉市	明王院(十二所32)	明王院		鎌倉時代。鎌倉五大堂の本尊、五大明王像の中尊にあたとみられる作例であり、その作者は当代の代表的な仏師の一人、肥後定慶であるとする説がある。
国	彫刻	木造 蘭溪道隆坐像(西来庵開山堂安置)	もくぞう らんけいどうりゅうざぞう(せいらいあんかいざんどうあんち)		1躯	H24.9.6	鎌倉市	建長寺(山之内8)	建長寺	S56.7.17 県指定	鎌倉時代。建長寺開山の中国僧、蘭溪道隆(大覚禪師、1213年~1278年)の肖像で、没年前後の作であると考えられる。深く変化に富んだ衣文など、力強い造形から慶派仏師の手になるとみられてい
国	彫刻	木造 薬師如来坐像	もくぞう やくしによらいざぞう		1躯	S2.4.25	藤沢市	養命寺(城南4-10-35)	養命寺		鎌倉時代(胎内に建久8年の墨書銘)。この地方でつくられたものと思われ、粗放かつ素朴な像である。
国	彫刻	銅造 大日如来坐像	どうぞう だいにちによらいざぞう		1躯	S46.6.22	小田原市	宝金剛寺(国府津2038)	宝金剛寺	S34.3.6 県指定	鎌倉時代。銅造。鑄技はなかなか優秀で体軀は均衡が良く、面貌は整っており、鎌倉前半の金銅仏の代表作である。
国	彫刻	木造 真教坐像	もくぞう しんきょうざぞう		1躯	H17.6.9	小田原市	県立歴史博物館(横浜市中区南仲通5-60)	蓮台寺(国府津1789)		病気のため歪んだ面相を誇張に走ることなく忠実に表現し、厳しい人柄を感じさせる。いくつか残る真教肖像の中で寿像が確認されたことはとりわけ意義深い。
国	彫刻	銅造 阿弥陀如来及両脇侍立像	どうぞう あみだによらいおよびりょうきょうじりゅうぞう		3躯	S34.6.27	茅ヶ崎市	宝生寺(西久保546)	宝生寺		鎌倉時代。銅造。善光寺式阿弥陀三尊。頭頂から足柄までを、両手首を除いて一鑄する。
国	彫刻	木造 阿弥陀如来坐像	もくぞう あみだによらいざぞう		1躯	S36.6.30	厚木市	金剛寺(飯山5456)	金剛寺	S33.6.17 県指定	平安時代。寄木造。定朝様をうけ、全体に洗練された趣がみられる半丈六の像である。
国	彫刻	木造 薬師如来両脇士像	もくぞう やくしによらいりょうきょうじぞう		3躯	M33.4.7	伊勢原市	宝城坊(日向1644)	宝城坊		平安時代。一木造。すべて丸のみで彫り出した規則的な縞模様を見せるいわゆる鉦彫りである。
国	彫刻	木造 阿弥陀如来坐像	もくぞう あみだによらいざぞう		1躯	T6.4.5	伊勢原市	宝城坊(日向1644)	宝城坊		鎌倉時代。寄木造。丈六の像。面部は中世補修のためかすどさに欠けるが、鎌倉彫刻の新様式を示す。
国	彫刻	木造 薬師如来坐像	もくぞう やくしによらいざぞう		1躯	T6.4.5	伊勢原市	宝城坊(日向1644)	宝城坊		鎌倉時代。寄木造。木寄せはやや古式であるが、面相は男性的で鎌倉初頭の作風を示している。
国	彫刻	木造 日光・月光菩薩立像	もくぞう にっこう・がっこうぼさつりゅうぞう		2躯	T14.4.24	伊勢原市	宝城坊(日向1644)	宝城坊		鎌倉時代。寄木造。丈六の三尊像の脇侍と思われる像。彫技は巧みで関東の菩薩像の中では注目される作例である。
国	彫刻	木造 四天王立像	もくぞう してんのうりゅうぞう		4躯	T14.4.24	伊勢原市	宝城坊(日向1644)	宝城坊		鎌倉時代。寄木造。6尺を超す大きな像。作風は慶派に近く、激しい動きを示しながら破綻がない。
国	彫刻	木造 十二神将立像	もくぞう じゅうにしんしょうりゅうぞう		12躯	T14.4.24	伊勢原市	宝城坊(日向1644)	宝城坊		鎌倉時代。寄木造。等身よりやや大きな像。動きがたく、全体にぎこちない感じが強い。

彫刻

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国	彫刻	鉄造 不動明王及二童子像	てつぞう ふどうみょうおうお よびにどうじぞう		3軀	S3.8.17	伊勢原市	大山寺(大 山724)	大山寺		鎌倉時代。鉄造。関東地方に散在する鉄 仏の一つ。両眼に水晶片を嵌入して玉眼 の効果ねらった像である。
国	彫刻	木造 千手観音立像	もくぞう せんじゅかんのん りゅうぞう		1軀	T14.4.24	海老名市	龍峰寺(国 分北2-13- 40)	龍峰寺		鎌倉時代。一木造。いわゆる清水寺式千 手観音像で、一木造にもかかわらず玉眼 を嵌入している。
国	彫刻	木造 薬師如来坐像	もくぞう やくしによらいざぞう		1軀	S2.4.25	大磯町	王福寺(寺 坂639)	王福寺		平安時代。一木造。全体として、古風な つくりの像で、その彫り口からこの地方で 制作されたものと思われる。
国	彫刻	木造 伝了源坐像	もくぞう でんりょうげんざぞう		1軀	H4.6.22	大磯町	善福寺(高 麗1-7-7)	善福寺	S57.8.31 県指定	鎌倉時代。寄木造、玉眼、彩色の技法に なる。浄土系僧侶肖像彫刻の優れた古 例として注目。
国	彫刻	木造 万巻上人坐像	もくぞう まんがんしょうにん ざぞう		1軀	S3.4.4	箱根町	箱根神社 (元箱根80- 1)	箱根神社		平安時代。一木造。翻波式の衣文が巧 みに量感のある像身を引きしめている。 同神社の創祀、僧万巻の像である。
国	彫刻	元箱根磨崖仏	もとはこねまがいぶつ	地蔵菩薩坐像(正安 二年庚子八月八日の 刻銘がある) 地蔵菩薩立像24軀、 阿弥陀如来立像1 軀、供養菩薩立像1 軀(永仁元年八月、 同三年九月等の刻銘 がある)、地蔵菩薩立 像3軀(応長元年七 月八日の刻銘がある)	計29 軀	S49.6.8	箱根町	元箱根	箱根町		鎌倉時代。かつて箱根のこの地は、地蔵 菩薩の霊場で「六道地蔵」、「火焚き地蔵」、 「甘菩薩」など通称される三か所に大き くわかれて所在する。半肉彫の磨崖仏に は「永仁元年」、「永仁三年」などの造像銘 がある。
国	彫刻	木造神像 男神坐像 女神坐像	もくぞう しんぞう (だんしんざぞう、じょしんざ ぞう)		2軀	H24.9.6	箱根町	箱根神社 (元箱根80- 1)	箱根神社		平安時代。一对の男女神像で、目鼻立ち の彫りが共通することなどから同じ作者 の手になると見られる。作風および女神 像の足部(亡失)の接合方法などに11世 紀の特徴を示し、男神の鼻の高い相貌に 外来神としての特色が認められるなどの 点が注目される。
県	彫刻	木造彩色 僧形八幡坐像	もくぞうさいしき そうぎょうは ちまんざぞう		1軀	S29.7.27	横浜市	称名寺(金 沢区金沢町 212-1)	称名寺		鎌倉時代。寄木造。同寺境内の新宮社 に伝わった。表現はかなり個性的で一見 肖像彫刻にすら見える。
県	彫刻	木造 十大弟子立像	もくぞう じゅうだいでしりゅう ぞう		10軀	S29.7.27	横浜市	称名寺(金 沢区金沢町 212-1)	称名寺		鎌倉時代。寄木造。十大弟子像一組が ほぼ完存する貴重な例で、近年まで同寺 釈迦堂でまつられていたものである。
県	彫刻	木造 十一面観音半跏像	もくぞう じゅういちめんかんのん はんかぞう		1軀	S33.6.17	横浜市	慶珊寺(金 沢区富岡東 4-1-8)	慶珊寺		鎌倉時代。寄木造。宋風が強い造像。胎 内に正慶元年院普の朱銘がある。

彫刻

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
県	彫刻	木造 大日如来坐像	もくぞう だいにちによらいざぞう	附)像内納入品 寛永十四年快弁奉納 目録1通、十三仏摺 仏等6点、巻物1括 (中に享保七年理海 納入の記がある)、舎 利2包、香包	1躯	S34.3.6	横浜市	宝生寺(南 区堀ノ内1- 68)	宝生寺		鎌倉時代。寄木造。智拳印を結び結跏趺 坐する通例の金剛界大日如来像で、納 入文書等により慶長6年に覚園寺塔頭か ら移されたことが知られる。
県	彫刻	木造 阿弥陀如来坐像	もくぞう あみだによらいざぞう		1躯	S39.12.15	横浜市	證菩提寺 (栄区上郷 町1864)	證菩提寺		鎌倉時代。寄木造。慶派の流れをくむと 思われる男性的な表現を持った像であ る。
県	彫刻	木造 地藏菩薩立像	もくぞう じぞうぼさつりゅうぞう		1躯	S41.7.19	横浜市	光傳寺(金 沢区六浦3- 2-11)	光傳寺		鎌倉時代。寄木造。胎内に永仁2年増慶 の銘があり、その他各時代の修理銘札 が多数納入されていた。衣文等により写 実性を示す像である。
県	彫刻	木造 聖徳太子立像	もくぞう しょうとくたいしりゅうぞう		1躯	S41.7.19	横浜市	永勝寺(戸 塚区下倉田 町1021)	永勝寺		南北朝時代。寄木造。太子16歳孝養像 で、面部の表現に神経がゆきとどき、衣 文部も巧みに構成されている。
県	彫刻	木造 千手観音立像	もくぞう せんじゅかんのん りゅうぞう		1躯	S41.7.19	横浜市	真福寺(青 葉区荏田町 432-8)	真福寺		平安時代。一木造。十一面八臂の像。頬 のまるみや衣文の浅い彫り口などに藤原 様式を見ることが出来る。
県	彫刻	木造 阿弥陀如来坐像	もくぞう あみだによらいざぞう		1躯	S44.12.2	横浜市	西方寺(港 北区新羽町 2586)	西方寺		平安時代。寄木造。おだやかな表現の藤 原仏で光背を欠くものの、7重の蓮華座 も残されている。
県	彫刻	木造 薬師如来坐像	もくぞう やくしによらいざぞう		1躯	S53.11.17	横浜市	東漸寺(磯 子区杉田1- 9-1)	東漸寺		鎌倉時代。寄木造。作風からも、構造上 からも鎌倉時代初期の本格的な運慶一 派の作例と思われる像である。
県	彫刻	木造 金剛力士立像	もくぞう こんごうりきしりゅう ぞう		2躯	S53.11.17	横浜市	称名寺(金 沢区金沢町 212-1)	称名寺		鎌倉時代(胎内墨書銘に元享3年院興ら 作)。関東における最大の金剛力士像で あり、山門に安置されている。
県	彫刻	木造 薬師如来坐像	もくぞう やくしによらいざぞう		1躯	S58.2.8	横浜市	保木薬師堂 (青葉区美 しが丘西2- 7-2)	保木薬師堂		鎌倉時代。寄木造。玉眼の欠落した穴か ら承久3年の造像銘、寛文10年の修理 銘が判読できる。
県	彫刻	木造 方崖元圭坐像	もくぞう ほうがいげんけいざ ぞう		1躯	S59.11.22	横浜市	金龍院(金 沢区瀬戸 10-12)	金龍院		南北朝時代。寄木造。玉眼嵌入、褐色漆 塗。金龍院開山方崖元圭の肖像彫刻。
県	彫刻	木造 阿弥陀三尊像	もくぞう あみださんぞんぞう	附)頭部内納入品	3躯	H4.11.20	横浜市	宝樹院(金 沢区大道2- 7-1)	宝樹院		平安時代。一木造。時代の特色が顕著。 頭部内から称名寺開山審海の修理願文 などを発見。
県	彫刻	木造 菩薩半跏像	もくぞう ぼさつはんかぞう	附)胎内納入品(布製 五臓六腑等)	1躯	H10.2.17	横浜市	県立歴史博 物館(中区 南仲通5- 60)	神奈川県		南宋時代。日本では数少ない宋代の彫 刻で女性的な風貌に特徴がある。

彫刻

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
県	彫刻	木造 聖観音立像	もくぞう しょうかんのりゅうぞう		1躯	S41.7.19	川崎市	広福寺(多摩区枡形6-7-1)	広福寺		鎌倉時代。寄木造。髪の高く結い上げた宋風を思わせる像である。
県	彫刻	木造 地蔵菩薩立像	もくぞう じぞうぼさつりゅうぞう		1躯	S41.7.19	川崎市	広福寺(多摩区枡形6-7-1)	広福寺		平安時代。寄木造。後世の修理による削り直しが目立つが、全体として平安後期の風が認められる。
県	彫刻	木造 虚空蔵菩薩立像	もくぞう こくぞうぼさつりゅうぞう		1躯	H4.11.20	川崎市	能満寺(高津区千年354)	能満寺		南北朝時代。寄木造。高く結い上げた宝髻、女性的な顔立などに宋元風の特徴が認められる。
県	彫刻	木造 毘沙門天立像	もくぞう びしゃもんでんりゅうぞう		1躯	S35.5.17	横須賀市	清雲寺(大矢部5-9-20)	清雲寺		鎌倉時代。寄木造。小像ながら四肢に力がこもっている。兜を別に作り、頭部に地髪を彫む。彩色にも当初のものを残している。
県	彫刻	木造 薬師如来坐像	もくぞう やくしによらいざぞう		1躯	S41.7.19	横須賀市	最宝寺(野比1-51-1)	最宝寺		鎌倉時代。寄木造。膝前の衣文の複雑な表現が強く、宋風の影響を強く感ぜられる。
県	彫刻	木造 金剛力士立像	もくぞう こんごうりきしりゅうぞう		2躯	H3.2.8	平塚市	光明寺(南金目896)	光明寺		南北朝時代。一木造。量感があり力強い。県下はもちろん、関東においても屈指の作である。
県	彫刻	木造 大日如来坐像	もくぞう だいにちによらいざぞう		1躯	H3.2.8	平塚市	高林寺(四之宮342)	高林寺		鎌倉時代。寄木造。高く結い上げた宝髻、腰部の波状表現などに宋風の影響が認められる。
県	彫刻	木造彩色 阿闍如来坐像	もくぞうさいしき あしゅくによらいざぞう	寺伝薬師如来	1躯	S28.12.22	鎌倉市	覚園寺(二階堂421)	覚園寺		鎌倉時代。寄木造。頭部内面に「元享式季壬戌十二月日法印院興作」「阿闍仏」の墨書銘が発見された。
県	彫刻	木造彩色 水月観音坐像	もくぞうさいしき すいげつかんのんざぞう		1躯	S28.12.22	鎌倉市	東慶寺(山ノ内1367)	東慶寺		南北朝時代。寄木造。絵画的な趣致に富み、また木寄せも細かく巧みであり、女性的な穏やかさがある像である。
県	彫刻	石造 薬師如来像	せきぞう やくしによらいぞう		1躯	S29.3.30	鎌倉市	九品寺(材木座5-13-14)	九品寺		鎌倉時代。石造半肉彫。穏やかな写実性を見せる。光背に「永仁4年丙申」の陰刻銘がある。
県	彫刻	木造 栄西禅師坐像	もくぞう えいさいぜんじざぞう		1躯	S29.3.30	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	寿福寺(扇ガ谷1-17-7)		鎌倉時代。一木割矧ぎ造。栄西禅師の特徴を大づかみにとらえながらも写実性を失っていない。
県	彫刻	木造彩色 如意輪観音半跏像	もくぞうさいしき によいりんかんのんはんかぞう		1躯	S29.7.27	鎌倉市	来迎寺(西御門1-11-1)	来迎寺		南北朝時代。寄木造。衣文の彫り口など少々鈍いが裳の部分には輪宝の文様の土紋が残されている。
県	彫刻	木造 地蔵菩薩坐像	もくぞう じぞうぼさつざぞう		1躯	S29.7.27	鎌倉市	来迎寺(西御門1-11-1)	来迎寺		南北朝時代。寄木造。大振で力強い目鼻たちを示す。宅間浄宏の作と伝えられている。
県	彫刻	木造彩色 地蔵菩薩立像	もくぞうさいしき じぞうぼさつりゅうぞう		1躯	S32.2.19	鎌倉市	浄光明寺(扇ガ谷2-12-1)	浄光明寺		南北朝時代。寄木造。目鼻立ちも整って洗練された美しさを持った像である。
県	彫刻	木造 奪衣婆坐像	もくぞう だつえばざぞう		1躯	S40.5.14	鎌倉市	円応寺(山ノ内1543)	円応寺		鎌倉時代。寄木造。衣文の彫法に正確さがあるが、鎌倉地方仏師の佳作である。

彫刻

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
県	彫刻	木造 薬師三尊像	もくぞう やくしさんぞんぞう		3躯	S41.7.19	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	鎌倉市		平安時代。一木造。全体にとっぴりとした大きさと明るさを見えた像。両脇侍は江戸時代の作と思われる。
県	彫刻	木造 十二神将立像	もくぞう じゅうにしんしょうりゅうぞう		12躯	S41.7.19	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	鎌倉市		鎌倉時代。寄木造。後補と思われる4躯を除いて体躯のバランスと動きはしっかりとした像である。
県	彫刻	塑造 北条時頼坐像	そぞう ほうじょうときよりざぞう		1躯	S41.7.19	鎌倉市	明月院(山ノ内189)	明月院		鎌倉時代。塑造。後世の補修があるが顔面はかなり元の姿をのこしている。
県	彫刻	鉄造 不動明王坐像	てつぞう ぶどうみょうおうざぞう		1躯	S44.12.2	鎌倉市	覚園寺(二階堂421)	覚園寺		鎌倉時代。鉄造。関東地方の鉄仏のなかではもっとも早い作例とされ、穏やかな忿怒相と全体の身のこなしに平安末の特色が強く残る像である。
県	彫刻	木造 阿弥陀如来及び両脇侍立像	もくぞう あみだによらいおよびりょうきょうじりゅうぞう		3躯	S53.11.17	鎌倉市	教恩寺(大町1-4-29)	教恩寺		鎌倉時代。寄木造。穏やかな衣文の刻出や目尻の吊り上がった厳しい表現に快慶風の作風を感ぜられる像である。
県	彫刻	木造 阿弥陀如来及び両脇侍立像	もくぞう あみだによらいおよびりょうきょうじりゅうぞう	附)銅造銘札1枚(天保十年修理銘)、仏説阿弥陀経2冊(天保十年行誓清吟書写奥書あり・妙雲書写の銘記あり)、紙本墨書文書1枚、木造舍利器1個、木造塔型舍利器(包紙添)1個	3躯	S53.11.17	鎌倉市	光明寺(材木座6-17-19)	光明寺		鎌倉時代。寄木造。中尊と脇侍とは作風を異にし、中尊は中央仏師の作風を示す一方、脇侍は宋風を示す像である。
県	彫刻	木造 達磨大師坐像	もくぞう だるまだいしざぞう		1躯	S56.7.17	鎌倉市	寿福寺(扇ガ谷1-17-7)	寿福寺		南北朝時代。寄木造。総体に量感が豊かで、彫りの深い面部は異国的雰囲気や巧みに表現している。
県	彫刻	脱活乾漆造(中尊)・木造(脇侍) 釈迦三尊像	だつかつかんしつぞう(ちゅうそん)・もくぞう(きょうじ)しゃかさんぞんぞう		3躯	S57.2.9	鎌倉市	寿福寺(扇ガ谷1-17-7)	寿福寺		室町時代。中尊脱活乾漆造、脇侍寄木造。中世の乾漆像として極めて稀少な価値をもつものである。
県	彫刻	木造 阿弥陀如来坐像	もくぞう あみだによらいざぞう		1躯	S58.11.25	鎌倉市	覚園寺(二階堂421)	覚園寺		室町時代。寄木造。玉眼嵌入。旧理智光寺の本尊で、鎌倉地方独特の土紋をもつ像である。(鞆阿弥陀)
県	彫刻	木造 文殊菩薩坐像	もくぞう もんじゅぼさつざぞう		1躯	S58.11.25	鎌倉市	常楽寺(大船5-8-29)	常楽寺		鎌倉時代。寄木造。彩色、玉眼嵌入。宋風彫刻の佳作のひとつである。
県	彫刻	木造 観音菩薩半跏像	もくぞう かのんぼさつはんかぞう		1躯	S58.11.25	鎌倉市	禅居院(山ノ内1534)	禅居院		鎌倉時代。漆塗り、玉眼嵌入。彫技は的確で、すぐれた写実性をそなえ、体躯の量感もゆたかな像である。
県	彫刻	木造 梵天・帝釈天立像	もくぞう ぼんてん・たいしゃくてんりゅうぞう		2躯	S58.11.25	鎌倉市	宝戒寺(小町3-5-22)	宝戒寺		南北朝時代。寄木造。玉眼嵌入。唐風の服制になる通行の梵釈像である。

彫刻

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
県	彫刻	木造 三世仏坐像	もくぞう さんぜぶつざぞう		3躯	S60.11.29	鎌倉市	浄智寺(山ノ内1402)	浄智寺		南北朝時代。寄木造、玉眼、肉身部漆地漆箔、着衣部彩色。わが国に伝わる三世仏(釈迦、阿弥陀、弥勒如来)の中でも造立年代の早い佳作である。
県	彫刻	木造 千手観音菩薩坐像	もくぞう せんじゅかんのんぼさつざぞう		1躯	H4.11.20	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	建長寺(山ノ内8)		鎌倉時代。寄木造。県下では珍しい当代理千手観音菩薩像の遺例である。
県	彫刻	木造 毘沙門天立像	もくぞう びしゃもんでんりゅうぞう		1躯	H10.2.17	鎌倉市	白山神社(今泉3-13-20)	白山神社		平安時代後期。鎌倉近辺で造立された作品とみられ県下の貴重な古代彫刻の遺例である。
県	彫刻	木造 阿弥陀如来立像	もくぞう あみだによらいりゅうぞう		1躯	H13.2.13	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	浄妙寺(浄明寺3-8-31)		鎌倉時代。ヒノキ材の割矧ぎ造、玉眼嵌入、金泥塗り仕上げの三尺阿弥陀。鎌倉地方彫刻の成立期の像。
県	彫刻	木造彩色 弁才天坐像	もくぞうさいしき べんざいてんざぞう		1躯	S28.12.22	藤沢市	江島神社(江の島2-3-8)	江島神社		鎌倉時代。寄木造、宋風彫刻の影響を受け複雑な衣文を巧みにまとめている。八臂弁才天坐像としては、もっとも古い例に属する。
県	彫刻	木造 十一面観音立像	もくぞう じゅういちめんかんのりゅうぞう		1躯	S32.2.19	小田原市	勝福寺(飯泉1161)	勝福寺		平安時代。一木造。素地像で髭、眉などを墨で描く。面相部では両頬がゆたかで下ぶくれの藤原朝風の像である。
県	彫刻	木造 不動明王及両童子立像	もくぞう ふどうみょうおうおよびりょうどうじりゅうぞう	附) 不動像内納入品 [経巻(大日経7巻、金剛頂経3巻、蘇悉地経3巻、略法華経1巻、般若心経1巻、般若理趣経1巻、宝篋印陀羅尼経1巻、尊勝陀羅尼経1巻)、永仁二年六月十九日定聖写経目録1通(裏面に延慶二年奉納の記がある)、延慶二年陀闍梨能宴願文1通、天文六年仏舎利奉納文書1通、水晶五輪塔形舎利容器1通、享保寛延修理文書2紙]	3躯	S34.3.6	小田原市	宝金剛寺(国府津2038)	宝金剛寺		鎌倉時代(胎内納入文書に延慶2年)。裳の複雑なひだに鎌倉後半の特色が見られる。通例の不動三尊像である。
県	彫刻	木造 地藏菩薩立像	もくぞう じぞうぼさつりゅうぞう		1躯	S34.3.6	小田原市	宝金剛寺(国府津2038)	宝金剛寺	H17.2.8 附) 木造如意輪観音像1躯を分割	平安時代。一木造。穏やかな表情をもつ像で小像である。
県	彫刻	木造 釈迦如来立像	もくぞう しゃかによらいりゅうぞう		1躯	H4.2.14	小田原市	東学寺(別堀74)	東学寺		南北朝時代。寄木造、彫眼。京都の清涼寺式釈迦像の一つである。

彫 刻

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
県	彫刻	木造 阿弥陀如来立像(その一)	もくぞう あみだによらいりゅうぞう(そのいち)		1躯	H4.2.14	小田原市	本誓寺(城山2-1-24)	本誓寺		鎌倉時代。寄木造、玉眼嵌入。本尊。歯吹き阿弥陀の別名を持ち、両足を穴に差し込む技法。
県	彫刻	木造 阿弥陀如来立像(その二)	もくぞう あみだによらいりゅうぞう(そのに)		1躯	H4.2.14	小田原市	本誓寺(城山2-1-24)	本誓寺		鎌倉時代。寄木造、玉眼嵌入。脇仏。本尊と同系統作家の作品。歯吹き像の条件を満たし貴重。
県	彫刻	銅造 如意輪観音菩薩坐像	どうぞう にょいりんかんのんぼさつざぞう		1躯	H17.2.8	小田原市	宝金剛寺(国府津2038)	宝金剛寺	木造地藏菩薩立像の附)木造如意輪観音像1躯としてS34.3.6に県指定したものを分割	平安時代。小像であるが、儀軌に忠実な像容、太く高い髻や横に丸く張った顔など平安時代初期の密教彫刻の系譜に連なることを示す金銅仏。
県	彫刻	銅造 弁才天坐像	どうぞう べんざいてんざぞう		1躯	S41.10.25	茅ヶ崎市	浄見寺(堤4317)	浄見寺		室町時代。金銅仏。像高11.5センチメートル。江の島弁天信仰につながる遺品と思われる。
県	彫刻	木造 阿弥陀如来立像	もくぞう あみだによらいりゅうぞう		1躯	S56.7.17	逗子市	光照寺(沼間2-20-17)	光照寺		鎌倉時代。寄木造。光触寺の重文阿弥陀如来立像の系統に属する作風だが、総体に穏やかな表現である。
県	彫刻	木造 薬師如来及び両脇侍立像	もくぞう やくしによらいおよびりょうぎょうじりゅうぞう		3躯	S53.11.17	三浦市	天養院(初声町和田1669)	天養院		平安時代。一木造。平安中期11世紀頃の製作と考えられ、県下の仏像の中でも古い作例である。
県	彫刻	木造 大日如来坐像	もくぞう だいにちによらいざぞう		1躯	S49.4.19	秦野市	宝蓮寺(蓑毛674)	宝蓮寺		平安時代。県内最大級の大日如来で、他に四如来を具す五知如来の本尊で後補部も多いが県内ではめずらしい遺作である。
県	彫刻	木造 地藏菩薩坐像	もくぞう じぞうぼさつざぞう	正安元年九月作者院の銘がある	1躯	S33.6.17	厚木市	金剛寺(飯山5456)	金剛寺		鎌倉時代。寄木造(一木割り矧ぎ)。安定感に富んだ姿などを総じて堅実な作風。鎌倉末の関東彫刻の基準作である。
県	彫刻	木造 不動明王立像	もくぞう ふどうみょうおうりゅうぞう		1躯	H3.2.8	厚木市	法雲寺(酒井2471)	法雲寺		平安時代。寄木造。繊細な趣、流麗な衣文表現、浅い彫り口など典型的な藤原期の様式である。
県	彫刻	木造 不動明王坐像	もくぞう ふどうみょうおうざぞう		1躯	S59.11.22	伊勢原市	大山寺(大山724)	大山寺		平安時代。寄木造、彫眼。大山寺二世の光増の作と伝え、護摩所の本尊であったと伝えられている。平安時代後期の特色を示し、全体の繊細な表現は12世紀中葉の作と思われる。
県	彫刻	木造 十二神将立像	もくぞう じゅうにしんしょうりゅうぞう		12躯	H18.2.14	伊勢原市	宝城坊(日向1644)	宝城坊		本堂の内陣に、江戸時代の薬師如来坐像とともに安置されている像高70cm弱の十二神将像で、平安時代後期の卓抜な表現を持つ重要な作品である。
県	彫刻	木造 薬師如来坐像	もくぞう やくしによらいざぞう		1躯	S31.8.17	南足柄市	保福寺(内山1959)	保福寺		鎌倉時代。一木造。彫り口は荒っぽく、単純、明快で地方仏師の手になる像と思われる。

彫刻

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
県	彫刻	木造 十一面観音立像	もくぞう じゅういちめんかんのりゅうぞう		1軀	S31.8.17	南足柄市	保福寺(内山1959)	保福寺		平安時代。一木造。素朴だが伏目がちな眼や小さな口もとなど穏やかな表情を刻む藤原時代の像である。
県	彫刻	木造 兜跋毘沙門天立像	もくぞう とばつびしゃもんでりゅうぞう	附)小仏像群13軀	3軀	S39.12.15	南足柄市	朝日観音堂(怒田2179)	朝日観音堂(上怒田自治会)		平安時代、室町時代。一木造。面相やひきしまった体軀から平安時代と思われる2軀が残されている。
県	彫刻	木造 聖観音立像	もくぞう しょうかんのりゅうぞう		1軀	S39.12.15	南足柄市	朝日観音堂(怒田2179)	朝日観音堂(上怒田自治会)		平安時代。一木造。がっしりとした体軀で、強い顔立ちは平安時代も早い頃の名残を残している。
県	彫刻	木造 地蔵菩薩立像	もくぞう じぞうぼさつりゅうぞう		1軀	S54.2.16	南足柄市	矢倉沢地蔵堂(矢倉沢2391)	矢倉沢地蔵堂(地蔵堂自治会)		鎌倉時代。寄木造。通例の姿をとる地蔵像で、張りのある頬、鋭い複雑な衣文線などに鎌倉様式が認められている。
県	彫刻	木造 地蔵菩薩坐像	もくぞう じぞうぼさつざぞう	像内に建治四年三月十一日の銘がある	1軀	S49.7.12	大磯町	慶覚院(高麗2-9-48)	慶覚院		鎌倉時代(胎内墨書に建治4年)。寄木造。やや粗豪ながら、慶慶に近い関係にあると思われる地蔵菩薩の大作である。
県	彫刻	木造 阿弥陀如来立像	もくぞう あみだによらいりゅうぞう		1軀	S57.8.31	大磯町	善福寺(高麗1-7-7)	善福寺		鎌倉時代。寄木造。Y字型の衣文構成の流麗な線などから、快慶に近い関係にある作家の作と思われる。
県	彫刻	木造 武装神形立像 木造 女神形立像	もくぞう ぶそうしんぎょうりゅうぞう もくぞう じょしんぎょうりゅうぞう		1軀 1軀	H21.2.3	大磯町	六所神社(国府本郷935)	六所神社		平安時代後期(12世紀頃)、一木造。天部の仏像と同形だが、特異な表情を持つため当初から神像として造られた可能性がある。平安時代後期の優れた作品であり、神社に伝来した異色ある彫刻として貴重である。
県	彫刻	木造 薬師如来坐像	もくぞう やくしによらいざぞう		1軀	S62.11.20	大井町	三嶋神社(上大井331)	三嶋神社		鎌倉時代中期。寄木造。玉眼嵌入、肉身部漆箔。関東では数少ない中央風の作品で、後補もごく少なく、当初の状態を良く保っている。
県	彫刻	木造 地蔵菩薩立像	もくぞう じぞうぼさつりゅうぞう		1軀	S38.9.20	箱根町	正眼寺(湯本562)	正眼寺		鎌倉時代(胎内の紙片に康元6年)。寄木造。彫り口はなかなか鋭いが、やや装飾的である。
県	彫刻	木造 普賢菩薩坐像	もくぞう ふげんぼさつざぞう		1軀	S41.7.19	箱根町	興福院(元箱根26)	興福院		鎌倉時代(永仁5年の朱銘)。寄木造。箱根権現の別社能善権現の本地仏。彩色、截金文様もよく残る像である。
県	彫刻	木造 菩薩頭	もくぞう ぼさつとう		1個	S41.7.19	箱根町	興福院(元箱根26)	興福院		平安時代。等身像の頭部だけが残ったもので、整った目鼻立ち、巧みな彫技より中央の作と思われる。
県	彫刻	木造神立像	もくぞうしんりゅうぞう(しんりゅうぞう、だんしんりゅうぞう、じょしんりゅうぞう)		3軀	H25.3.29	箱根町	箱根神社(元箱根80-1)	箱根神社		鎌倉時代後期。一木造。表現および技法の共通性から同時に作られた一揃の作と認められる。神奈川県内でも他に例の少ない鎌倉時代の木造神像として価値が高い。
県	彫刻	木造女神立像	もくぞうじょしんりゅうぞう		1軀	H25.3.29	箱根町	箱根神社(元箱根80-1)	箱根神社		鎌倉時代後期。一木造。唐衣を着け、左手を袖に隠し頭にあてるように上げ、袖を後ろに垂らし舞うような姿である。若々しい相貌と動きのある肢体が巧みに表現されている。

彫刻

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
県	彫刻	木造男神立像	もくぞうだんしんりゅうぞう		1 躯	H25.3.29	箱根町	箱根神社 (元箱根80-1)	箱根神社		鎌倉時代後期。割矧ぎ造。頭部は他像からの転用とみられるが、当初のものである体部は的確な技術によって公卿の束帯姿があらわされている。頭部の制作時期も鎌倉時代のもものとみられる。
県	彫刻	銅造男神坐像	どうぞうだんしんざぞう		1 躯	H25.3.29	箱根町	箱根神社 (元箱根80-1)	箱根神社		鎌倉時代後期。銅造。若々しく穏やかな相貌がみられる作風である。鎌倉時代の本格的な銅造神像として価値が高い。

工 芸

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国 宝	工 芸	雛菊螺鈿時絵硯箱	まがきにきくらでんまきえずりばこ		1合	S26.6.9	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	鶴岡八幡宮 (雪ノ下2-1-31)	M32.8.1 指定	鎌倉時代。被せ蓋造。沃懸地(いかけじ)に螺鈿をあしらった蓋表、蒔絵の蓋裏等精巧な技術を示す。筆、黒柄なども附いている。
国 宝	工 芸	太刀 銘 正恒	たち めい まさつね	附)糸巻太刀拵	1口	S27.3.29	鎌倉市	鶴岡八幡宮(雪ノ下2-1-31)	鶴岡八幡宮	S3.4.4指 定	鎌倉時代。長さ78.3センチメートル。徳川吉宗より奉納された。備中古青江正恒。
国 宝	工 芸	梵鐘	ぼんしょう	円覚寺鐘、正安三年八月、大檀那平貞時、住持宋西澗子曇、大工大和権守物部国光在銘	1口	S28.11.14	鎌倉市	円覚寺 (山ノ内409)	円覚寺	M42.4.5 指定	鎌倉時代(銘に正安3年8月)。全体に量感あふれた鐘で、やや長目の鐘身は力強く張る。鎌倉時代の特徴あふれる名鐘である。
国 宝	工 芸	梵鐘	ぼんしょう	建長寺鐘、建長七年二月廿一日、大檀那平時頼、住持宋沙門道隆題、大工大和権守物部重光在銘	1口	S28.11.14	鎌倉市	建長寺 (山ノ内8)	建長寺	M42.4.5 指定	鎌倉時代(銘に建長7年2月21日)。総体に平安時代の形式を受けた復古的な鐘。銘文の撰文は關漢道隆のものである。
国 宝	工 芸	古神宝類 一、袷白小葵地鳳凰文二重織 一、袷紫地向鶴三盛丸文唐織 一、袷紫地向鶴三盛丸文唐織 一、袷淡香地幸菱文綾織 一、袷黄地窠霞文二重織	こしんぼうるい うちきしらこあおいじほうおうもん ふたえおり うちきむらさきむかいづるみつ もりまるもんからおり うちきむらさきむかいづるみつ もりまるもんからおり うちきたんこうじさいわいびしもん あやおり うちきさじかにあられもんふたえ おり		5領	S31.6.28	鎌倉市	東京国立博物館(東京都台東区上野公園13-9)	鶴岡八幡宮 (雪ノ下2-1-31)	統合 M32.8.1 M33.4.7	鎌倉時代。五領あるが、重ねて着用する「五襲の衣」と考えられる。文の様式などに藤原様式の名残が認められる。
国 宝	工 芸	古神宝類 一、朱漆弓 一、黒漆矢(内籠一筋欠) 一、沃懸地杏葉螺鈿平胡篋 一、沃懸地杏葉螺鈿太刀 一、沃懸地杏葉螺鈿平胡篋 一、沃懸地杏葉螺鈿太刀(鐺欠)	こしんぼうるい しゅうるしゆみ くろうるしや(うちへらひとすじけつ) いかけじぎょうようらでんひらやなぐい いかけじぎょうようらでんたち いかけじぎょうようらでんひらやなぐい いかけじぎょうようらでんたち(つばけつ)		1張 30隻 1腰 1口 1腰 1口	S31.6.28	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	鶴岡八幡宮 (雪ノ下2-1-31)	統合 M32.8.1 M33.4.7	鎌倉時代。社伝に源頼義が社を勧請の時、「石清水の神宝たりしを申し下して奉納す」と伝えられる。
国	工 芸	刺繍 獅子吼文大法被	ししゅう ししくもんだいはっぴ		1枚	M33.4.7	横浜市	總持寺(鶴見区鶴見2-1-1)	總持寺	S43.2.2 名称変更	江戸時代。仏殿の須弥壇上方から垂帳して使用する大型(縦 715センチメートル、横 665センチメートル)の法被である。
国	工 芸	銅鐘	どうしょう	文永己巳仲冬七日の旧銘並に正安辛丑仲和九日の改鑄銘あり	1口	T10.4.30	横浜市	称名寺(金沢区金沢町212-1)	称名寺		鎌倉時代。金沢八景のひとつ称名寺の晩鐘で名高い。形は典型的な鎌倉時代特有の姿をした名鐘である。
国	工 芸	梵鐘	ぼんしょう	東漸、鐘、永仁六年、孟春望日、大工大和権守物部国光在銘	1口	S28.11.14	横浜市	東漸寺(磯子区杉田1-9-1)	東漸寺		鎌倉時代。鐘の上半身が細く見えるため、実際より丈高に見える鐘。国光は当時、関東一円で活躍した鑄工である。

工 芸

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国	工芸	二十八間四方白星兜鉢	にじゅうはちけんしほうじろほしかぶとはち		1頭	S31.6.28	横浜市	県立歴史博物館(中区南仲通5-60)	神奈川県	H6.9.8 所有者変更	鎌倉時代。鉢は鉄板二十八枚を矧ぎ合わせた大円山形(だいえんざんなり)の星兜。
国	工芸	二十四間四方白星兜鉢	にじゅうしけんしほうじろほしかぶとはち		1頭	S32.2.19	横浜市	県立歴史博物館(中区南仲通5-60)	神奈川県	H4.7.31 所有者変更	鎌倉時代。大鎧に付属した兜の鉢で、鉢の周囲の鉢が外観の特徴。
国	工芸	太刀 銘 来国光	たち めい らいくにみつ	梨地金螺鈿蛭巻打刀拵	1口	S33.2.8	横浜市		個人		鎌倉時代。僅かに磨上。徳川家光より島津光久が拝領の品と伝わり、拵はこの折り製作されたと云われる。
国	工芸	金銅装宝篋印塔	こんどうそうほうきょういんとう	(軸部相輪等を欠く) 台座裏に永仁五年二月廿三日の紀年と又五郎藤原秀吉、藤原胤吉等の墨書がある	1基	S35.6.9	横浜市	県立金沢文庫(金沢区金沢町142)	称名寺		鎌倉時代。木心金銅張。現在は、基壇、座盤及び屋蓋の四層部を残すのみである。
国	工芸	色々威腹巻 壺袖付	いろいろおどしはらまき つぼそでつき		1領	S37.2.2	横浜市	県立歴史博物館(中区南仲通5-60)	神奈川県	H4.11.30 所有者変更	室町時代。複数の色使いが色々威と呼ばれるゆえんであり、かつては華やかな色合いであったことがしのばれる。
国	工芸	木製 多宝塔	もくせい たほうとう		1基	S38.7.1	横浜市	三溪園(中区本牧三之谷58-1)	公益財団法人三溪園保勝会		室町時代。舍利塔として造られた為、中央間を広くし、基壇は引き出しにする。多宝小塔として古い例の一つである。
国	工芸	鉞子	ばっし	金沢審海の刻銘がある	1双	S41.6.11	横浜市	県立金沢文庫(金沢区金沢町142)	称名寺		鎌倉時代。打楽器の一種。刻銘により称名寺開祖審海の所持したものと知られる。
国	工芸	玉華鬘	たまけまん		3面	S41.6.11	横浜市	県立金沢文庫(金沢区金沢町142)	称名寺		鎌倉時代。なつめ形の水晶の玉を金銅線で差し連ね、これに金銅の瓔珞を垂らしている。
国	工芸	玉簾	たますだれ		1張	S41.6.11	横浜市	県立金沢文庫(金沢区金沢町142)	称名寺		鎌倉時代。細長いガラス棒を横にならべた簾。楊貴妃の玉簾との伝説がある。
国	工芸	葛箱	つづらばこ		1合	S41.6.11	横浜市	県立金沢文庫(金沢区金沢町142)	称名寺		鎌倉時代。被せ蓋造。葛を編んでつくった文箱である。

工 芸

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国	工芸	黒漆須弥壇 黒漆大壇 黒漆礼盤 黒漆机 黒漆磬架	くろうるししゅみだん くろうるしだいだん くろうるしらいばん くろうるしつぐえ くろうるしけいか	附)黒漆鉦架1基	1基 1基 1基 2基 1基	H元.6.12	横浜市	称名寺(金沢区金沢町212-1)	称名寺	県指定 S44.5.20 S44.12.2	黒漆須弥壇:壇鎌倉時代後期。禅宗様須弥壇。後補部もあるが、上下框の線形や束の部分は創立当時のものと思われる。 黒漆大壇:鎌倉時代後期。方形で壇の四面に蓮弁を彫出する根本様大壇である。 黒漆礼盤:鎌倉時代後期。修法の際導師の牀座する台。前期大壇と一具のものである。 黒漆机:鎌倉時代。室内具の一つで甲板全面を一枚板で作り脚四本を立て、各間に格狭間を設けるやや大型の前机である。 黒漆磬架:鎌倉時代。打楽器の磬を吊る台である。 附)黒漆鉦架:室町時代。室内具の一つで、鉦を吊す台で丸面取りの柱を立て、基台は四方にのびた線形の脚で支えられている。
国	工芸	張良図沈金鞍	ちやうりやうずちんきんぐら		1背	H8.6.27	横浜市	馬の博物館(中区根岸台1-3)	公益財団法人馬事文化財団		室町時代。木製黒漆塗り。中世鞍で唯一、沈金による装飾を施した作品として貴重である。
国	工芸	太刀 銘 秀近	たち めい ひでちか		1口	S25.8.29	横浜市		個人	H21大阪府から移入	平安時代。
国	工芸	太刀 銘 守次 革包太刀拵	たち めい もりつぐ かわづつみたちこしらえ		1口	S30.2.2	横浜市		個人	H24愛媛県から移入	本太刀は南北朝時代のもの。革包太刀拵は太刀 銘守次付属の太刀拵。ほぼ中身と同時代の制作と見られる。
国	工芸	銅 錫杖頭	どう しゃくじやうがしら		1柄	S35.6.9	川崎市		個人		平安時代。鑄銅製。宝塔、十一面観音、脇侍二天、僧形などを鑄出した優作である。
国	工芸	葵梶葉文染分辻が花染小袖	あおいかじはもんそめわけつ じがはなそめこそで		1領	S46.6.22	川崎市	明長寺(川崎区大師本町10-22)	明長寺		桃山時代。綿を薄く入れた袷仕立の小袖で、身幅を広く、袖幅を狭くして振りがなく短い袖の形態に桃山時代の作風があらわれている。
国	工芸	蕨手刀子	わらびてどうす		1口	S51.6.5	川崎市		個人		奈良時代。鎌(きっさき)両刃造。蕨手形茎(わらびでがたなかご)をした伝世の刀子。伝世品として類例は極めて少ない。
国	工芸	黒漆 須弥壇	くろうるし しゅみだん		1基	M35.4.17	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	建長寺(山ノ内8)	M43.2.2 名称変更	鎌倉時代。欄間にはめられた透彫の獅子牡丹文は雄壮で、鎌倉彫りの元祖といわれている。
国	工芸	銅造 十一面観音懸仏	どうぞう じゅういちめんかんの んかけぼとけ	中に元徳嘉暦の銘文があるものがある	6面	M42.4.5	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	長谷寺(長谷3-11-2)		鎌倉時代。六面とも大型(70～80センチメートル位)で十一面観音像は丸彫に近い鑄像である。
国	工芸	青磁 袴腰香炉	せいじ はかまごしこうろ		1口	T4.3.26	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	円覚寺(山ノ内409)	S43.2.2 名称変更	宋時代。明るい青緑色の青磁釉が器体の全面をおおい、釉調は粘青磁(きぬたせいじ)のそれで浙江省の龍泉窯の製品である。

工 芸

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国	工芸	髹漆須弥壇1基・前机1脚	きゅうしつしゅみだんいっき・まえづくえいっきゃく	前机は鎌倉国宝館に寄託	2点	T14.4.24	鎌倉市	円覚寺(山ノ内409)	円覚寺		鎌倉時代。円覚寺開山堂に置かれ、共に全面朱漆で塗られている。禅宗様式が強く表れている。
国	工芸	銅鐘	どうしょう	宝治二年三月廿一日の銘がある	1口	T14.4.24	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	常楽寺(大船5-8-29)		鎌倉時代。全体に細身の鐘。竜頭は後補である。
国	工芸	太刀 金銘 国吉	たち きんめい くによし	附)糸巻太刀拵	1口	S3.4.4	鎌倉市	鶴岡八幡宮(雪ノ下2-1-31)	鶴岡八幡宮		鎌倉時代。小切先。大磨上無銘の莖に国吉の金象嵌銘がある。明治天皇が寄進したものである。
国	工芸	太刀 銘 長光	たち めい ながみつ	附)糸巻太刀拵	1口	S3.4.4	鎌倉市	鶴岡八幡宮(雪ノ下2-1-31)	鶴岡八幡宮		鎌倉時代。小切先、磨上げ。社伝によると、徳川家重奉納の太刀。総金具金菊花紋糸巻太刀拵が附属する。
国	工芸	太刀 銘 大和国尻懸住則長作	たち めい やまとのくにしっかけじゅうのりながさく		1口	S28.3.31	鎌倉市		個人		鎌倉時代。小切先、磨上げ。白銀太刀拵が属している。
国	工芸	梵鐘	ぼんしょう	新長谷寺、文永元年七月十五日、大工物部季重在銘	1口	S28.11.14	鎌倉市	長谷寺(長谷3-11-2)	長谷寺		鎌倉時代。全体に鑄型の型われのあとがみられるが、形姿などによく時代の特徴を示す優品である。
国	工芸	金銅密教法具	こんどうみっきょうぼうぐ	金銅五鈷杵1口、金銅独鈷杵1口、金銅五鈷鈴1口 銘文、極楽律寺建長七年九月日僧清賢大工橋宗近	3口	S30.6.22	鎌倉市	極楽寺(極楽寺3-6-7)	極楽寺		鎌倉時代。鑄鋼製鍍金。鎌倉時代中期の典型的作例である。
国	工芸	初音蒔絵火取母	はつねまきえひとりも		1口	S35.6.9	鎌倉市	東慶寺(山ノ内1367)	東慶寺		室町時代。阿古陀形香爐。源氏物語、初音巻中の歌を意匠化したものを切金、研出蒔絵で表す。
国	工芸	雲版	うんぱん	建武四年三月五日大工清原宗広の刻銘がある	1面	S44.6.20	鎌倉市	妙本寺(大町1-15-1)	妙本寺		室町時代。銅製鑄造。時を告げる合図などに使われた。形姿が雲形ゆえ雲版と呼ばれている。
国	工芸	葡萄蒔絵螺鈿聖餅箱	ぶどうまきえらでんせいべいばこ		1合	S51.6.5	鎌倉市	東慶寺(山ノ内1367)	東慶寺		桃山時代。黒漆の地に螺鈿と蒔絵で外装した円筒形の器で、南蛮漆芸の代表的遺品である。

工 芸

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国	工芸	円覚寺開山筆筒収納品	えんがくじかいざんたんすしゅ うのうひん	附) 鬱金地桐竹鳳凰 文縫箔植巾1枚、染付 合子1合、黒角製香合 1合	27点	S54.6.6	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	円覚寺 (山ノ内409)		鎌倉時代～室町時代。開山無学祖元の所用具をはじめ、その後、開山信仰によって寄進されたものからなる。 収納品内訳：丹池雲芝形雲文金襴(大燈金襴)九条袈裟1領、黄地片輪車文綾九条袈裟坐具付1領、香色地平絹九条袈裟1領、紺地宝雲文銀襴九条袈裟坐具付(応永二十九年二月二十一日の墨書がある)1領、黄地牡丹文紗掛絡1領、黄地菱繫文綾直綴1領、黄地平絹直綴1領、白地平絹裨衣1領、萌黄地平絹頭陀袋1肩、石畳縫合地果蝶雲文刺繍袱子1枚、醉翁亭図堆黒盆1枚、椿梅竹文堆朱盆1枚、孔雀牡丹文堆朱香合1合、尾長鳥椿文堆黒香合1合、念珠3連、弘子2握、団扇1握、竹籠1握、環4箇、組紐残闕2条
国	工芸	蓮唐草蒔絵箱形礼盤 黒漆華形大壇	はすからくさまきえはこがたら いばんくろうるしはながただい だん		2基	S54.6.6	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	青蓮寺 (手広769)		礼盤は室町時代の作。蒔絵、銀象嵌の金具で飾られる。大壇は南北朝時代の作。鎌倉式の蓮弁表現がある。
国	工芸	太刀 各銘 相州住綱広作、 綱家作、康国作・桐鳳凰蒔絵 糸巻太刀拵	たち かくめい そうしゅうじゅう うつなひろさく、つないえさく、 やすくにさく・とうほうおうまき えいとまきたちこしらえ		3口	S59.6.6	鎌倉市	鶴岡八幡宮(雪 ノ下2-1-31)	鶴岡八幡宮	S30.8.30 県指定	室町時代。北条氏綱寄進の三口の太刀。三口とも長大な太刀姿で、元幅広く踏張りあって反高く切先延び心になり、鍔地に棒樋添樋が彫ってある。
国	工芸	朱漆輪花天目盆	しゅうるしりんかてんもくぼん	底裏に享徳四年、西 大寺沙弥方天目盆、 二之内の漆銘がある	1面	H16.6.8	鎌倉市	根津美術館(東 京都港区南青 山6-5-1)	公益財団法人 常盤山文庫(笹 目町4-3)		中世社寺を中心に盛んに製作・使用された、律動的な曲線で構成される輪花形盆の大型の優品である。
国	工芸	伝法衣	でんぼうえ	附) 二十五条袈裟一 領、坐具二枚、包裂一 枚	5領	H23.6.27	鎌倉市	円覚寺 (山ノ内409)	円覚寺		円覚寺に伝来した袈裟5領でいずれも九条仕立て。南宋～元時代の絹織物の特徴を顕著に示しており、染織史上極めて重要な遺物。
国	工芸	刀 金象嵌銘 貞次磨上之本 阿(花押)	かたな きんぞうがんめい さ だつぐすりあげこれほんあ(か おう)		1口	S32.2.19	厚木市	茅ヶ崎市	個人		鎌倉時代。大鋒、大磨上。古青江派貞次と極められた作。名物大青江と称される。
国	工芸	短刀 銘 安吉	たんとう めい やすよし		1口	S32.2.19	厚木市	茅ヶ崎市	個人		室町時代。平造、ほとんど生ぶ茎、寸延びの短刀である。
国	工芸	短刀 銘 江州甘呂俊長	たんとう めい えしゅうかんろ としなが		1口	S33.2.8	厚木市	茅ヶ崎市	個人		南北朝時代。平造、三ツ棟で内反りのある短刀である。
国	工芸	銅鐘	どうしょう	暦応三年十二月十五 日の銘がある	1口	T14.4.24	伊勢原市	宝城坊 (日向1644)	宝城坊		室町時代。鐘銘は陽鑄で、寺の来歴が記されている。
国	工芸	銅鐘	どうしょう	正応五年十月特六日 の銘がある	1口	T12.8.4	海老名市	国分寺(国分南 1-25-38)	国分寺		鎌倉時代。全体にすっきりした感じの鐘。銘文に「国分尼寺槌鐘」とある。

工 芸

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国	工芸	梵鐘	ぼんしょう	嘉禄三年丁亥正月廿一日、大勤進秀毫、大檀那源信綱、大工源吉国の鑄出銘がある	1口	S42.6.15	座間市	星谷寺(入谷3-3583)	星谷寺	S33.6.17 県指定	鎌倉時代。すらりとした姿の鎌倉時代の鐘。撞座が一個だけしかないという特徴をもっている。
国	工芸	灰釉壺 常滑	はいゆうつぼ とこなめ		1口	H6.6.28	大磯町	東京国立博物館(東区上野公園13-9)	個人		平安時代。完存する数少ない初期常滑を代表する優品。口作り、頸部、肩部の調和がよい。
国	工芸	織物張文台及硯箱(伝北条氏政所用)	おりものばりぶんだいおよび すずりばこ(でんほうじょうじ まさしょう)		1組	T8.4.12	箱根町	早雲寺 (湯本405)	早雲寺		室町時代。裂の下の素地は寄木細工のように桐の小板を接ぎあわせて一枚の板にした珍しい作である。
国	工芸	赤木柄短刀	あかぎづかたんとう		1口	T11.4.13	箱根町	箱根神社(元箱根80-1)	箱根神社		鎌倉時代。熱帯産の赤色を帯びた堅木を用い、柄と鞘に赤銅製の筒金を入れた合口造りの短刀である。
国	工芸	鉄湯釜	てつゆがま		2口	S59.6.6	箱根町	箱根神社(元箱根80-1)	箱根神社	S37.10.2 県指定	鎌倉時代(銘文に文永5年)。鑄鉄製。破損が甚だしく、鐔は全部欠損しているが、古釜の資料として価値の高いものである。鎌倉時代(銘文に弘安 年)。大きさは先の文永釜に近いがかなり分厚く作られ、形の損壊は少ない。
国	工芸	刀 無銘 伝行光	かたな むめい でんゆきみつ		1口	S36.6.30	湯河原町	木村美術館 (鍛冶屋651)	財団法人相州 刀美術博物館	S63.12.1 変更	鎌倉時代。鑄造。板目地沸強くさえる。のたれに小互の目、金筋、二重刃あり、匂口冴える。五郎正宗の師。
国	工芸	太刀 銘 定吉	たち めい さだよし		1口	S24.2.18	不明 (相模原市)	不明			鎌倉時代。猪首切先。生ぶ莖。山城綾小路一派の作である。
国	工芸	短刀 銘 賀州住真景 貞治六年月日	たんとう めい かしゅうじゅう さねかけ ていじろくねんつき ひ		1口	S30.6.22	不明 (相模原市)	不明			室町時代。平造。生中心(うぶなご)。平造三ツ棟の短刀で僅かに反りがある。
国	工芸	短刀 銘 来国光 / 元徳二年以下切	たんとう めいらいくにみつ / げんとくにんえんいかきれ	附)獅子造腰刀拵	1口	S30.2.2	不明 (横須賀市)	不明			来国光の健全で出来のよい作。拵は江戸時代。
国	工芸	曜変天目茶碗	ようへんてんもくちやわん		1口	S28.11.14	不明 (鎌倉市)	滋賀県(MIHO MUSEUM)	公益財団法人 秀明文化財団		加賀前田家に伝わり、古来より珍重されている。
国	工芸	太刀 銘 備前国長船住守家造 文永九年壬申二月廿五日	たち めい びぜんのおさ ふねじゅうもりいえぞう ぶん えいくねんじんしんにがつに じゅうごひ		1口	S9.1.30	不明 (鎌倉市)	不明			
国	工芸	太刀 無銘 伝光忠	たち むめい でんみつただ		1口	S27.7.19	不明 (鎌倉市)	不明			鎌倉時代。
国	工芸	剣 銘 光忠	けん めい みつただ		1口	S49.6.8	不明 (鎌倉市)	不明			鎌倉時代。両鑄造。生中心。鑄高く、やや大振りの剣である。

工 芸

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国	工芸	短刀 銘 鎌倉住人新藤五国光作 永仁元年十月三日	たんとう めい かまくらじゅうにんしんとうごくにみつさくえいにんがんねんじゅうがつさんひ		1口	S25.8.29	不明(秦野市)	不明			鎌倉時代。平造、生中心。国光は相州正宗の師と伝えられている。
国	工芸	短刀 銘 来国光(名物塩川来国光)	たんとう めい らいくにみつ(めいぶつしおかわらいくにみつ)	附) 銘 うめただ寿斎	1口	S27.7.19	不明(秦野市)	不明			鎌倉時代。平造、生中心。附属の金無垢二重に「うめただ寿斎」と刻銘がある。
国	工芸	象図鐔 銘 安親	ぞうずつば めい やすちか		1枚	S28.11.14	不明(秦野市)	不明			江戸時代。鉄地。表中央に大きく象を鋤彫し、裏に林整字の詩を刻む。
国	工芸	刀 金象嵌銘 則重磨上之本阿(花押)	かたな きんぞうがんめい のりしげすりあげこれほんあ(かおう)		1口	S36.2.17	不明(秦野市)	不明			鎌倉時代。中切先、腰反り、重ね充分の大磨上刀姿。則重は江戸時代以来正宗の十哲の一人にあげられている。
国	工芸	干網千鳥透鐔 銘 東雨	ほすあみちどりすかしつば めい とうう		1枚	S28.11.14	不明(秦野市)	不明			江戸時代。銅地。干網と千鳥を圖案化して透彫したものである。
国	工芸	月下木賊刈図透鐔 銘 安親	げっかとかさがりずすかしつば めい やすちか		1枚	S29.3.20	不明(秦野市)	不明			江戸時代。真中地、人物、雲、とくさを透彫にし月を象嵌する。
国	工芸	柏樹文鐔 銘 埋忠明寿	はくじゅもんつば めい うめただみょうじゅ		1枚	S29.3.20	不明(秦野市)	不明			桃山時代。真中地。表裏に柏樹を赤銅、銀を用いて平象嵌してある。
県	工芸	刀 銘 肥前国佐賀住橋本新左衛門尉忠吉	かたな めい ひぜんのくにさがじゅうはしもとしんざえもんじょうただよし		1口	S29.12.3	横浜市		個人		江戸時代。反りの浅い刀姿で鼓中心である。
県	工芸	刀 銘 長曾禰興正	かたな めい ながそねおきまさ		1口	S30.5.10	横浜市		個人		江戸時代。金象嵌銘延宝三年十月十六日ニツ胸於眼前切断之山野勘十郎久英、身幅広い堂々とした寛文新刀である。
県	工芸	刀 銘 加ト	かたな めい かぼく		1口	S30.5.10	横浜市		個人		江戸時代。銘竜大森治郎左衛門入道大村加ト慰作之越後幕下士真十五用伏作。身幅広い反りの少ない豪壮な刀である。
県	工芸	太刀 銘 信国	たち めい のぶくに		1口	S31.8.17	横浜市		個人		南北朝時代。銘信国。京反りの優美な太刀。表に素剣、裏に腰樋が彫刻されている。生中心。
県	工芸	刀 無銘 伝元重	かたな むめい でんもとしげ		1口	S34.3.6	横浜市		個人		南北朝時代。磨上刀姿。表裏に棒樋を彫刻する。大磨上無銘である。
県	工芸	わきざし 銘 相模国住人広光 康安二年八月日	わきざし めい さがみのくにじゅうにんひろみつ こうあんにねんはちがつひ		1口	S34.12.4	横浜市		個人		南北朝時代。平造り身幅広い寸延び姿のわきざし。表に俱利伽羅、裏に素剣の彫刻がある。
県	工芸	太刀 銘 備前国長船住左近将監長光造 正応二年己丑六月日	たち めい びぜんのおさふねじゅうさこんのしょうげんながみつぞう しょうおうにねんきちゅうろくがつひ	附)足利時代墨革包太刀拵	1口	S35.5.17	横浜市	県立歴史博物館(中区南仲通5-60)	神奈川県	S60.8.29 変更	鎌倉時代。小切先、腰反り長寸の太刀。太刀表鑄地に元より梵字、素剣二筋樋が彫っており、基上横手の近くまで神名が各種彫り付けてある。

工 芸

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
県	工芸	わきざし 銘 肥前国忠吉	わきざし めい ひぜんのくに ただよし	附)江戸時代合口拵	1口	S36.7.4	横浜市		個人	S55.5.21 変更	江戸時代。平造の寸延短刀姿の脇差。表に二筋樋、裏に棟樋に添樋が彫られる。
県	工芸	銅鐘(龍華寺)	どうしょう(りゅうげじ)		1口	S44.12.2	横浜市	龍華寺(金沢区 洲崎町9-31)	龍華寺		室町時代。古様式の鐘で銘文にある天文より以前に鑄られたと思われる鑄ばなしのままである。
県	工芸	銅鐘(妙光寺)	どうしょう(みょうこうじ)		1口	S44.12.2	横浜市	妙光寺(瀬谷区 上瀬谷町8-3)	妙光寺		鎌倉時代(銘文に正中二年、物部守光)。追刻銘により妙光寺に寄進された際の事情が知られる。
県	工芸	金銅装笈	こんどうそうおい		1基	H11.2.12	横浜市	県立歴史博物館(中区南仲通 5-60)	神奈川県		室町時代。桐材製のやや福開きの箱に短い四脚をつけ、正面の表側には薄手の金銅版を張る。(修験者などが持ち物を入れて背中に負う箱)。
県	工芸	椿彫木朱漆笈	つばきしょうぼくしゅしつおい		1基	H11.2.12	横浜市	県立歴史博物館(中区南仲通 5-60)	神奈川県		室町時代。三脚をつけた箱笈で、正面の6枚の扉全体に渡って開花した椿と葉を一杯に埋めた図様であらわしている。
県	工芸	鱧口(春日神社)	わにぐち(かすがじんじゃ)		1口	S44.12.2	川崎市	川崎市市民 ミュージアム (中原区等々力 1-2)	春日神社(中原 区宮内616)		室町時代。全体としてふくらみの極めて少ない扁平な鱧口で、釣環の目との間が広くあいている。
県	工芸	太刀(銘国宗)	たち(めいくにむね)		1口	S29.3.30	川崎市	川崎市	個人		鎌倉時代。やや細身の太刀姿で、中心は少磨上となっている。
県	工芸	鱧口(普門寺)	わにぐち(ふもんじ)		1口	S44.12.2	相模原市	普門寺(城山町 中沢200)	普門寺		室町時代(銘文に暦応二年)。全体としてやや繊細な感じのする整った鱧口で、本県で最も古い作例である。
県	工芸	銅鐘(光明寺)	どうしょう(こうみょうじ)	正平七年清原国口作 の銘がある	1口	S38.9.20	平塚市	光明寺 (南金目896)	光明寺		室町時代(銘に正平七年)。やや細まって見える鐘で、目立たぬが南北朝鐘の特徴をよく現している。
県	工芸	銅製亀甲花菱文象嵌擬宝珠	どうせいきっこうはなびしもん ぞうがんぎぼし	附)金具24個	1対	S30.8.30	鎌倉市	鶴岡八幡宮(雪 ノ下2-1-31)	鶴岡八幡宮		鎌倉時代。全体の形姿が等辺三角形に近く安定感があり、缺首部をのそいで全面に銀材による象嵌を施している。
県	工芸	堆黒箱	ついこくばこ	裏に贈日本客僧栄西 禅師明昌元侍郎周宏 の朱漆銘がある	1合	S30.8.30	鎌倉市	鶴岡八幡宮(雪 ノ下2-1-31)	鶴岡八幡宮		鎌倉時代。木胎に黒漆を厚く重ねて塗り、その上面に図様を彫刻した堆黒の箱で印籠蓋造りである。
県	工芸	刀 銘 肥後守橘吉次作	かたな めい ひごのかみた ちばなよしつぐさく	延宝五年八月七日二 ツ胴截断高屋甚太夫 切	1口	S37.3.27	鎌倉市		個人		江戸時代。中切先身幅広く重ねしかりとした反りの少ない新刀期姿で、生中心である。
県	工芸	大壇(長勝寺)	だいだん(ちょうしょうじ)		1基	S44.5.20	鎌倉市	長勝寺(材木座 2-12-17)	長勝寺		鎌倉時代。華形壇と呼称される大壇。格狭間を設けた基台を下段にしている点が称名寺大壇と異なる。
県	工芸	鱧口(円覚寺)	わにぐち(えんがくじ)		1口	S44.12.2	鎌倉市	円覚寺 (山ノ内409)	円覚寺		室町時代(銘に天文九年)。一般的に形式化し美しさに乏しくなる同時代の内で、極めて美しい上作の鱧口である。

工 芸

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
県	工芸	銅鐘(浄智寺)	どうしょう(じょうちじ)		1口	S44.12.2	鎌倉市	浄智寺 (山ノ内1402)	浄智寺		室町時代(銘に暦応三年)。龍頭が鐘全体にくらべて小さく、かつ繊細な感じのする鐘である。
県	工芸	銅鐘(東慶寺)	どうしょう(とうけいじ)		1口	S44.12.2	鎌倉市	東慶寺 (山ノ内1367)	東慶寺		室町時代(銘に観応元年)。鑄物師大工大和権守光連。比較的小鐘で目立たぬが時代の特徴をよく示している。
県	工芸	鯛口(長勝寺)	わにぐち(ちょうしょうじ)		1口	S44.12.2	鎌倉市	長勝寺(材木座 2-12-17)	長勝寺		室町時代(銘に永正十二年)。胴がかなり丸くふくらみ、特に中心の撞座部分が丸く盛り上げる特色を見せている。
県	工芸	燭台(長勝寺)	しよくだい(ちょうしょうじ)		1対	S44.12.2	鎌倉市	長勝寺(材木座 2-12-17)	長勝寺		鎌倉時代(朱銘に永享四年)。檜材の本地に黒漆塗。極楽寺講堂にあったことが銘文によって知られる。
県	工芸	鯛口(長谷寺)	わにぐち(はせでら)		1口	S44.12.2	鎌倉市	長谷寺(長谷3- 11-2)	長谷寺		室町時代(銘に応永廿年)。径が89センチメートルもある大きい鯛口で、現状はいたみがひどいがりっぱな作である。
県	工芸	獅子牡丹彫木彩漆硯台	ししばたんちょうぼくさいしつけんだい		1合	H11.11.26	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	鎌倉市		室町時代。大まかな刀法ながら豪快な図様と調和する。製法は伝統的な鎌倉彫を継承している。
県	工芸	屈輪文彫木朱漆大香合	ぐりもんちょうぼくしゅうるしだいこうごう		1合	H11.11.26	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	円覚寺 (山ノ内409)		室町時代。木地に屈輪(グリ)文を掘り、下地を黒漆でかため、上塗りに朱漆を施し、身の側面にも同様の屈輪文を配する。鎌倉彫。
県	工芸	刀 銘 備前国住長船源五郎清光	かたな めい びぜんのにじゅうおさふねげんごろうきよみつ		1口	S41.7.19	鎌倉市		個人		室町時代(銘文に天文二年)。中切先重ね厚手で調和のとれた刀姿をもつ生中心である。
県	工芸	太刀 銘 肥前国佐賀住河内大掾藤原正広作	たち めい ひぜんのにさがじゅうかわちだいにじょうふじわらまさひろさく	裏 正保四年八月吉日 施主 鍋島大(以下不明)	1口	S33.1.14	藤沢市	江島神社(江の島2-3-8)	江島神社		江戸時代。雄大(刃長93.9センチメートル)な姿に思い切った皆焼刃を焼く。社伝では鍋島甲斐守の奉納という。
県	工芸	わきざし 銘 相州住秋広	わきざし めい そうしゅうじゅうあきひろ	裏 貞治三年十二月日	1口	S34.3.6	藤沢市	木村美術館 (湯河原町鍛冶屋651)	個人		南北朝時代。平造身幅広く真の棟、先反りの寸延姿のわきざしで、樺樋が彫られている。
県	工芸	銅鐘(清浄光寺)	どうしょう(しょうじょうこうじ)		1口	H2.2.13	藤沢市	清浄光寺(西富1-8-1)	清浄光寺		南北朝時代(銘に延文六年)。物部光連の作品。
県	工芸	銅鐘(総世寺)	どうしょう(そうせいじ)		1口	H2.2.13	小田原市	総世寺 (久野3670)	総世寺		室町時代(銘文に応永十五年)。再追銘文には羽柴中納言秀次が総世寺に寄進したとあり、天正十八年小田原攻めに使用したという。
県	工芸	銅鐘(海宝院)	どうしょう(かいほういん)		1口	S44.12.2	逗子市	海宝院(沼間2- 12-15)	海宝院		室町時代(銘に応永十年)。全体は細く丈高で、極めてスマートな感じの鐘である。
県	工芸	刀 銘 津田越前守助広	かたな めい つだえちぜんのかみずけひろ		1口	S32.2.19	三浦市		個人		江戸時代。銘津田越前守助広延宝三年八月日。中切先反りの少ない新刀姿で、生中心である。
県	工芸	銅鐘(本瑞寺)	どうしょう(ほんずいじ)		1口	S44.12.2	三浦市	本瑞寺(三崎1- 19-1)	本瑞寺		室町時代(銘文に康永三年)。駒の爪も低く、鎌倉鐘としての姿を残すものである。

工 芸

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
県	工芸	銅鐘(浅間神社)	どうしょう(せんげんじんじゃ)		1口	S44.12.2	厚木市	浅間神社(中依知488)	浅間神社		室町時代(銘文に貞和六年)。全体として胴がややふくらみを帯び、ずんぐりとした感じの鐘で、元鎌倉大楽寺の鐘である。
県	工芸	鱧口(本照寺)	わにぐち(ほんしょうじ)		1口	S44.12.2	厚木市	本照寺(下古沢130)	本照寺		室町時代(銘文に永祿九年)。戦国争乱のさなかの作だけに作風はあまりよくないが、同時代の文化を知るためには重要な作例である。
県	工芸	銅鐘(長谷寺)	どうしょう(はせでら)		1口	H2.2.13	厚木市	長谷寺(飯山5605)	長谷寺		室町時代(銘文に嘉吉二年)。清原国光の作で清原様式をよくあらわした作例である。
県	工芸	みか	みか	うずらみか	1個	S31.8.17	伊勢原市	三之宮比々多神社(三ノ宮1472)	三之宮比々多神社		平安時代。須恵器の系統に属するもので、焼きは比較的よく灰色を呈する。伝世器であることがめずらしい。
県	工芸	銅鐘(高部屋神社)	どうしょう(たかべやじんじゃ)		1口	S44.12.2	伊勢原市	高部屋神社(下粕屋2202)	高部屋神社		室町時代(銘文に至徳三年)。全体としてよく整った作のいい鐘で特に竜頭の出来が優れている。
県	工芸	宝城坊の錦幡・唐櫃	ほうじょうぼうのきんぱん・からびつ	大幡 赤地牡丹唐草文錦1流 小幡 赤地牡丹唐草文錦2流 木造 黒漆唐櫃1合 延文二年在銘	1具	S55.2.15	伊勢原市	宝城坊(日向1644)	宝城坊		南北朝時代。大小三流からなるもので、大きさはわが国最大のもので、日向薬師の信仰を知る上で重要である。
県	工芸	銅鐘(八坂神社)	どうしょう(やさかじんじゃ)		1口	H2.2.13	伊勢原市	八坂神社(沼目2-3-30)	八坂神社		室町時代(銘文には応永十年)。史料性が高く、銘文に当地方の同時代の地名や豪族名が記されている。
県	工芸	六十二間筋兜鉢	ろくじゅうにけんすじかぶとばち	附)金具残闕3種	1頭	H11.11.26	寒川町	寒川神社(宮山3916)	寒川神社		室町時代62枚の細長い鉄板を鋸止めで焼き合わせた筋兜鉢。武田信玄の小田原攻めに際して奉納されたと伝えられる。
県	工芸	鱧口(薬師堂)	わにぐち(やくしどう)		1口	S44.12.2	山北町	薬師堂(皆瀬川1695)	薬師堂		室町時代(銘文に文安元年)。比較的小さい鱧口で作はかなりよいが、銘文には誤字や不明字が多い。
県	工芸	銅鐘(早雲寺)	どうしょう(そううんじ)		1口	S44.12.2	箱根町	早雲寺(湯本405)	早雲寺		鎌倉時代(銘文は削られているが、元徳元年と見える)。胴がふくれてどっしりとした感じの鐘である。
県	工芸	鱧口(宮ヶ瀬小学校)	わにぐち(みやがせしょうがっこう)		1口	S44.12.2	清川村	宮ヶ瀬小学校(宮ヶ瀬1460)	宮ヶ瀬小学校		室町時代(銘文に応永三年)。地方作と思われる素朴な作風を示す作例である。
県	工芸	刀 銘 肥前国忠吉	かたな めい ひぜんのくにただよし		1口	S31.8.17	東京都		個人		江戸時代。反りの少ない小切先鑄造り新刀姿の刀。肥前国初代忠吉の傑作である。
県	工芸	太刀 銘 備州長船住元重	たち めい びしゅうおさふねじゅうもとしげ		1口	S33.1.14	東京都		個人		鎌倉時代。小切先やや延び心の太刀。表裏に棒樋を彫刻する。中心少磨上である。
県	工芸	刀 無銘 伝備前長義	かたな むめい でんびぜんながよし		1口	S31.8.17	東京都		個人		大磨上無銘であるが、備前長船長義作だと認められる。

工 芸

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
県	工芸	刀 無銘 伝正宗	かたな むめい でんまさむね		1口	S41.7.19	千葉県		個人		鎌倉時代末。棒樋と添樋を彫刻する大磨上無銘である。
県	工芸	太刀 銘 康次	たち めい やすつぐ		1口	S35.5.17	静岡県		個人		鎌倉時代。鑄造り太刀。小切先やや延心で身幅狭く、元身中広張り腰反り高き優美な太刀姿で古青江鍛冶である。
県	工芸	刀 銘 康継	かたな めい やすつぐ		1口	S28.12.22	不明 (横浜市)	不明			江戸時代。銘於武州江戸越前康継南蛮鉄。生中心。表に素剣梵字、裏にゴマ箸に梵字の彫りものがある。
県	工芸	刀 無銘 伝兼光	かたな むめい でんかねみつ		1口	S41.7.19	不明 (横浜市)	不明			南北朝時代。表裏に棒樋を彫刻する大磨上無銘である。
県	工芸	刀 無銘 伝則重	かたな むめい でんのりしげ		1口	S32.2.19	不明 (横浜市)	不明			鎌倉時代末。正宗十哲に数えられる則重と極められる刀で、大磨上無銘である。
県	工芸	刀 銘 肥前国住近江大掾藤原忠広 慶安元年八月吉日	かたな めい ひぜんのくに じゅうおうみだいじょうふじわら ただひろ けいあんがんねん はちがつきちじつ		1口	S35.5.17	不明 (鎌倉市)	不明			江戸時代。生中心。身幅重ね十分な刀である。
県	工芸	短刀 銘 国光	たんとう めい くにみつ	附)合口捲梨子地蒔 絵紋散し鞆	1口	S37.3.27	不明 (鎌倉市)	不明			鎌倉時代。平造り短刀。身幅狭く真の棟、反りなくいわゆる竹の子反り姿をした品の良い作例である。
県	工芸	刀 銘 一竿子栗田口忠綱	かたな めい いっかんしあわ たくちただつな		1口	S32.2.19	不明 (三浦市)	不明			江戸時代。反りの少ない小切先厚い新刀姿で、表に真の昇り龍、裏に独鉗付素剣に梵字を彫るものである。
県	工芸	太刀 銘 吉房	たち めい よしふさ		1口	S32.2.19	不明 (大井町)	不明			鎌倉時代。踏張りある腰反りの太刀姿で中心は少し磨りあげている。

書跡・典籍・古文書

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国宝	書跡・典籍・古文書	文選集注	もんぜんしゅちゅう		19巻	S30.2.2	横浜市	称名寺 (金沢区金沢町212-1)	称名寺	M43.8.29 指定	平安時代。周以来の有名な詩文などを梁の蕭統(しょうとう)が編集したものの写本である。
国宝	書跡・典籍・古文書	大覚禪師墨蹟 法語規則	だいがくぜんじぼくせき ほうごきそく		2幅	S27.3.29	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	建長寺 (山ノ内8)		鎌倉時代。双幅で一幅には法語、もう一幅には規則が記してある。
国宝	書跡・典籍・古文書	清拙正澄墨蹟 遺偈	せいせつしょうちゅうぼくせき ゆいげ	暦応二年正月十七日	1幅	S27.11.22	鎌倉市	常盤山文庫 (笹目町4-3)	公益財団法人 常盤山文庫		南北朝時代。建仁寺禪居庵で示寂した時の遺偈(ゆいげ)。古来「棺割之墨蹟」と称され有名である。
国宝	書跡・典籍・古文書	馮子振墨蹟 画跋	ふうししんぼくせき がばつ	附)千利休添状 (正月六日)1幅	1幅	S27.11.22	鎌倉市	常盤山文庫 (笹目町4-3)	公益財団法人 常盤山文庫		元時代。北宋の画人易元吉の描いた草虫図鑑に題した賛詞と思われる。
国	書跡・典籍・古文書	称名寺絵図並結界記	しょうみょうじえずならびにけっかいき	元亨三年二月廿四日(旧裏書)	2幅	M42.4.5	横浜市	県立金沢文庫 (金沢区金沢町142)	称名寺	S52.6.11 現変	鎌倉時代。図は金堂と講堂を中心に諸堂、施設を描き、周囲に朱線をめぐらせている。もと紙背に結界文が記されていたが、現在、二幅仕立てに改装されている。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書 円覚経	しほんぼくしょ えんがくきょう	正慶二年三月金沢貞顕筆	2巻	T3.4.17	横浜市	称名寺 (金沢区金沢町212-1)	称名寺		鎌倉時代。円覚の理=仏の悟りを説いた経で、金沢貞顕が父顕時の三十三年忌の菩提を申った宿紙供養経である。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書 明儒願文集	しほんぼくしょ めいじゅがんもんしゅう	紙に湛耆とある	1冊	T11.4.13	横浜市	称名寺 (金沢区金沢町212-1)	称名寺		鎌倉時代。明儒日野賢実と菅原為長の六種の願文を収めたものである。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書 観音堂縁起 紹瑾筆	しほんぼくしょ かのんどうえんぎ しょうきんひつ	奥に元亨元年六月十七日とある	1巻	S10.4.30	横浜市	總持寺 (鶴見区鶴見2-1-1)	總持寺		鎌倉時代。一般に総持寺中興縁起と呼ばれ、諸岳観音堂から禅院を開創するに至った由来を述べたもの。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書 続古今集 卷下	しほんぼくしょ ぞくこきんしゅう かんげ	正平六年十二月三日兼好感得の奥書がある	1帖	S10.4.30	横浜市		個人		鎌倉時代。続古今集の巻下を書写した胡蝶装の本。兼好の自筆による奥書がある。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書 建春門院中納言記	しほんぼくしょ けんしゅんもん いんちゅうなごんき		1帖	S11.5.6	横浜市	県立金沢文庫 (金沢区金沢町142)	神奈川県	H11.2.18 所有者・所在場所変更	藤原俊成の娘・建寿御前(藤原定家の姉、高倉天皇の母である建春門院に使えた)の綴った宮廷生活等の回想録。後宮のしきたり・風俗を描写する。奥書に金沢貞顕の自署あり。
国	書跡・典籍・古文書	注大般涅槃経卷第十九	ちゅうだいはんねはんきょうまきだいいじゅうきゅう		1巻	S24.2.18	横浜市	西方寺 (港北区新羽町2586)	西方寺		奈良時代。大般涅槃経を唐の章(?)が注釈をしたもので全三十巻からなるものの一部である。
国	書跡・典籍・古文書	弘決外典鈔 卷第一、二、三	ぐけつげてんしょう まきだいいち、に、さん	卷第二、弘安七年六月十五日円種奥書	3帖	S34.6.27	横浜市	県立金沢文庫 (金沢区金沢町142)	称名寺		鎌倉時代。「止観輔行伝弘決」の中の外典を鈔出し、注釈を加えたもの。首尾を通じ施された綿密な訓点は国語資料として貴重なもの。
国	書跡・典籍・古文書	連歌懐紙	れんがかいし	中二帖、正慶元年・元弘三年興行年記	5帖	S36.2.17	横浜市	称名寺 (金沢区金沢町212-1)	称名寺		鎌倉時代。仏書の紙背として伝存されたもの。称名寺で張行された連歌の懐紙である。
国	書跡・典籍・古文書	卜筮書卷第廿三断簡	ぼくぜいしよまきだいにじゅうさんだんかん	紙背授菩薩戒儀	1巻	S36.2.17	横浜市	称名寺 (金沢区金沢町212-1)	称名寺		唐時代。占卜の書。現在はわずかに式三の巻末部分二紙四十九行を残すのみである。

書跡・典籍・古文書

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国	書跡・典籍・古文書	古今和歌集第一、二残闕 (片仮名本)	こきんわかしゅうだいいち、に ざんけつ(かたかなぼん)	紙背応永三年十月 書写胎蔵法闍 書	1巻	S36.2.17	横浜市	称名寺 (金沢区金 沢町212-1)	称名寺		鎌倉時代。藤原清輔が校合した片仮名 書きの「清輔本古今和歌集」である。
国	書跡・典籍・古文書	宋版一切経	そうはんいっさいきょう	附) 版本一切経目 録一幅	3486 帖	H9.6.30	横浜市	県立金沢文 庫(金沢区 金沢町142)	称名寺 (金沢区金 沢町212-1)		南宋時代。北条実時が一門の菩提寺で ある金沢称名寺に寄進したまとまった宋 版一切経遺品。
国	書跡・典籍・古文書	法曹類林断簡	ほっそうるいりんだんかん		1巻	H14.6.26	横浜市	称名寺 (金沢区金 沢町212-1)	称名寺		平安時代末期に成立した律令格式に基 づいた判例集であり、奥書から嘉元2年 (1304)年に金沢貞顕が書写したことが 知られる。
国	書跡・典籍・古文書	称名寺聖教	しょうみょうじしょうぎょう		13027 点	H18.6.9	横浜市	県立金沢文 庫(金沢区 金沢町142)	称名寺		北条実時が菩提寺として建立した称名寺 に伝来している。鎌倉時代における仏教 の全体像を知る上で貴重であり、鎌倉時 代の歴史、武家の文化を解明する上 においても欠かせない資料群。
国	書跡・典籍・古文書	宋版南史 残巻(列伝巻第 三十六、三十七、三十八)、 断簡(目録、列伝巻第十六、 三十五)(金沢文庫本)	そうはんなんし ざんかん(れ つでんまきだいさんじゅうろく、 さんじゅうなな、さんじゅうは ち)、だんかん(もくろく、れつで んまきだいじゅうろく、さんじゅう ご)(かなざわぶんこぼん)		3帖、 6紙	H18.6.9	横浜市	県立金沢文 庫(金沢区 金沢町142)	称名寺		中国の歴代王朝の正史の一つで、南北 朝時代の南朝国家の歴史を記したもの である。現存最古の南宋時代の版本と して極めて貴重であり、北条実時が創建 した金沢文庫に伝来したことが明らか なもの。
国	書跡・典籍・古文書	金沢文庫文書	かなざわぶんこもんじょ	附) 金沢文庫文書 関係聖教残簡92 帖	4,149 通	H2.6.29	横浜市	県立金沢文 庫(金沢区 金沢町142)	称名寺 (金沢区金 沢町212-1)		鎌倉時代～南北朝時代。北条実時ゆかり の称名寺に伝わった文書群。幕府政治 や東国仏教界の動向を示す史料。
国	書跡・典籍・古文書	武蔵国鶴見寺尾郷絵図	むさしのくにつるみでらおごうえ ず		1幅	H17.6.9	横浜市	県立金沢文 庫(金沢区 金沢町142)	神奈川県		建長寺塔頭正統庵領であった鶴見・寺尾 両郷に関する境界論に際して、南北朝初 期に作成された絵図である。
国	書跡・典籍・古文書	定額寺官符	じょうがくじかんぷ		1幅	M32.8.1	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1- 1)	円覚寺 (山ノ内409)		鎌倉時代。円覚寺が定額寺となった際下 された太政官符である。
国	書跡・典籍・古文書	紙本淡彩 円覚寺境内絵図	しほんたんさい えんがくじけ いだいえず		1幅	M38.4.4	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1- 1)	円覚寺 (山ノ内409)		南北朝時代。円覚寺伽藍の他、路をはさ んで反対側の地域を含めて四周に朱線 をめぐらせる。線上の五か所に上杉重能 の花押がある。
国	書跡・典籍・古文書	紙本淡彩 富田庄図	しほんたんさい とみたのしょう ず		1幅	M38.4.4	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1- 1)	円覚寺 (山ノ内409)		鎌倉時代。北条時宗が無学祖元をむか え円覚寺を創建した折、寄進した富田庄 の絵図である。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書 北条時宗書状	しほんぼくしよ ほうじょうときむ ねしよじょう	弘安元年十二月 廿三日とある	1幅	M38.4.4	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1- 1)	円覚寺 (山ノ内409)		鎌倉時代。建長寺開山蘭溪道隆が示寂 した後、その後継者を求めようとして、中 国への使者にだした書状。これに対し無 学祖元が来日した。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書 祖元書状	しほんぼくしよ そげんしよじょう	七月十八日とある	1幅	M38.4.4	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1- 1)	円覚寺 (山ノ内409)		鎌倉時代。前出弘安六年七月十八日の 時宗書状をうけた無学祖元が認めた札 状である。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書 円覚寺年中用米 注進状	しほんぼくしよ えんがくじねん ちゅうようまいちゅうしんじょう	弘安六年九月廿 七日とある	1幅	M38.4.4	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1- 1)	円覚寺 (山ノ内409)		鎌倉時代。円覚寺の住持、無学祖元が 円覚寺に於ける一年間の寺用米の予算 を、檀那である北条時宗に報告したもの である。

書跡・典籍・古文書

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書 北条時宗書状	しほんぼくしよ ほうじょうときむねしよじょう	七月十八日とある	1幅	M38.4.4	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	円覚寺(山ノ内409)		鎌倉時代。円覚寺開基の時宗が、将軍家御願寺としたこと、寺領が確定したことなどを伝えた書状である。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書 華嚴塔勸縁疏	しほんぼくしよ けごんとうかんえんそ		1巻	M38.4.4	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	黄梅院(山ノ内428)		南北朝時代。円覚寺に華嚴塔を再建するにあたり、勸進のため義堂周信が至徳四年五月に書いた偈並びに序である。
国	書跡・典籍・古文書	大覚禅師墨蹟	だいがくぜんしよぼくせき		3幅	M38.4.4	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	建長寺(山ノ内8)	S38.2.8 追加指定	鎌倉時代。本来は別物の断簡だが現在は一幅対にまとめられている。
国	書跡・典籍・古文書	紙本淡彩 明月院絵図	しほんたんさい めいげついんえず	氏満の花押がある	1幅	M38.4.4	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	明月院(山ノ内189)		室町時代。旧禅興寺の塔頭明月庵、宗猷庵の絵図である。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書 鶴岡社務記録	しほんぼくしよ つるがおかしやむきろく		2巻	M38.4.4	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	鶴岡八幡宮(雪ノ下2-1-31)		南北朝時代。建久二年から文和四年にいたる164年間にわたる編年記録である。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書 西来庵修造勸進状 玉隠筆	しほんぼくしよ さいらいあんしゅうぞうかんじんじょう ぎょくいんひつ	永正丙子四月廿四日とある	1巻	T14.4.24	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	建長寺(山ノ内8)		室町時代。浄智寺蔵の勸進状から一年後に書かれたほとんど同文の勸進状である。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書 和漢年代記	しほんぼくしよ わかんねんだいき	附)元禄写本1冊	2冊	T14.4.24	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	建長寺(山ノ内8)		鎌倉時代。日本の記事を上段に、中国の記事を下段に対比させながら編んだ年表である。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書 西来庵修造勸進状 玉隠筆	しほんぼくしよ さいらいあんしゅうぞうかんじんじょう ぎょくいんひつ	永正乙亥七月廿四日とある	1巻	T14.4.24	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	浄智寺(山ノ内1402)		室町時代。建長寺前住の玉隠が荒廃した開山塔所西来庵の有様をなげき、これを再興しようと書いた勸進状である。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書 東帰集(伝仏乗禅師筆)	しほんぼくしよ とうきしゅう(でんぶつじょうぜんじひつ)	附)絹本著色仏乗禅師像1幅、堆朱印櫃入木印2顆	1巻	T15.4.19	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	報国寺(浄明寺2-7-4)		鎌倉時代。報国寺開山天岸慧広の自筆といわれる漢詩および偈二百首余を収録したものである。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書 仏乗禅師度牒1通 紙本墨書 仏乗禅師戒牒4幅	しほんぼくしよ ぶつじょうぜんじどちょう しほんぼくしよ ぶつじょうぜんじかいちょう	仏乗禅師度牒:弘安九年十一月八日とある 仏乗禅師戒牒:弘安元年十一月八日とある	2点	T15.4.19	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	報国寺(浄明寺2-7-4)		鎌倉時代。得度し、比丘になったことを政府が証明したものが度牒で、戒を受けたことを証明して出されるのが戒牒である。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書 円覚寺禁制	しほんぼくしよ えんがくじきんぜい	永仁二年正月日	1幅	S11.5.6	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	円覚寺(山ノ内409)		鎌倉時代。北条貞時が檀那として僧侶等の行動に対して、規律を正すべく禅律寺院に対し禁制を定めたものである。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書 円覚寺制符	しほんぼくしよ えんがくじせいふ	乾元二年二月十二日	1幅	S11.5.6	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	円覚寺(山ノ内409)		鎌倉時代。北条貞時が円覚寺の寺僧の行動に掣肘を加えるため出した制符である。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書 仏日庵公物目録	しほんぼくしよ ぶつにちあんこうもつもくろく	貞治二年同四年法清、崇珊、圭照の勸記がある	1巻	S11.5.6	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	円覚寺(山ノ内409)		南北朝時代。北条時宗の塔所の仏日庵の什宝目録である。

書跡・典籍・古文書

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国	書跡・典籍・古文書	印章 無學	いんしょう むがく		2顆	S11.5.6	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	円覚寺 (山ノ内409)	H6.3 考古資料 から管理 換え、 H7.6.15 名称変更	鎌倉時代。円覚寺開山山光国師無學祖 元所用の木印である。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書 大休正念法語	しほんぼくしよ だいきゅうしやう ねんぼうご	弘安元年五月	1巻	S11.5.6	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	蔵六庵 (山ノ内419)		鎌倉時代。大休正念が泰定居士のため に迦葉の偈をひいて、生死悟道の一大 道を説いたものである。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書 新編仏法大明録	しほんぼくしよ しんぺんぶつぽ うだいみんるく	自巻第一至第九、 自第十三至第十七、 第廿巻第一に 正嘉元年閏三月 廿二日書写の奥 書あり「普門院」 「光明院」の印記 がある	8冊	S14.5.27	鎌倉市	松ヶ岡文庫 (山ノ内 1375)	財団法人 松ヶ岡文庫		鎌倉時代。京都東福寺開山聖一国師が 将来した新編仏法大明録の写本である。
国	書跡・典籍・古文書	伏見天皇宸翰御消息	ふしみてんのうしんかんごしや うそく	九月廿六日	1幅	S19.9.5	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	個人		鎌倉時代。賞助法親王が紅葉の枝に付 けて奉られた御文に対する返書である。
国	書跡・典籍・古文書	蘭溪道隆墨蹟 諷誦文	らんけいどうりゅうぼくせき ふ じゅもん		1幅	S24.2.18	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	公益財団法人 常盤山文庫 (笹目町4-3)		鎌倉時代。北条時宗参禅の師である道 隆が時宗の治世の安らかなることを祈願 するに当たって作ったものである。
国	書跡・典籍・古文書	大休正念墨蹟 尺牘	だいきゅうしやうねんぼくせき せきとく		1幅	S24.2.18	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	公益財団法人 常盤山文庫 (笹目町4-3)		鎌倉時代。浄智寺の開山大休禅師が法 友にあてた手紙である。
国	書跡・典籍・古文書	宗峰妙超筆消息	しゅうほうみょうちやうひつしや うそく	十一月八日祐公 庵主宛	1幅	S24.2.18	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	公益財団法人 常盤山文庫 (笹目町4-3)		鎌倉時代。大徳寺開山大燈国師が弟子 満庵宗祐にあてた手紙である。
国	書跡・典籍・古文書	退耕徳寧墨蹟 上堂語景定 壬戌	たいこうとくねいぼくせき じや うごけいていじんじつ		1幅	S24.5.30	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	公益財団法人 常盤山文庫 (笹目町4-3)		南宋時代。寧上人なる人に与えた上堂 のときの偈である。
国	書跡・典籍・古文書	竺仙梵僊墨蹟 与潜溪処謙 入祖堂語壬午(康永元年)五 月四日	じくせんぼんせんぼくせき せ んけいしよけんにあたうるに ゆうそどうごじんご(こうえいがん ねん)ごがつよっか		1幅	S24.5.30	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	公益財団法人 常盤山文庫 (笹目町4-3)		南北朝時代。南禅寺十六世竺仙和尚が 十世潜溪の位牌を祖堂に納めた法事の 文章である。
国	書跡・典籍・古文書	劔門妙深墨蹟 与聖一國師 尺牘 淳祐己酉四月望日	けんもんみょうじんぼくせき しやういちこくしにあたうるせき とくじんゆうきゆうしがつぼうじ つ		1幅	S28.3.31	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	公益財団法人 常盤山文庫 (笹目町4-3)		南宋時代。聖一國師にあてて、共通の 師、無準和尚の示寂を報じた手紙であ る。

書跡・典籍・古文書

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国	書跡・典籍・古文書	断谿妙用墨蹟 白雲雅号 咸淳己巳	だんけいみょうようぼくせき は くうがごう かんじゅんきみ		1幅	S28.3.31	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	公益財団法人 常盤山文庫 (笹目町4-3)		南宋時代。慧暁が南宋の断谿和尚に自分の号「白雲」について書いてもらったものである。
国	書跡・典籍・古文書	無等恵融墨蹟 与簡上人法語	むとうえゆうぼくせき かんしょう うにんにあたるほうご		1幅	S29.3.20	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	公益財団法人 常盤山文庫 (笹目町4-3)		南宋時代。我国から入宋した簡上人に与えた激励の文章である。
国	書跡・典籍・古文書	済川若楫墨蹟 与山叟慧雲 尺牘	さいせんじゃくしゅうぼくせき さ んそうえうんにあたるせきとく	附)文英清韓添状 1幅	1幅	S29.3.20	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	公益財団法人 常盤山文庫 (笹目町4-3)		南宋時代。師である木翁若訥の墓が荒れ果てているのを歎き、日本の慧雲に向けて援助を乞うた手紙である。
国	書跡・典籍・古文書	中峰明本墨蹟 与済侍者警策	ちゅうぼうみょうほんぼくせき さいじしゃにあたるけいさく		1幅	S32.2.19	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	公益財団法人 常盤山文庫 (笹目町4-3)		元時代。済侍者に与えた激励の言葉で、極めて個性的な書風である。
国	書跡・典籍・古文書	石室善玖墨蹟 拈香語	せきしつぜんきゅうぼくせき ね んこうご	貞治二年二月廿五日	1幅	S33.2.8	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	公益財団法人 常盤山文庫 (笹目町4-3)		南北朝時代。同門の月林道皎和尚の十三回忌に際して書した「拈香語」である。
国	書跡・典籍・古文書	寒山詩(五山版)	かんざんし(ござんばん)	正中二年十月刊記	1冊	S34.6.27	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	円覚寺 (山ノ内409)		鎌倉時代。
国	書跡・典籍・古文書	友雲土思、月江正印墨蹟 唱和偈	ゆうんしさい がっこうしょうい んぼくせき しょうわげ		1幅	S34.12.18	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	公益財団法人 常盤山文庫 (笹目町4-3)		元時代。友雲が入元し、月江和尚を訪ねて一偈を呈し、和尚がそれに加筆応酬したものである。
国	書跡・典籍・古文書	仏鑑禅師墨蹟 禅院牌字 (巡堂)	ぶっかんぜんじぼくせき ぜん いんはいじ(じゅんどう)	東福寺伝来	1幅	S34.12.18	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	公益財団法人 常盤山文庫 (笹目町4-3)		南宋時代。東福寺開山聖一國師が入宋して参じた仏鑑禅師からはるばる送り寄せた牌字の原本である。
国	書跡・典籍・古文書	無学祖元墨蹟 重陽詩	むがくそげんぼくせき ちやう ようし	弘安二年臘八	1幅	S35.6.9	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	公益財団法人 常盤山文庫 (笹目町4-3)		鎌倉時代。1279年来朝の年の秋上堂の偈を、年末になって書いたものである。
国	書跡・典籍・古文書	足利義満筆額字普現・宿竜・ 桂昌	あしかがよしみつひつがくじふ げん、しゅくりゅう、けいしょう		3幅	S36.2.17	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	円覚寺 (山ノ内409)		室町時代。足利義満が書いた円覚寺正統院殿堂の額字である。
国	書跡・典籍・古文書	古劔智訥墨蹟 拈香語	こけんちとつぼくせき ねんこう ご	葵卯歳結制之後十五日	1幅	S36.6.30	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	公益財団法人 常盤山文庫 (笹目町4-3)		南北朝時代。伊予長福寺の会庵和尚の死を悼んだ「拈香語」である。
国	書跡・典籍・古文書	金剛般若経 蘭溪道隆筆	こんごうはんにはきょう らんけ いどうりゅうひつ	附)玄津及元松添状2通	1帖	S49.6.8	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	建長寺 (山ノ内8)		鎌倉時代。鋭い筆鋒を見せる大覚禅師の書写経。巻尾に「巨福建長」「蘭溪、二つの朱印がある。
国	書跡・典籍・古文書	喫茶養生記 上・下	きっさようじょうき じょう・げ		1冊	S49.6.8	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	寿福寺(扇ガ谷1-17-7)		鎌倉時代。主として上巻は茶について、下巻は桑について、名称、効用、使用法、製法などについて述べたものである。

書跡・典籍・古文書

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国	書跡・典籍・古文書	鶴岡八幡宮文書(二百二十四通)	つるがおかはちまんぐもんじょ		15巻	S58.6.6	鎌倉市	鶴岡八幡宮(雪ノ下2-1-31)	鶴岡八幡宮	S36.7.4 県指定	鎌倉～江戸時代。鶴岡八幡宮文書(131通)を中心として、八幡宮供僧坊の一つ相承院に伝来した相承院文書(93通)を含む。これらの文書は、中世における八幡宮の変遷を明らかにし、鎌倉幕府、関東公方家、後北条氏などとの関係を伝えている。
国	書跡・典籍・古文書	足利尊氏自筆願文	あしかがたかうじじびつがもん	建武三年八月十七日清水寺宛	1幅	S59.6.6	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	公益財団法人常盤山文庫(笹目町4-3)		南北朝時代。建武三年八月十七日に足利尊氏が自筆をもって清水寺へ奉納した願文で、楮紙に全文十一行の仮名交じり文で書かれている。
国	書跡・典籍・古文書	円覚寺文書(386通)	えんがくじもんじょ		20巻、57幅、1冊、279通	S60.6.6	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	円覚寺(山ノ内409)	H16.6.8追加指定	鎌倉時代～桃山時代。中世における禅宗寺院、経済を具体的に明らかにした文書である。
国	書跡・典籍・古文書	覚園寺文書(97通)	かくおんじもんじょ		8巻1幅	S60.6.6	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	覚園寺(二階堂421)	S42.2.3 県指定	鎌倉時代～江戸時代。同寺開山心慧智海置文や後醍醐天皇緩旨、光厳上皇院宣などや、足利直義御教書等の御教書類及び戌神将像胎内より発見された荘園関係文書からなる文書類である。
国	書跡・典籍・古文書	黄梅院文書(101通)	おうばいいんもんじょ		27巻、1冊、6幅、6通	S61.6.6	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	黄梅院(山ノ内428)		南北朝～江戸時代。室町幕府並びに関東公方と深い関係にあった禅宗塔頭寺院の具体的な変遷を明らかにするまとまった文書である。
国	書跡・典籍・古文書	東慶寺文書	とうけいじもんじょ		773通 20冊	H13.6.22	鎌倉市	東慶寺(山ノ内1367)	東慶寺		東慶寺は、江戸時代に女性が寺に駆け込んで離婚する寺法が幕府に認められていた。駆け込み件数約260件を中心としたもので、法制史・女性史研究上二重様な文章群。
国	書跡・典籍・古文書	浄光明寺敷地絵図	じょうこうみょうじしきちえず		1幅	H17.6.9	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	浄光明寺(扇ガ谷2-12-1)		鎌倉時代末から南北朝時代にかけての浄光明寺の境内の建物・寺域や、周辺の景観・屋地などを詳細に伝える史料として貴重であり、中世の敷地の安堵を示すものとして重要な絵図である。
国	書跡・典籍・古文書	紙本墨書龜山天皇宸翰御消息(嘉元三年八月五日)	しほんぼくしょかめやまてんのうしんかんどししょうそく		1幅	S15.5.3	鎌倉市	鎌倉市	個人		鎌倉時代。
国	書跡・典籍・古文書	時衆過去帳 僧衆・尼衆	じしゅうかこちょう そうしゅう・にしゅう		2帖	S29.3.20	藤沢市	清浄光寺(西富1-8-1)	清浄光寺		鎌倉時代～江戸時代。僧衆、尼衆の二冊からなり別名「往古之過去帳」といわれる時宗に特有の過去帳である。
国	書跡・典籍・古文書	六時居讃 安食問答	ろくじいさん あんじきもんどう		1帖 1帖	S29.3.20	藤沢市	清浄光寺(西富1-8-1)	清浄光寺	指定は2帖で1件	鎌倉時代。六時居讃は一日を六時に分け、簡潔な和讃、安食問答、逐条問答体で書いた時宗の聖典である。
国	書跡・典籍・古文書	往生要集 上中下	おうじょうようしゅう じょうちゅうげ		3幅	H1.6.12	大井町	最明寺(金子3315)	最明寺		書写奥書はないが平安時代後期の書写になり「往生要集」の完存する写本としては現存最古のものである。
国	書跡・典籍・古文書	宋拓隋啓法寺碑	そうたくずいけいほうじひ		1帖	S37.2.2	不明(川崎市)	不明			宋時代。

書跡・典籍・古文書

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国	書跡・典籍・古文書	大唐三蔵玄奘法師表啓	だいとうさんぞうげんじょうほっしひょうけい		1巻	S6.1.19	不明 (鎌倉市)	不明			奈良時代。
国	書跡・典籍・古文書	伝藤原佐理筆賀歌絹地切 (うきなき)	でんふじわらのすけまさひつが かきぬじぎれ		1幅	S29.3.20	不明 (鎌倉市)	不明			平安時代。
国	書跡・典籍・古文書	十五番歌合断簡(二枚継) / (六番堤中納言)	じゅうごばんうたあわせだんかん		1幅	S32.2.19	不明 (鎌倉市)	不明			平安時代。
国	書跡・典籍・古文書	紺紙金字仏舎利奉納願文 九条兼実筆/文治五年九月廿八日	こんしきんじぶっしゃりほうのう がんもん くじょうかねざねひつ ぶんじごねんくがつにじゅうは ちにち		1幅	S34.12.18	不明 (鎌倉市)	不明			鎌倉時代。
国	書跡・典籍・古文書	仏法大明録 卷第十、第十一、 第十八/第十九	ぶっぽうだいみんろく まきだい じゅう だいじゅういち、だい じゅうはち、だいじゅうきゅう		2冊	S14.5.27	不明 (小田原市)	不明			鎌倉時代。
県	書跡・典籍・古文書	清拙正澄墨蹟	せいせつしょうちようぼくせき		1幅	H11.2.12	横浜市	県立歴史博物館(中区 南仲通5-60)	神奈川県		南北朝時代。日本の禅寺の規律を確立した清拙正澄の貴重な墨蹟。建武五年(1338)に弟子鏡空が乗福寺住持に新任する時の祝辞。
県	書跡・典籍・古文書	石室善玖墨蹟	せきしつぜんくぼくせき		1幅	H11.2.12	横浜市	県立歴史博物館(中区 南仲通5-60)	神奈川県		南北朝時代。建長寺の住持石室善玖の墨蹟。応安二年(1369)智翁紹綱が京都長福寺へ帰る際、餞別として与え、併せて太政大臣久我通相に表敬したもの。
県	書跡・典籍・古文書	源頼朝袖判下文	みなもとのよりとそではんくだ しぶみ		1幅	H11.2.12	横浜市	県立歴史博物館(中区 南仲通5-60)	神奈川県		鎌倉時代。鎌倉幕府初代將軍源頼朝が、北関東の御家人の小山朝政に宛てた下文。將軍家政所より発給された地頭職補任状を再度承認したもの。数少ない頼朝袖判下文。
県	書跡・典籍・古文書	源頼家袖判下文	みなもとのよりのいえそではんく だしぶみ		1幅	H11.2.12	横浜市	県立歴史博物館(中区 南仲通5-60)	神奈川県		鎌倉時代。鎌倉幕府二代將軍源頼家が、小山朝政を播磨国五箇庄の地頭職に補任した下文。頼家関係の数少ない極めて貴重な古文書。
県	書跡・典籍・古文書	紙本墨書 明王院文書	しほんぼくしょ みょうおういん もんじょ		4巻 19通	S50.2.7	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	明王院 (十二所32)		鎌倉時代～江戸時代。鎌倉時代5通、南北朝時代11通、室町時代7通の文書からなり、鎌倉時代の文書には異国降伏祈禱記などが含まれている。
県	書跡・典籍・古文書	紙本墨書 法華堂文書	しほんぼくしょ ほっけどうもん じょ		1巻 27通	S50.2.7	鎌倉市	鎌倉国宝館 (雪ノ下2-1-1)	明王院 (十二所32)		鎌倉時代～江戸時代。源頼朝の持仏堂が、彼の死後廟所となったのが法華堂でここに伝来した一巻二十七通の中世文書が法華堂文書で、現在は明王院が所蔵する。
県	書跡・典籍・古文書	紙本墨書 岩本院文書	しほんぼくしょ いわもといんも んじょ		1帖 50巻	S50.2.7	藤沢市		個人		鎌倉時代～江戸時代。岩本院は江ノ島の本宮をあずかる一山の総別当であった。ここに主に後北条関係を中心とした中世文書三十六通、近世文書三七〇通の各古文書である。

考古資料

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国	考古資料	青磁壺	せいじつぼ	武蔵称名寺境内石造五輪塔(伝金沢貞顕墓)納置	1合	S43.4.25	横浜市	県立金沢文庫(金沢区金沢町142)	称名寺		宋時代。俗に酒会壺とよばれる元口の壺。伝金沢貞顕墓から骨を収めた状態で発見された。
国	考古資料	鬼瓦 伝奈良市大安寺出土	おにがわら でんならしだいあんじしゅつど		1箇	S35.6.9	川崎市	奈良国立博物館(奈良県奈良市登大路町50)	個人		奈良時代。大安寺出土と伝えられ、ほぼ完形を保つ優品である。
国	考古資料	片口土器	かたくちどき	埼玉県入間郡福岡村上福岡出土	1口	S35.6.9	川崎市	東京国立博物館(東区上野公園13-9)	個人	H24東京都から移入	縄文時代。
国	考古資料	銅造 仏心禅師骨壺	どうぞう ぶつおうぜんじこつづぼ	嘉暦二年十一月疎石の銘がある	1口	T2.4.14	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	続燈庵(山ノ内431)		鎌倉時代。鑄銅製。関東大震災により焼損しているものの夢窓疎石の書による銘が刻まれている。
国	考古資料	鎌倉覚園寺開山塔納置品 一、黄釉草葉文壺 一、銅五輪塔 一、阿弥陀陀笹塔婆 一、褐釉壺 鎌倉覚園寺大燈塔納置品 一、褐釉双耳壺 一、水晶五輪塔金銅蓮台共	かまくらかくおんじかいざんとうのうちひん おうゆうそうようもんつぼ どうごりんとう あみだきょうささとうば かつゆうつぼ かまくらかくおんじだいとうとうのうちひん かつゆうそうじつぼ すいしょうごりんとうこんどうれんだいとも	銅五輪塔:元亨三年三月十九日光広に銘 阿弥陀陀笹塔婆:正慶元年十一月円信奥書	1合 1基 59葉 1口 1口 1基	S43.4.25	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	覚園寺(二階堂421)		鎌倉時代。建造物として指定されている二基の塔の納置品。特に黄釉草葉文壺は古瀬戸の遺品としてまれにみる優品である。
国	考古資料	銅骨蔵器 金銅五輪塔 銅骨蔵器 褐釉小壺 黄釉小壺	どうこつぞうき こんどうごりんとう どうこつぞうき かつゆうこつづぼ おうゆうこつづぼ	銅骨蔵器:極楽寺長老善願上人在銘、金銅五輪塔:比丘尼禅忍延慶四年二月八日他界在銘、黄釉小壺:鎌倉極楽寺境内石造五輪塔(寺伝忍公塔)納置	1合 1基 1合 1口 1口	S43.4.25	鎌倉市	極楽寺(極楽寺3-6-7)	極楽寺		鎌倉時代。昭和三十六年の集中豪雨で埋没した伝北条重時墓から出土したもの。これにより同寺三代順忍善願上人の墓であることが明らかになった。
国	考古資料	鎌倉極楽寺忍性塔納置品 一、金銅骨蔵器 一、銅骨蔵器	かまくらごくらくじにんしょうとうのうちひん こんどうこつぞうき どうこつぞうき	金銅骨蔵器:嘉元元年十一月日良観上人舍利瓶記刻銘、銅骨蔵器:嘉元元年十一月廿五日賢明上人入滅記刻銘	1合 1合	S52.6.11	鎌倉市	極楽寺(極楽寺3-6-7)	極楽寺		鎌倉時代。忍性塔に納置された忍性と慈済の舍利容器。いずれも嘉元元年の刻銘をもっている。

考古資料

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
国	考古資料	壺形土器	つぼがたどき	東京都大田区久ヶ原町出土	1箇	S41.6.11	藤沢市		個人	S49.6.8 名変更	弥生時代。均斉がよくとれ固く焼きあげ、縄文文様と赤色の彩色が見事で東日本弥生式土器の代表である。
国	考古資料	土偶	どくう	附)骨片一括(足柄上郡大井町大字山田字中屋敷出土)	1箇	S36.2.17	大井町		個人	S29.12.3 県指定	縄文時代。内部が中空になったいわゆる容器形土偶。発見当時内部に粉末状の小児の骨片が入っていた。
県	考古資料	人面付土器	じんめんつきどき	横浜市鶴見区上末吉上台遺跡出土	1箇	S59.3.30	横浜市	横浜市歴史博物館(都筑区中川中央1-18-1)	個人		弥生時代後期のひょうたん形をした人面付壺形土器。
県	考古資料	綾瀬市寺尾遺跡出土品	あやせしてらおいせきしゅつどひん		368点	H13.2.13	横浜市	県埋蔵文化財センター(南区中村町3-191-1)	神奈川県		後期旧石器時代及び縄文時代草創期。時期の異なる7層の文化層が重複して発見され、石器群の変遷が層位的に明らかにされた。
県	考古資料	海老名市上浜田遺跡出土球状耳飾	えびなしかみはまだいせきしゅつどけつじょうみみかざり		6点	H13.2.13	横浜市	県埋蔵文化財センター(南区中村町3-191-1)	神奈川県		縄文時代早期。滑石製で墓穴と考えられる3基の土擴から2点一対で出土し、埋葬された人物の両耳に装着されていたことを推測させる良好な出土状態を示すとともに、球状耳飾の初期の優品。
県	考古資料	山北町尾崎遺跡出土の石斧製作に関連する石器	やまきたまちおざきいせきしゅつどのせきふせいさくにかんれんするせつき		1,081点	H13.2.13	横浜市	県埋蔵文化財センター(南区中村町3-191-1)	神奈川県		縄文時代中期。良質な凝灰岩の石材産地に立地した石斧の生産遺跡で、縄文時代の石斧の生産と供給の状況を示し、この時代の社会・経済を知るうえで貴重な資料。
県	考古資料	秦野市砂田台遺跡出土の石器、鉄器及び弥生土器	はだのしすなだいいいせきしゅつどのせつき、てつきおよびやよいどき		42点	H13.2.13	横浜市	県埋蔵文化財センター(南区中村町3-191-1)	神奈川県		弥生時代中期。大陸系磨製石斧と鉄剣を再加工した鉄器は、東日本での本格的な農耕文化定着期の鉄器の普及を明らかにする貴重な資料。
県	考古資料	綾瀬市宮久保遺跡出土木簡	あやせしみやくぼいせきしゅつどもっかん		1点	H13.2.13	横浜市	県埋蔵文化財センター(南区中村町3-191-1)	神奈川県		奈良時代。「鎌倉郷」が記載された最古の資料であり、「田令」・「郡稲長」などの郡雑任や「軽部」という部姓氏族の資料であり、古代の地方行政に関する貴重な資料である。
県	考古資料	三浦市間口洞窟遺跡出土品	みうらしまくちどうくつせいせきしゅつどひん		450点	H13.2.13	横浜市	県立歴史博物館(中区南仲通5-60)	神奈川県		弥生時代中・後期及び古墳時代後期。三浦半島に特徴的に分布する海蝕洞窟遺跡特有の骨角貝製生活用具と墳墓副葬品。

考古資料

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
県	考古資料	綾瀬市吉岡遺跡群B区と藤沢市用田鳥居前遺跡出土の旧石器時代の遺跡間接合石器	あやせしよしかいせきぐんびーくとふじさわしようだとりいまえいせきしゅつどのきゅうせっきじだいのいせきかんせつこうせっき	附)その他の剥片類	455点	H16.2.10	横浜市	県埋蔵文化財センター(南区中村町3-191-1)	神奈川県		およそ2km離れたふたつの遺跡で出土した旧石器時代の石器群が接合。旧石器時代人の移動の実態や生活の様相を知る上で貴重な資料。
県	考古資料	津久井郡三ヶ木遺跡出土品	つくいぐんみかげいせきしゅつどひん	弥生式壺形土器2個、弥生式甕形土器2個、弥生式土器破片一括	4箇ほか	S36.3.14	相模原市	県立津久井高校(緑区三ヶ木272-1)	神奈川県		弥生時代。関東地方の弥生式土器のなかで古い位置を占めるもので、一部に「三ヶ木式」の名称がある。
県	考古資料	相模原市田名向原遺跡の住居状遺構出土の旧石器時代石器群	さがみはらしたなむかいはらいせきのじゅうきょじょういこうしゅつどのきゅうせっきじだいのせっきぐん	附)その他の剥片等	403点	H22.2.5	相模原市	相模原市立博物館(中央区高根3-1-15)相模原市立史跡田名向原遺跡旧石器時代学習館(中央区田名塩田3-23-11)	相模原市		本石器群は、最終氷期最寒冷期の相模川河畔に構築された住居状遺構に、原産地が多地域にわたる黒曜石の素材剥片を主体とした原料が持ち込まれ、尖頭器を中心とした石器製作が繰り返行われたことにより形成されたものであり、当該期を代表する石器群であることとともに、旧石器時代後半という我が国最古といわれる建物跡である住居状遺構から出土したという点で、そこで行われた旧石器時代の人々の活動や他地域との交流、生活の仕組み等を解き明かす上で欠くことのできない学術的に貴重な資料である。
県	考古資料	横須賀市吉井貝塚出土の縄文時代早期の骨角牙器・貝製品	よこすかしよしかいづかしゅつどのじょうもんじだいのそぎのこっかがき・かいせいひん		396点	H14.2.12	横須賀市	横須賀市自然・人文博物館(深田台95)	横須賀市		縄文時代早期後半。多種・多量の骨角牙器から構成され、この時代の多様な生産活動や精神生活を明らかにするうえで貴重な資料である。
県	考古資料	鎌倉市国指定史跡永福寺跡内経塚出土品	かまくらしくにしていしせきょうふくじあとないきょうづかしゅつどひん		89点	H15.2.10	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	鎌倉市		鎌倉時代初期。源頼朝が創建した寺院跡から発見された経塚の出土品で、この時代の政治・文化を明らかにするうえで貴重な資料。
県	考古資料	鎌倉市今小路西遺跡北谷出土の輸入陶磁器	かまくらしいまこうじにいしせききただにしゅつどのゆにゅうとうじき		61点	H15.2.10	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	鎌倉市		鎌倉時代。有力武家の屋敷跡から出土した、品質・形態の傑出した輸入陶磁器で、この時期の有力武家の権力や財力を知るうえで貴重な資料。
県	考古資料	小田原市羽根尾貝塚の縄文時代前期出土品	おだわらしはねおかいづかのじょうもんじだいでんきしゅつどひん		458点	H16.2.10	小田原市	小田原市小船収蔵庫(小船260-1)ほか	小田原市		低地に埋没した縄文時代前期の貝塚で、土器・石器・骨角器のほか、台地上の遺跡では通常残らない木製品・漆製品・繊維類が豊富に出土。縄文時代の生活や文化を知る上で貴重な資料。
県	考古資料	逗子市池子遺跡群出土品	ずしいけごいせきぐんしゅつどひん		241点	H14.2.12	逗子市	逗子市池子遺跡群資料館(池子)	逗子市		弥生時代中期。初期水田耕作の農耕具をはじめとする多様な木製品と骨角牙製品。特に木製品は製作過程の各段階を示す未製品も多く見られ、製作技術を明らかにできる貴重な資料。
県	考古資料	秦野市平沢同明遺跡出土の弥生前期壺形土器	はだのしひらさわどうめいいいせきしゅつどのやよいぜんきつぼがたどき		1点	H15.2.10	秦野市	秦野市立桜土手古墳展示館(堀山下380-3)	個人		弥生時代前期後半。大型の壺形土器で、特徴から伊勢地方(三重県)で作られた可能性が強く、農耕文化の伝播に伴って持ち込まれたと考えられる。南関東唯一の完形の遠賀川式系統の土器として貴重な資料である。

考古資料

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考2	概要
県	考古資料	厚木市登山一号墳出土埴輪	あつぎしどうやまいちごうふんしゅつどはにわ		98点ほか	H4.2.14	厚木市	厚木市郷土資料館(寿町3-15-26)ほか	厚木市	H24.2.14追加指定	6世紀中葉から後半のもの。形象埴輪と円筒埴輪に大別され、古墳時代を知る上で価値が高い。
県	考古資料	大和市上野遺跡出土品	やまとしかみのいせきしゅつどひん	附)第1・第2地点出土 土器破片、第1・第2地点出土 他の剥片	1058点	S62.2.20	大和市	下鶴間1-1-1	大和市		縄文土器の発生期の文化を知ることのできる先土器時代から縄文時代草創期の出土品。
県	考古資料	大和市上和田城山遺跡出土品	やまとしかみわだじょうやまいせきしゅつどひん	附)出土 他の剥片	244点	S62.2.20	大和市	下鶴間1-1-1	大和市		先土器時代の細石刃の製作方法が復元でき、併せて、その時期の文化も知ることのできる出土品。
県	考古資料	綾瀬市神崎遺跡出土品	あやせしかんざきいせきしゅつどひん		25点	H14.2.12	綾瀬市	早川550	綾瀬市	H17.3.1所在変更	弥生時代後期。土器の大半が愛知県東部～静岡県西部に特徴的に見られる技法で製作されていることから、東海地方からの集団移住を示す貴重な資料。

歴史資料

指定	分類	名称	ふりがな	備考1	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	備考1	備考2	概要
国	歴史資料	日本図(遠江、越後以東欠)	にほんず(とおとうみ、えちごいとうけつ)		1枚	S62.6.6	横浜市	称名寺(金沢区金沢町212-1)	称名寺			鎌倉時代。金沢文庫に伝存する中世文書中より発見された所謂行基式日本図。
国	歴史資料	銀板写真(遠藤又左衛門と従者像)エリファレット・ブラウン・ジュニア撮影一八五四年	ぎんばんしゃしん(えんどうまたざえもんとじゅうしゃぞう)えりふぁれっと・ぶらうん・じゅにあさつえいせんはっぴゃくごじゅうよねん	附)添状1通	1枚	H18.6.9	横浜市	横浜美術館(西区みなとみらい3-4-1)	横浜市			幕末に来航したペリー配下の写真師が撮影した銀板写真。遠藤又左衛門は松前藩士で、箱館でペリーとの諸交渉にあたった。外国人が日本国内で日本人を撮影した現存最古の写真の一枚。
国	歴史資料	銀板写真(石塚官蔵と従者像)エリファレット・ブラウン・ジュニア撮影一八五四年	ぎんばんしゃしん(いしづかかんぞうとじゅうしゃぞう)えりふぁれっと・ぶらうん・じゅにあさつえいせんはっぴゃくごじゅうよねん	附)添状2通、ウイラムス・羅森合筆扇面1幅	1枚	H18.6.9	横浜市	市立函館博物館(北海道函館市青柳町17-1)	個人			幕末に来航したペリー配下の写真師が撮影した銀板写真。石塚官蔵は松前藩士で、箱館でペリーとの諸交渉にあたった。外国人が日本国内で日本人を撮影した現存最古の写真の一枚。
国	歴史資料	スチームハンマー	すちーむはんまー		2基	H10.6.30	横須賀市	ヴェルニー記念館(東逸見町1-1)	横須賀市		H15.5.29追加指定	1865年オランダ製。横須賀製鉄所の建設にともないオランダから購入した。蒸気力で金属を鍛造する機械。
国	歴史資料	鶴岡八幡宮指図	つるがおかはちまんぐうさしず	天正十九年五月十四日	1鋪	M38.4.4	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	鶴岡八幡宮(雪ノ下2-1-31)		H24.8.6名称変更	室町時代。鶴岡八幡宮の修理のために作られた指図書。豊臣秀吉が徳川家康に命じて修営させた際作られた。
国	歴史資料	円覚寺仏殿造営図	えんがくじぶつでんぞうえいず	建地割図 元龜四年三月二十三日 1鋪、指図 元龜四年三月 日 1鋪	2鋪	H23.6.27	鎌倉市	鎌倉国宝館(雪ノ下2-1-1)	鎌倉市			円覚寺の仏殿再興のため元龜4年(1573)に作成された建地割図(断面図)と指図(平面図)の清書本。中世五山仏殿の構造形式を伝える安土桃山時代の精緻な建築設計図として、建築史上、禅宗文化史上に史料価値が高い。
県	歴史資料	二宮尊徳関係資料	にのみやそんとくかんけいしりょう		3,872点	S56.2.10	小田原市		報徳博物館・尊徳記念館・報徳二宮神社・個人		S62.2.20 1,359点、 H7.2.14 2,109点 追加指定	尊徳自筆のものや、尊徳の日常生活の記述などがある。また2代目尊行や3代目尊親時代の日記がほぼ完全な形で保存されている等、いずれも貴重な資料である。

有形民俗文化財

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	概要
国	有形民俗文化財	旧船越の舞台	きゅうふなこしのぶたい	1棟	S51.8.23	川崎市	日本民家園 (多摩区枳形 7-1-1)	川崎市	三重県志摩郡大王町船越から移築。建物全体は間口17.960メートル、奥行11.817メートル。舞台間口10.840メートル、奥行8.570メートル。廻り舞台の直径5.470メートル。花道長さ9.696メートル、幅1.350メートル。前に出語りあり1.818メートル。楽屋は下手溜にあり、舞台後と二階に道具置場兼楽屋がある。瓦葺。出語りの造りの美しさも特徴の一つ。
国	有形民俗文化財	三浦半島の漁撈用具	みうらはんとうのぎょうようぐ	2603点	S49.2.18	横須賀市	横須賀市自然・人文博物館(深田台95)	横須賀市	網漁具、漁船等は日本でも有数な所蔵。その他釣鉤製作用具、餌取用具、生簀、蛸壺、蛸の曳釣用具、磯漁の覗突(みつき)用具、漁撈信仰用具など多岐にわたるコレクション。
県	有形民俗文化財	舞楽面(陵王、抜頭)	ぶがくめん(りょうおう、ぱっとう)	2面	H7.2.14	横浜市	瀬戸神社(金沢区瀬戸18-14)	瀬戸神社	鎌倉時代。舞楽の面だが、神楽や雨乞いにも使われたと考えられ、民俗的に貴重。
県	有形民俗文化財	「神奈川の職人の道具」コレクション	「かながわのしょくにんのどうぐ」これくしょん	1982点	H11.2.12	横浜市	県立歴史博物館(中区南仲通5-60)	神奈川県	神奈川県立歴史博物館が長年収集してきた県内の工芸関係以外の職種の道具集。木地師、物差し職人等県内でも限られた地域で活躍していた職種のものも含まれ全国的にも貴重。多職種の道具がそれぞれ一式揃えられ、製作の工程や技術、職人の信仰習俗などをうかがい知ることができる。都市化により有形民俗文化財が消滅しつつある本県において、職人の様相を後世に伝える貴重なコレクション。
県	有形民俗文化財	鴨居の漁撈用具コレクション	かもいのぎょうようぐこれくしょん	1件 (258点)	S46.9.17	横須賀市	横須賀市自然・人文博物館(深田台95)	横須賀市	生産・生業に用いられる漁具を中心に集められたコレクションである。
県	有形民俗文化財	正福寺の庚申塔	しょうふくじのこうしんとう	1基	H18.2.14	平塚市	正福寺(大島813)	正福寺	刻像は四臂青面金剛と二猿。明暦二年霜月の紀年銘と「相州大島郷為寒念仏供 造立為浮図一基者也」の銘がある。石塔研究や民間信仰史を明らかにする上で貴重な石塔。
県	有形民俗文化財	長楽寺の庚申塔	ちょうらくじのこうしんとう	1基	H18.2.14	平塚市	長楽寺(札幌町15-42)	長楽寺	紀年銘はなく、刻像は四臂青面金剛と二猿。刻銘は台部にあり、「片倉[]母 為妙 逆修也」など、人名や「逆修也」の刻銘が並んでいる。石塔研究や民間信仰史を明らかにする上で貴重な石塔。
県	有形民俗文化財	獅子型墨壺	しがたすみつぼ	1個	S30.8.30	鎌倉市	鶴岡八幡宮(雪ノ下2-1-31)	鶴岡八幡宮	鎌倉～室町時代。全体に丹漆を塗り鎌倉彫形式の珍しいもの。現在あるなかで最優良作の一つである。
県	有形民俗文化財	神輿	みこし	7基	S30.8.30	鎌倉市	鶴岡八幡宮(雪ノ下2-1-31)	鶴岡八幡宮	桃山～江戸時代初期。三基は本宮用、四基は若宮用で、後者はわずかに形体が小柄で手法もやや簡略になっている。
県	有形民俗文化財	藤沢の信仰用具コレクション	ふじさわのしんこうようぐこれくしょん	1件 (81点)	S46.9.7	藤沢市	朝日町1-1	藤沢市	藁製の正月の「おかざり」を中心としたコレクションで、他に「虫おくりの竹筒」などもある。
県	有形民俗文化財	御嶽大神の庚申塔	みたけおおかみのこうしんとう	1基	H18.2.14	藤沢市	御嶽大神(遠藤2539)	御嶽大神	刻像は四臂青面金剛と二猿。光背正面に村名と明暦二年霜月の紀年銘があり、台部には施主九人の名を刻む。石塔研究や民間信仰史を明らかにする上で貴重な石塔。
県	有形民俗文化財	八幡大神の庚申塔	はちまんおおかみのこうしんとう	1基	H18.2.14	茅ヶ崎市	八幡大神(甘沼292)	八幡大神	承応三年正月の紀年銘をもち、刻像は四臂青面金剛と二猿。台部に十一人の名と「天沼村」の村名を刻む。石塔研究や民間信仰史を明らかにする上で貴重な石塔。

有形民俗文化財

指定	分類	名称	ふりがな	数量	指定年月日	市町村	所在	所有者等	概要
県	有形民俗文化財	金山神社の庚申塔	かなやまじんじゃのこうしんとう	1基	H18.2.14	茅ヶ崎市	金山神社 (行谷766-2)	金山神社	刻像は四臂青面金剛と二猿。光背上部に青面金剛の種字を刻み、承応四年正月の紀年銘と「庚申惣供養之所也」、願主名の刻銘がある。石塔研究や民間信仰史を明らかにする上で貴重な石塔。
県	有形民俗文化財	神明宮の庚申塔	しんめいぐうのこうしんとう	1基	H18.2.14	茅ヶ崎市	神明宮(十間坂3-9-47)	神明宮	刻像は四臂青面金剛と二猿。光背正面に村名と明暦四年の紀年銘があり、台部に「同行(十)六人」とある。石塔研究や民間信仰史を明らかにする上で貴重な石塔。
県	有形民俗文化財	城ヶ島漁撈用具コレクション	じょうがしまぎよろうようぐこれくしょん	1件 (657点)	S57.2.9	三浦市	旧城ヶ島分校海の資料館(三崎町城ヶ島411)	三浦市	舳ちよう用具と各種漁網など、城ヶ島の漁撈技術と習俗を端的に示すコレクション。
県	有形民俗文化財	三番叟面	さんばそうめん	1面	H7.2.14	三浦市	海南神社(三崎4-12-11)	海南神社	室町時代初期。狂言面だが、定形化する以前の自由な造形がみられ、全国的にも珍しい。
県	有形民俗文化財	獅子頭	ししがしら	2個	S30.11.1	伊勢原市	宝城坊(日向1644)	宝城坊	鎌倉～室町時代初期。伎楽獅子舞の獅子頭で大きく、雄勁なる表情を豪快に彫刻する。本県最古に属する獅子頭である。
県	有形民俗文化財	大太鼓	おおだいに	1個	S30.11.1	伊勢原市	宝城坊(日向1644)	宝城坊	室町時代。現在皮革が破れ、胴の中に書かれた墨書が判読され、天文九年以来回数張り替えられたことがわかる。
県	有形民俗文化財	翁面	おきなめん	1面	H7.2.14	葉山町	森戸大明神(堀内1025)	森戸大明神	室町時代初期。猿楽に用いられた面。様式化される以前の作として貴重なもの。
県	有形民俗文化財	下大曲神社の庚申塔	しもおおまがりじんじゃのこうしんとう	1基	H18.2.14	寒川町	寒川神社(宮山3916)	大曲神社	刻像は四臂青面金剛像と二猿。台部に雌雄の二鶏像を刻み、塔身正面に承応二年九月の紀年銘と「大曲村」の村名を刻む。石塔研究や民間信仰史を明らかにする上で貴重な石塔。

無形民俗文化財

指定	分類	名称	ふりがな	備考1(実施日・公開日等)	市町村	保護団体	指定年月日	備考2	概要
国	無形民俗文化財	チャッキラコ	ちゃっきらこ	1月15日	三浦市	ちゃっきらこ保存会	S51.5.4	S40.5.14県無形文化財指定 S45.6.8国選択	七、八歳から十四、五歳までの少女が十人ないし二十人くらいでコキリコ、扇等をもって、主婦の歌にあわせて踊る。曲は「ハツイセ」、「チャッキラコ」、「二本踊」、「ヨササ節」、「鎌倉節」、「お伊勢参り」の六種。
国	無形民俗文化財	三戸のオショロ流し	みとのおしよるながし	8月16日	三浦市	三戸お精霊流し保存会	H23.3.9	S52.2.9県選択 S53.6.23県指定 無形民俗文化財	三浦市初声町三戸で毎年8月16日に行われる盆の精霊送り行事。先祖の霊を船に託して送る。船流しの形態をとる盆行事の典型例。セイトッコと呼ばれる少年の年齢集団によって行事が伝承されてきたことが地域的な特色で、少子化が進む中でも伝統的な要素をよく残している。
国	無形民俗文化財	大磯の左義長	おおいそのさぎちよう	1月14日	大磯町	大磯町左義長保存会	H9.12.15	S52.2.9県選択 「大磯町の道祖神祭」 S53.6.23県指定	1月14日夜に大磯海岸で行われる火祭りを中心とする行事。一番息子やオカリコ、ヤンナゴッコなど、さまざまな行事を含み、関東地方における大規模で代表的な小正月の火祭り。
国	無形民俗文化財	山北のお峯入り	やまきたのおみねいり	不定期	山北町	お峯入り保存会	S56.1.21	S28.12.22県無形文化財指定 S48.11.5国選択 S51.10.19県指定	修験道の儀式が芸能化される課程を示すものとして貴重。足柄上郡山北町の共和地区に古くから伝わる、八十人の男が十種の芸能を演ずる県下最大の芸能風流である。
国	無形民俗文化財	貴船神社の船祭り	きふねじんじやのふなまつり	7月27日～28日	真鶴町	貴船祭保存会	H8.12.20	S33.11.28県無形文化財指定 S51.10.19県指定	二艘の権伝馬に曳航される御座船の巡航に御舟歌や船競漕を伴う海上の祭り。陸上でも鹿島踊りなどの行事が行われる。関東地方の典型的な船祭り。
国	無形民俗文化財	相模人形芝居	さがみにんぎょうしばい	不定期	小田原市・厚木市	下中座・長谷座・林座	S55.1.28	S28.12.22県無形文化財指定 S46.4.21国選択 S51.10.19県指定	県内には、江戸時代から明治にかけて十五か所の三人遣いの人形芝居があったが、現在でも五座で続けられている。そのうち国指定は3座である。カシラが文楽よりもやや小ぶりという作法を伝える江戸系人形芝居の遺産である。
国選択	無形民俗文化財	関東の大凧揚げ習俗	かんとうのおおだこあげしゅうぞく	5月4日～5日	相模原市・座間市	相模の大凧文化保存会・座間市大凧保存会	H3.2.2	所在地は神奈川県、埼玉県、千葉県 の三県にわたる	端午の節句に行われ、子どもの成長祈願と凧合戦と呼ばれる競技の2要素をもつ大凧揚げ習俗。埼玉県東部の江戸川流域、千葉県上総地方、神奈川県相模川流域の3地域で現在も盛んに行われている。
国選択	無形民俗文化財	横須賀の虎踊	よこすかのとらおどり	6月中旬	横須賀市	浦賀虎踊り保存会・中村町内会虎踊り保存会	H16.2.6	S51.10.19県指定 (浦賀虎踊り保存会)	全国的に数少ない芸能であり、伊豆下田から伝えられたという。特に本県のは、和藤内、大唐人、十人余の唐児の踊りがあるのが特色であり、他にはない。
県	無形民俗文化財	お馬流し	おうまながし	8月第1又は第2日曜日	横浜市	本牧お馬流し保存会	S53.6.23	S52.2.9県選択	本牧神社に伝わる御霊信仰による厄霊放流行事。茅でつくった馬首亀体のお馬を御神船から海へ放流する。
県	無形民俗文化財	善部妙蓮寺の曲題目	ぜんぶみょうれんじのきょくだいもく	10月第3土曜日	横浜市	善部妙蓮寺曲題目保存会	H3.2.8	S53.9.1県選択	唄うように唱える題目に合わせ子供達が、バチや太鼓を可憐に操る。

無形民俗文化財

指定	分類	名称	ふりがな	備考1(実施日・公開日等)	市町村	保護団体	指定年月日	備考2	概要
県	無形民俗文化財	牛込の獅子舞	うしごめのししまい	10月上旬の土・日	横浜市	牛込獅子保存会	H13.2.13		一人立ち三頭獅子舞。前日には美しが丘の神明社にも奉納。元禄の悪疫流行期に伝習されたとの説も。締太鼓の棒打ちが多く、力強い所作が特徴。
県	無形民俗文化財	鉄の獅子舞	くろがねのししまい	10月第1日曜日	横浜市	鉄古典獅子舞保存会	H13.2.13		一人立ち三頭獅子舞。舞の名称が振りに起因している点は奥多摩方面と類似。舞手は大人。花や弓等の道具とじゃれたり、格闘を表す舞振りがあつたりと、変化に富んでいるのが特徴。
県	無形民俗文化財	沖縄民俗芸能	おきなわみんぞくげいのう	不定期	川崎市	川崎沖縄芸能研究会	S51.10.19	S29.3.30県無形文化財指定	江戸時代に能、歌舞伎の技法を参酌して構成したといわれる独特の古典美をもつ旧尚王家の式楽。
県	無形民俗文化財	小向の獅子舞	こむかいのししまい	8月第2日曜日	川崎市	小向獅子舞保存委員会	H13.2.13		享保年間に頭妙院日義上人が修得し伝授。大きなささら、両側から二人で打つ大太鼓、竜頭型獅子舞、明確な緩急、すり足の所作等が特徴の一人立三頭獅子舞。舞手は青年、仲立ちは小学生が担当。
県	無形民俗文化財	初山の獅子舞	はつやまのししまい	10月第1日曜日	川崎市	初山獅子舞保存会	H13.2.13		江戸初期の獅子頭が現存。一人立三頭獅子舞。舞手は小中学生。低姿勢の舞振り、観客からのおひねりを使って博打を打つ場面、剣獅子が雌獅子隠し役となるなどが特徴。
県	無形民俗文化財	菅の獅子舞	すげのししまい	9月12日頃の休日	川崎市	菅獅子舞保存会	H13.2.13		明和8年以前から。一人立三頭獅子舞で舞手は共に20歳以下の青年。獅子の足支度が脚絆・わらじ履きであることから「旅獅子」とも呼ばれる。物語性も豊か。
県	無形民俗文化財	下九沢の獅子舞	しもくざわのししまい	8月26日	相模原市	下九沢御嶽神社獅子舞保存会	S51.10.19	S36.7.4県無形文化財指定	角兵衛流の一人立ち三頭獅子舞。優美な江戸情緒をもつ衣装に、太鼓をもって舞う。
県	無形民俗文化財	大島の獅子舞	おおしまのししまい	8月下旬の土曜日又は日曜日	相模原市	大島諏訪明神獅子舞保存会	S51.10.19	S36.7.4県無形文化財指定	下九沢と同型の角兵衛流一人立ち三頭獅子舞。剣獅子の内側に「文政十二年」の修理年号がある。
県	無形民俗文化財	鳥屋の獅子舞	とやのししまい	8月の第2土曜日	相模原市	鳥屋獅子舞保存会	S51.10.19	S29.12.3県無形文化財指定	一人立ち三頭獅子舞。十七世紀に八王子市高槻から伝えられたものといわれる。獅子頭は竜頭型で重箱獅子の異名もある。
県	無形民俗文化財	虎踊	とらおどり	6月中旬	横須賀市	浦賀虎踊り保存会	S51.10.19	S47.4.11県無形文化財指定 H16.2.6国選択	全国的に数少ない芸能であり、伊豆下田から伝えられたという。特に本県のは、和藤内、大唐人、十人余の唐児の踊りがあるのが特色であり、他にはない。
県	無形民俗文化財	御霊神社の面掛行列	ごりょうじんじやのめんかけぎょうれつ	9月18日	鎌倉市	鎌倉市坂ノ下御霊会	S51.10.19	S46.3.30県無形文化財指定	同社の祭典で氏子達が明治五年銘の十種類の異様な仮面を掛けて行道する。明治維新前まで鶴岡八幡宮の祭礼に加わっていた。
県	無形民俗文化財	江の島囃子	えのしまばやし	7月14日前後の土・日	藤沢市	江の島囃子連合会	H13.2.13		江の島八坂神社天王祭囃子。江戸後期までに伝播したものと推定。チャルメラ・三味線・柄太鼓・鼓・銅鑼等の楽器と、しんみりとした曲調は全国的にも珍しく、底抜け屋台も今日では稀少。

無形民俗文化財

指定	分類	名称	ふりがな	備考1(実施日・公開日等)	市町村	保護団体	指定年月日	備考2	概要
県	無形民俗文化財	小田原囃子	おだわらばやし	不定期	小田原市	小田原囃子多古保存会	S51.10.19	S44.5.20県無形文化財指定	江戸中期に伝来したという江戸葛西囃子の系統に属する祭囃子。篠笛1、すり鉦1、大太鼓1、締太鼓2で構成する。五人囃子ともいう。
県	無形民俗文化財	寺山神社の鹿島踊り	てらやまじんじゃのかしまおどり	7月中旬の土・日曜日	小田原市	根府川鹿島踊保存会	S51.10.19	S46.3.30県無形文化財指定	鹿島踊は、小田原から伊豆賀茂郡までの22の神社で行われているが、中でも根府川、吉浜の鹿島踊は古型を保っている。白丁を着、烏帽子をつけ白足袋、白緒の草履を付け、舞態は円舞と方舞とがある。太鼓、鉦、日月黄金柄杓の三役を中心に踊る。
県	無形民俗文化財	茅ヶ崎海岸浜降祭	ちがさきかいがんはまおりさい	7月20日	茅ヶ崎市	茅ヶ崎海岸浜降祭保存会	S53.6.23	S52.2.9県選択	湘南地方随一の壮大な祭典。海上で30余基の神輿が早期茅ヶ崎市南湖海岸で潮みそぎする。
県	無形民俗文化財	菊名の飴屋踊り	きくなのあめやおどり	不定期	三浦市	あめやお踊保存会	S51.10.19	S30.11.1県無形文化財指定	女性は一切加わらず踊りは青年、歌と囃子は長老によって行われる農村芝居。手踊と段物が伝えられる。他県では粉屋踊、万作芝居などという。
県	無形民俗文化財	大山阿夫利神社の倭舞及び巫子舞	おおやまあふりじんじゃのやまとまいおよびみこまい	8月28日	伊勢原市	倭舞・巫子舞保存会	S51.10.19	S28.12.22県無形文化財指定	明治初期奈良春日大社の富田家により伝授され、現在倭舞八曲、巫子舞七曲他が中学生を中心に舞われる。楽器は和琴、大和笛、ひちりき、笏拍子。
県	無形民俗文化財	足柄ささら踊	あしがらささらおどり	不定期	南足柄市	足柄ささら踊保存会	S51.10.19	S42.7.21県無形文化財指定 S50.12.8国選択	江戸時代から明治にかけて少女達の盆踊として盛んに行われた。竹のピンザサラを突き小太鼓を打ち、二本の扇をあやなす小町踊、七夕踊の系統の踊である。
県	無形民俗文化財	国府祭	こうのまち	5月5日	大磯町	国府祭保存会	S53.6.23	S52.2.9県選択	神婚儀礼の性格をもつ古式祭事。相模国一ノ宮から五ノ宮と六所神社による合祭で県下最大の広域性がある。
県	無形民俗文化財	西小磯の七夕行事	にしこいそのたなばたぎょうじ	東地区:8月6日7日 西地区:8月6日7日に近い土日	大磯町	西小磯東七夕保存会 西小磯西子ども育成会	H20.2.5	S53.9.1県選択 「大磯町の七夕祭」H14..2.12国選択「大磯の七夕行事」	大磯町西小磯の東西両地区で八月上旬に行われる七夕行事。子どもたちが竹飾りを振りながら地区内各地でお祓いした後、竹飾りを束ねて竹ミコシを作り再び地区内を回る。翌日早朝、竹ミコシを浜まで担ぎ、泳いで海に流す。全国的にも珍しい西小磯独自の七夕行事である。
県	無形民俗文化財	世附の百万遍念仏	よづくのひやくまんべんねんぶつ	2月中旬の土・日曜日	山北町	世附百万遍念仏保存会	S53.6.23	S52.2.9県選択	念仏と同時に、大数珠を車輪にかけ、手繰っては投げるようグルグル廻す全国的にも珍しい形式の百万遍念仏と大神楽獅子舞、鳥刺し等がつく。
県	無形民俗文化財	室生神社の流鎗馬	むろうじんじゃのやぶさめ	附 鞍三背 11月3日	山北町	室生神社流鎗馬保存会	H7.2.14		地元の人々が伝える流鎗馬として県内唯一。口伝による作法に従い最も古いかたちを保つ。
県	無形民俗文化財	湯立獅子舞	ゆだてししまい	3月27日	箱根町	仙石原神楽保存会	S51.10.19	S29.12.3県無形文化財指定 S49.12.4国選択	伊勢大神楽系の獅子舞で諏訪信仰を奉じる人々が伝えた神事芸能。特に獅子が湯立ての呪法を行う神事性は高く評価される。宮、平、剣、行、宮めぐりの各舞の後、湯立呪法を行う。
県	無形民俗文化財	湯立獅子舞	ゆだてししまい	7月15日	箱根町	宮城野獅子舞保存会	S51.10.19	S29.12.3県無形文化財指定 S49.12.4国選択	伊勢大神楽系の獅子舞で諏訪信仰を奉じる人々が伝えた神事芸能。特に獅子が湯立ての呪法を行う神事性は高く評価される。宮、平、剣、行、宮めぐりの各舞の後、湯立呪法を行う。

無形民俗文化財

指定	分類	名称	ふりがな	備考1(実施日・公開日等)	市町村	保護団体	指定年月日	備考2	概要
県	無形民俗文化財	吉浜の鹿島踊り	よしはまのかしまおどり	8月1日	湯河原町	鹿島踊り保存会	S51.10.19	S29.7.27県無形文化財指定 S46.11.11国選択	鹿島踊は、小田原から伊豆賀茂郡までの22の神社で行われているが、中でも根府川、吉浜の鹿島踊は古型を保っている。白丁を着、烏帽子をつけ白足袋、白緒の草履を付け、舞態は円舞と方舞とがある。太鼓、鉦、日月黄金柄杓の三役を中心に踊る。
県	無形民俗文化財	三増の獅子舞	みませのししまい	7月20日前後の日曜日	愛川町	三増獅子舞保存会	S51.10.19	S36.7.4県無形文化財指定	一人立ち三頭獅子舞。バンパ面の刻銘から十八世紀初期に始まったものと推定される。
県	無形民俗文化財	相模人形芝居	さがみにんぎょうしばい	不定期	平塚市・南足柄市	前鳥座・足柄座	S57.2.9		国指定の相模人形芝居三座と同じく三人遣い。鉄砲差し操法による古い伝統を持つ人形芝居である。
県	無形民俗文化財	相模のささら踊り	さがみのささらおどり	7月下旬に連合会大会	藤沢市・秦野市・厚木市・海老名市・綾瀬市	葛原芸能保存会・遠藤民俗芸能保存会・秦野ささら踊り保存会・愛甲ささら踊り盆唄保存会・長谷ささら踊り盆唄保存会・海老名ささら踊り保存会・綾瀬ささら踊り保存会	H20.2.5		旧相模国で江戸時代に流行した七夕踊り・小町踊りの流れをくむ女性だけによる盆踊り。大正末期には廃絶してしまったが、戦後、旧相模国域各地で復活した。揃いの浴衣に帯を締めた襷掛けの女性が、長詞型または短詞型の独特な唄に合わせてピンザサラを突き、小太鼓を打ちながら踊る。
県選択	無形民俗文化財	川崎山王祭りの宮座式	かわさきさんのうまつりのみやざしき	8月1～3日	川崎市	稲毛神社氏子総代会	H3.2.8		神社に、専任の神職が置かれていなかった中世の神事の執行方法を伝える。関東では珍しい。
県選択	無形民俗文化財	厚木大神楽	あつぎだいかぐら	伊勢十二座神楽	厚木市	伊勢十二座神楽	S55.9.12		伊勢大神楽十二組のひとつ。正月から二月にかけて、大神楽長持を二輪車に乗せて厚木周辺の檀那場の袂いをしてまわる。
県選択	無形民俗文化財	内山の「忠臣蔵踊り」及び「曾我の夜討ち踊り」	うちやまの「ちゅうしんぐらおどり」および「そがのやうちおどり」	不定期	南足柄市	内山剣舞おどり保存会	H3.2.8		江戸末期頃から伝わる風流踊。語りものに合わせて二人一組になって踊る。

無形文化財

指定	分類	名称	ふりがな	保持者(団体)名	認定年月日	市町村	住所	概要
国	無形文化財	芸能 義太夫節浄瑠璃	げいのう ぎだゆうぶしじょうる り	上田悦子 (芸名・雅号等:竹本駒之助)	H11.6.21	秦野市		義太夫節浄瑠璃は、場面の情景や雰囲気、登場人物の言葉や心情を表現する重要な技法である。氏は、竹本春駒、十世豊竹若大夫、八世竹本綱大夫、竹本越路大夫に師事し、長年義太夫節浄瑠璃の研鑽に励み、現在では義太夫節浄瑠璃の第一人者として高く評価されている。

史跡

指定	分類	名称	ふりがな	指定年月日	市町村	所在地	管理団体	備考	概要
国	史跡	称名寺境内	しょうみょうじけいだい	T11.10.12	横浜市	金沢区金沢町、西柴町	横浜市	S47.1.31追加指定	関東では例の少ない苑池中心の庭園、指定地西側の隣接地に由緒ある金沢文庫の名を冠した県立の博物館施設がある。
国	史跡	三殿台遺跡	さんとのだいせいせき	S41.4.2	横浜市	磯子区岡村			調査により縄文、弥生、古墳、各時代にわたる250例の住居跡が発見され野外博物館として保存されている。
国	史跡	大塚・歳勝土遺跡	おおつかさいかちどいせき	S61.1.31	横浜市	都筑区大瀬西			鶴見川支流の早瀬川左岸台地上に位置する弥生時代中期の環濠集落跡(大塚遺跡)と方形周溝墓群(歳勝土遺跡)である。
国	史跡	旧横浜正金銀行本店	きゅうよこはましょうきんぎんこうほんてん	H7.6.27	横浜市	中区南仲通			明治13年、貿易取引の決済業務と貿易金融とを主要目的として設立。近代の貿易金融機関の在り方を示す重要な遺跡。
国	史跡	勝坂遺跡	かつさかいせき	S49.7.2	相模原市	南区磯部字勝坂		S55.10.22、S59.1.11、H18.1.26追加指定	縄文時代中期の拠点的な集落跡であり、立体的で豪華な文様で飾られた勝坂式土器の標準遺跡である。本遺跡で最初に調査が行われた現指定地の谷を挟んだ東側等が追加指定された。
国	史跡	田名向原遺跡	たなむかいはいせき	H11.1.28	相模原市	中央区田名塩田			約一万五千年前の旧石器時代末の遺跡で、我が国最古の竪穴住居址状の遺構を伴うことで注目される。
国	史跡	寸沢嵐石器時代遺跡	すあらしせつきじだいせいせき	S5.11.19	相模原市	緑区寸沢嵐	相模原市		縄文時代後期初めの敷石住居跡、長径は4.3メートルのほぼ楕円形の範囲に河原石を敷きならべたものである。
国	史跡	川尻石器時代遺跡	かわしりせつきじだいせいせき	S6.7.31	相模原市	緑区谷ヶ原、久保沢、向原	相模原市	H13.1.29追加指定及び一部解除 H16.9.30追加指定 H18.7.28追加指定	神奈川県北西部、相模川北側河岸段丘上に位置する縄文時代中期から後期にかけての大規模な集落跡。竪穴住居のほか、敷石住居、配石遺構、配石墓など礫を多用した遺構が多く確認されている学史的にも著名な遺跡。
国	史跡	三浦安針墓	みうらあんじんはか	T12.3.7	横須賀市	西逸見町	横須賀市		江戸時代初期に幕府高官として重要な地位を占めたイギリス人航海士ウィリアム・アダムスは、三浦に領地を与えられ三浦安針と呼ばれたが、本人と妻の供養塔が建てられている。
国	史跡	夏島貝塚	なつしまかいづか	S47.1.27	横須賀市	夏島	横須賀市		縄文時代早期の貝塚で各時期の貝層が累積しており、最下部の貝層から「夏島式土器」が出土した。
国	史跡	五領ヶ台貝塚	ごりょうがだいかいづか	S47.7.29	平塚市	広川字五領ヶ台			縄文時代中期初頭の五領ヶ台式土器の標準遺跡。
国	史跡	日野俊墓	ひのとしもとはか	S2.4.8	鎌倉市	梶原字六本松	鎌倉市		後醍醐天皇につかえた公家で鎌倉幕府打倒計画に加わり、元弘二年にきられた日野俊基の墓とされる。
国	史跡	浄光明寺境内・冷泉為相墓	じょうこうみょうじけいだい・れいぜいためすけはか	S2.4.8	鎌倉市	扇ガ谷		H19.2.6追加指定及び名称変更 H21.7.23追加指定及び一部解除	浄光明寺は鎌倉中期創建の北条氏、足利氏ゆかりの寺院で、その境内は14世紀作成の重要文化財「浄光明寺敷地絵図」に描かれた鎌倉時代の景観を良くとどめている。冷泉為相墓は同境内に位置し、鎌倉歌壇を隆盛に導いた、歌道の由緒の地である。平成19年2月6日に既指定の冷泉為相墓に浄光明寺の境内域を追加指定し、名称を変更した。
国	史跡	極楽寺境内・忍性墓	ごくらくじけいだい・にんしょうのはか	S2.4.8	鎌倉市	極楽寺		H20.3.28追加指定及び名称変更、H20.7.28追加指定	極楽寺は中世鎌倉を代表する寺院の一つで、京鎌倉往還の鎌倉側の入り口に位置し、交通路の支配と防御の拠点となった寺院。貧民救済で名高い忍性が活動の拠点とした。忍性墓は安山岩製総高357.3センチメートルの大五輪塔。地輪から忍性と慈濟の銘文のある納骨器が出土した。

史跡

指定	分類	名称	ふりがな	指定年月日	市町村	所在地	管理団体	備考	概要
国	史跡	伝上杉憲方墓	でんうえすぎのりかたのはか	S2.4.8	鎌倉市	極楽寺	鎌倉市		極楽寺支院西方寺跡にある。墳墓堂跡と思われる石圍の構造物のまわりに七層塔他が並ぶ。
国	史跡	稲村ヶ崎(新田義貞徒涉伝説地)	いなむらがさき(にったよしさだとしょうでんせつち)	S9.3.13	鎌倉市	稲村ガ崎	鎌倉市		元弘三年、新田義貞が鎌倉攻めの際、汐の引くことを祈って太刀を海中に投じたという伝説の地。
国	史跡	若宮大路	わかみやおおじ	S10.6.7	鎌倉市	小町、御成町、由比ガ浜	鎌倉市	H18.1.26追加指定	寿永元年源頼朝が造らせた鶴岡八幡宮の参道。社前から由比ヶ浜へ一直線に走る道路である。海岸橋交差点から三の鳥居までの道路敷、歩道敷が追加指定された。
国	史跡	浄智寺境内	じょうちじけいだい	S41.2.28	鎌倉市	山ノ内			鎌倉五山第四位。境内はもと、谷全体だったと思われるが、現在伽藍は総門、鐘楼門、仏殿、庫裡のみ。
国	史跡	寿福寺境内	じゅふくじけいだい	S41.3.22	鎌倉市	扇ガ谷		H20.7.28追加指定	鎌倉五山第三位。源義朝の邸跡といわれる。境内のやぐらには、源実朝、政子の墓と伝えられる五輪塔がある。
国	史跡	永福寺跡	ようふくじあと	S41.6.14	鎌倉市	二階堂		H20.7.28追加指定	建久三年(1192)、源頼朝が平泉の中尊寺、毛越寺をまねて造った寺。平泉的仏堂が広い池に東面していたと思われる。
国	史跡	建長寺境内	けんちょうじけいだい	S41.9.12	鎌倉市	山ノ内		H19.7.26追加指定	13世紀中期に創建された我が国最初の禅宗専門道場で、鎌倉五山の第一位。禅宗式伽藍配置を鎌倉でもっともよく残している。仏殿前の柏檜(びやくしん)は古図にもある。
国	史跡	浄妙寺境内	じょうみょうじけいだい	S41.11.2	鎌倉市	浄明寺			鎌倉五山第五位。文治四年足利義兼創建の極楽寺を改称したと伝える。塔頭20を数えたがすべて廃絶した。
国	史跡	円覚寺境内	えんがくじけいだい	S42.4.24	鎌倉市	山ノ内、大船			鎌倉五山の第二位。中国の径山の伽藍配置を学び、三門、仏殿が一直線上にならぶ禅宗様伽藍配置を残す。
国	史跡	鶴岡八幡宮境内	つるがおかはちまんぐうけいだい	S42.4.24	鎌倉市	雪ノ下、小町、材木座		H17.8.29追加指定	源頼義が由比の郷に石清水八幡宮を勧請し、頼朝が現在地に移した。武家の尊崇厚く、院房も25を数えた。三方堀及び源氏池部分が追加指定されている。
国	史跡	覚園寺境内	かくおんじけいだい	S42.6.22	鎌倉市	二階堂			北条義時が自力で建立した薬師堂を前身とする。開基は北条貞時。足利尊氏が再興した。
国	史跡	亀ヶ谷坂	かめがやつざか	S44.6.5	鎌倉市	山ノ内、扇ガ谷			鎌倉七口の一つ。長寿寺の谷からくの字に折れて急な下り坂になり亀ヶ谷に入る道である。
国	史跡	巨福呂坂	こぶくろざか	S44.11.29	鎌倉市	雪ノ下			鶴岡八幡宮石段下を北西に一直線に進む道で、聖天社を左にみて山裾を進む坂路になっている。
国	史跡	仮粧坂	けはいざか	S44.11.29	鎌倉市	扇ガ谷、山ノ内、梶原、佐助		H19.7.26追加指定 H21.7.23追加指定及び一部解除	鎌倉七口の一つ。鎌倉と武蔵、上野を結んだ街道の切通道で、坂上の平場は繁華な商業地区でもあり、刑場、葬送の場でもあった。葛原が岡神社のある尾根から梅ヶ谷へ下るS字形に山腹を切りわたった坂路になっている。
国	史跡	瑞泉寺境内	ずいせんじけいだい	S46.11.8	鎌倉市	二階堂		H20.3.28追加指定	夢窓疎石が開山の中世鎌倉を代表する寺院の一つで、関東十刹の一つでもある。仏殿背後の庭園は夢窓疎石が築いたと伝えられる。
国	史跡	大仏切通	だいぶつきりどおし	S52.8.10	鎌倉市	長谷、常盤、笛田	鎌倉市	H2.3.29追加指定及び一部解除	鎌倉七口の一つ。鎌倉防衛を考慮した当時の名残と思われる切通路のくりかえしがよく旧状を残している。
国	史跡	北条氏常盤亭跡	ほうじょうしときわのていあと	S53.12.19	鎌倉市	常盤			大仏切通附近の常盤の地は、北条一族の邸宅の跡と云われてきたが、発掘で遺構が確認された。

史跡

指定	分類	名称	ふりがな	指定年月日	市町村	所在地	管理団体	備考	概要
国	史跡	明月院境内	めいげついんけいだい	S59.2.9	鎌倉市	山ノ内			明月院は鎌倉十刹の一つ禪興寺の塔頭で、その境内は旧規をよく今に伝える。
国	史跡	東勝寺跡	とうしょうじあと	H10.7.31	鎌倉市	小町	鎌倉市		北条一族が自刃した鎌倉幕府滅亡の地として、歴史上重要である。
国	史跡	法華堂跡(源頼朝墓・北条義時墓)	ほっけどうあと(みなもとのよりとものはか・ほうじょうよしとのはか)	S2.4.8 (法華堂跡) S2.6.14 (源頼朝墓)	鎌倉市	西御門二丁目・雪ノ下	鎌倉市	H12.1.31源頼朝墓と法華堂跡を統合し新たに指定 H18.7.28北条義時墓を追加指定し、名称変更	鎌倉大倉幕府跡の背後の山稜部に営まれた、幕府の創始者の源頼朝と2代執権北条義時の墳墓堂・墓所の跡で、幕府を守護する、精神的な拠り所となった宗教施設として重要。
国	史跡	鎌倉大仏殿跡	かまくらだいぶつでんあと	H16.2.27	鎌倉市	長谷四丁目、五丁目			鎌倉時代中頃に鎌倉幕府が関東鎮護の寺院として造営した中世寺院跡であり、大仏の鑄造過程を示す遺構及び大仏殿建物跡の遺構などが良好に遺存しており、幕府の宗教政策を示す遺跡としても重要。
国	史跡	荏柄天神社境内	えがらてんじんしゃけいだい	H17.7.14	鎌倉市	二階堂字荏柄			武家政権の守護神として、鶴岡八幡宮とともに信仰された詩歌信仰の中心であった神社である。
国	史跡	仏法寺跡	ぶっぽうじあと	H18.7.28	鎌倉市	極楽寺一丁目、坂ノ下			鎌倉幕府、北条氏の支援のもとで陸上・海上交通を支配した極楽寺の有力末寺の寺院跡で、元弘の鎌倉攻めの激戦地の一つでもあり、都市周縁部の葬送、供養関係の遺構も良好に残されている。
国	史跡	一升榭遺跡	いっしょうますいせき	H19.2.6	鎌倉市	極楽寺二丁目、同四丁目			鎌倉の西側山稜部の交通路を守る、方形の土塁で囲まれた、鎌倉時代の防衛施設の跡で、遺存状態も良好。北条氏の交通路支配、寺院と交通路管理の関連性等、中世都市鎌倉の特徴を考える上で重要。
国	史跡	大町釈迦堂口遺跡	おおまちしゃかどうぐちいせき	H22.8.5	鎌倉市	大町			総数64基のやぐらと、13～14世紀に造成された平場の建物等の遺構が、一体で遺存している数少ない貴重な場所であり、鎌倉において宗教的な目的で行われたと考えられる谷戸の開発と祭祀信仰のあり方を知る上で重要。
国	史跡	藤沢敵御方供養塔	ふじさわてきみかたくょうとう	T15.10.20	藤沢市	西富			禅秀の乱平定の後、応永二十五年、戦死者の供養の為に建立したもの。角塔婆である。
国	史跡	小田原城跡	おだわらじょうあと	S13.8.8	小田原市	城内、本町、幸、栄町、浜町、緑、城山、十字、谷津、南町	小田原市	S34.5.29、 S52.5.4、 H18.1.26、 H19.7.26、 H20.7.28 H22.2.22 H23.2.7 H24.9.19 H26.10.6追加指定	鎌倉時代から山城、館などがあったが、後北条氏が本拠として整備を重ね、大規模な総曲輪が築かれた。後北条氏滅亡後は、徳川譜代大名等の持城となり、近世城郭として整備された。八幡山古郭の中核部に隣接した東曲輪の一部等が追加指定された。
国	史跡	石垣山	いしがきやま	S34.5.13	小田原市	早川		H18.1.26追加指定	天正十八年、豊臣秀吉の小田原攻めの陣城。通称一夜城。崩れた石垣が累々とし、古城の雰囲気がある。本城曲輪跡の西側斜面の一部が追加指定された。
国	史跡	旧相模川橋脚	きゅうさがみがわきょうきゃく	T15.10.20	茅ヶ崎市	下町屋字中河原	茅ヶ崎市	H19.2.6追加指定	関東大震災(大正12年)の液状化現象により水田から出現した中世前半代の橋脚跡。発掘調査によって、建設当時の護岸を目的としたと考えられる土留め遺構の一部や、指定当時(大正15年)の保存工事跡が指定地外で確認されたため、これらの部分を追加指定。

史跡

指定	分類	名称	ふりがな	指定年月日	市町村	所在地	管理団体	備考	概要
国	史跡	赤坂遺跡	あかさかいせき	H23.3.8	三浦市	初声町			三浦半島の拠点集落で、南関東でも屈指の大規模集落。弥生時代中期後半から後期に継続して営まれていた県内では数少ない集落として重要。周囲を海に囲まれた立地から、遠隔地との海路での交流や漁撈活動がうかがわれる点でも学術的価値が高い。
国	史跡	伊勢原八幡台石器時代住居跡	いせはらはちまんだいせつきじだいじゅうきよあと	S9.12.28	伊勢原市	東大竹、八幡台	伊勢原市		縄文時代後期の敷石住居跡。大小の河原石を敷きつめた2つの住居跡が保存されている。
国	史跡	相模国分寺跡	さがみこくぶんじあと	T10.3.3	海老名市	国分南	海老名市		法隆寺式伽藍配置をもつ日本有数の大規模な国分寺跡、礎石は、比較的よく残されている。
国	史跡	相模国分尼寺跡	さがみこくぶんにじあと	H9.4.3	海老名市	国分北	海老名市	H14.3.19、H20.3.28追加指定	金堂は全国の国分尼寺の中で最大規模の柱間をもつ。律令制下における仏教体制の在り方を象徴する遺構として重要である。
国	史跡	秋葉山古墳群	あきばやまこふんぐん	H17.7.14	海老名市	上今泉	海老名市		弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけて営まれた古墳群である。
国	史跡	神崎遺跡	かんだきいせき	H23.2.7	綾瀬市	吉岡	綾瀬市		弥生時代後期前半という短期間に営まれた環濠集落で、東海西部からの移住があったことを明らかにしており、弥生時代後期の東海から南関東の社会のあり方を知る上で重要。また、こうした集落が完全な形で遺存している希少な例。
国	史跡	箱根関跡	はこねのせきあと	T11.3.8	箱根町	大字箱根字小田原町他	箱根町	H8.11.6、H21.7.23追加指定	芦ノ湖湖畔にあり、東海道をはさんで湖側に御番所が、山側に牢屋などが建っていた。現在復元整備されている。
国	史跡	元箱根石仏群	もとはこねせきぶつぐん	S16.10.3	箱根町	大字元箱根字提灯山	箱根町	附)永仁三年在銘石造五輪塔、石造五輪塔、永仁四年在銘石造宝篋印塔	鎌倉時代、精進池畔の露岩に合計27体の地藏等を彫った通称二十五菩薩、巨大な六道地藏などがある。
国	史跡	箱根旧街道	はこねきゅうかいどう	S35.9.22	箱根町	箱根・畑宿・湯本茶屋		H16.10.18、H21.7.23追加指定	江戸時代に整備された石畳路を数か所断続的に残し、元箱根には老杉の並木路がある。畑宿一里塚及び近辺の石畳が追加指定されている。なお、本史跡は静岡県部分を含めて指定されている。
国	史跡	名越切通	なごえきりどおし	S41.4.11	逗子市・鎌倉市	逗子市小坪、同久木、鎌倉市大町		S56.10.13、S58.11.26、H20.7.28、H21.7.23追加指定	鎌倉七口の一つ。山腹路と切通路を組み合せ、800メートルにおよぶ切岸を伴い、一大要塞をなす。
国	史跡	和賀江嶋	わかえのしま	S43.10.14	鎌倉市・逗子市	鎌倉市材木座、逗子市小坪及び海面		H18.1.26追加指定	貞永元年、往阿弥陀仏の言を入れ北条泰時以下が協力し、一ヶ月を費やして造った築港の跡である。既指定地西側及び北側の海面部分が追加指定された。
国	史跡	朝夷奈切通	あさいなきりどおし	S44.6.5	横浜市・鎌倉市	横浜市金沢区朝比奈町、鎌倉市十二所		H15.8.27、H19.7.26、H20.7.28追加指定	13世紀中期に執権北条泰時によって開削された。鎌倉七口の一つで最も高く峻険である。鎌倉と外港・六浦津を結ぶ重要交通路であり、防禦施設の名残も残されている。

史跡

指定	分類	名称	ふりがな	指定年月日	市町村	所在地	管理団体	備考	概要
国	史跡	長柄桜山古墳群	ながえさくらやまこふんぐん	H14.12.19	逗子市・葉山町	逗子市桜山、葉山町長柄			現存する県内最大級の二基(第1号墳全長90m、第2号墳全長88m)の前方後円墳からなる古墳群で、出土した埴輪片の年代観から四世紀半ばから後半に築造された前期古墳。東海地方から連続して畿内政権の勢力拡大を示唆する古墳として注目される。
国	史跡	橘樹官衙遺跡群	たちばなかんがいせきぐん	H27.3.10	川崎市	川崎市高津区千年、宮前区野川			橘樹官衙遺跡群は、7世紀後半の地方行政組織である評(ひょう)の役所の成立の背景や構造、そこから郡衙(ぐんが)へと発展する過程やその後の廃絶に至るまでの経過をたどることができる遺跡である。 7世紀から10世紀の地方官衙の実態とその推移を知る上で重要である。
国	史跡	東京湾要塞跡 猿島砲台跡 千代ヶ崎砲台跡	とうきょうわんようさいあと さるしまほうだいあと ちよがさきほうだいあと	H27.3.10	横須賀市	横須賀市猿島、西浦賀			東京湾要塞跡は、明治時代に首都防衛のため陸軍によって東京湾岸一帯に築かれた要塞の遺跡である。猿島砲台は明治17年(1884)に、千代ヶ崎砲台は同28年(1895)にそれぞれ竣工した沿海砲台である。 我が国近代の軍事、土木・建築技術の歴史を知る上で重要である。
国	史跡	下寺尾官衙遺跡群	しもてらおかんがいせきぐん	H27.3.10	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市下寺尾	茅ヶ崎市		下寺尾官衙遺跡群は、郡庁、正倉、郡寺といった地方官衙を構成する諸施設が比較的狭い範囲に密集しており、官衙遺跡群の全体像が把握できるとともに、その成立から廃絶に至るまでの過程が確認できる遺跡である。 地方官衙の構造や立地を知る上でも重要である。
県	史跡	市ヶ尾横穴古墳群	いちがおおうけつこふんぐん	S32.2.19	横浜市	青葉区市ヶ尾町			七世紀頃、丘陵の西斜面に作られた横穴が並ぶ。入口の前方に墓前祭的行事が行われた前庭部が存在する。
県	史跡	品濃一里塚	しなのいちりづか	S41.7.19	横浜市	戸塚区品濃町、平戸町			旧東海道は切り下げられたが、塚はほぼ東西に両相対し、原型に近い形で保存されている。
県	史跡	稲荷前古墳群	いなりまえこふんぐん	S45.3.24	横浜市	青葉区大場町字稲荷前			前方後円墳・前方後方墳・円墳・方墳・横穴墓が発見された。今は前方後方墳一基と方墳二基が保存されている。
県	史跡	子母口貝塚	しばくちかいづか	S32.2.19	川崎市	高津区子母口富士見台			縄文時代早期後半の子母口式土器の標準遺跡。多摩川の沖積地をのぞむ台地上に立地する。
県	史跡	東高根遺跡	ひがしたかねいせき	S46.12.21	川崎市	宮前区神木本町			弥生時代後期から古墳時代後期までの保存状態のよい住居跡。県立東高根森林公園として整備されている。
県	史跡	馬絹古墳	まぎぬこふん	S46.12.21	川崎市	宮前区馬絹			古墳時代後期、第1室・第2室・玄室からなる石室は、奥行約9メートル、幅約3メートルの堂々としたものである。
県	史跡	西福寺古墳	さいふくじこふん	S55.9.16	川崎市	高津区梶ヶ谷			六世紀中～後半。径29メートル、高さ5メートルの円墳。円筒埴輪片が発見されている。
県	史跡	茅山貝塚	かやまかいづか	S29.12.3	横須賀市	佐原			縄文時代早期末の貝塚で、明治時代からすでに知られていた。茅山式土器の標準遺跡である。
県	史跡	吉井貝塚を中心とした遺跡	よしいかいづかをちゅうしんとしたいせき	S48.11.2	横須賀市	吉井		S55.9.16 追加指定	縄文時代早期の茅山式土器を含む貝層を主体とする貝塚。平安時代末に怒田城のあったところとされる。
県	史跡	段葛	だんかづら	S30.8.30	鎌倉市	雪ノ下			若宮大路の中央に一段高土盛りをしてある参詣道。現在は二の鳥居までで終わっている。

史跡

指定	分類	名称	ふりがな	指定年月日	市町村	所在地	管理団体	備考	概要
県	史跡	百八やぐら(覚園寺)	ひゃくはちやぐら(かくおんじ)	S36.7.4	鎌倉市	二階堂			鎌倉時代後半から室町時代にかけて山腹に営造された中世墳墓窟。150穴を数える。
県	史跡	石橋山古戦場のうち与一塚及び文三堂	いしばしやまこせんじょうのうちよいちづかおよびぶんぞうどう	S29.3.30	小田原市	米神、石橋			治承四年八月、石橋山における源頼朝率兵の先陣で討死した佐那田与一義忠と家臣豊三家康の墓である。
県	史跡	堤貝塚	つつみかいづか	H4.2.14	茅ヶ崎市	堤字南谷			縄文時代後期前半の貝塚で、貝層及びその下に竪穴住居跡、石囲い炉が確認された。
県	史跡	毘沙門洞窟弥生時代住居址群	びしゃもんどうくつやよいじだいじゅうきょしぐん	S35.11.4	三浦市	南下浦町毘沙門字八浦原			四つの海蝕洞窟中に、下層から弥生式後期土器片などが、上層から古墳時代の埋葬例が発見された。
県	史跡	二子塚古墳	ふたごづかこふん	S58.8.30	秦野市	下大槻字ニタ子			六世紀後半の全長46メートルの前方後円墳。確認調査の結果、横穴式石室が発見された。
県	史跡	上浜田中世建築遺構群	かみはまだちゅうせいけんちくいこうぐん	S56.2.10	海老名市	浜田町			南北朝～室町時代。掘立柱建物址8棟を中心とする主屋、付属屋の存在や中国産青磁等の出土によって上層階級の住居遺構と推定される。
県	史跡	早川城跡	はやかわじょうあと	H20.2.5	綾瀬市	早川城山三丁目			早川城跡は、古くから城山(じょうやま)と呼ばれ、鎌倉時代の御家人で当地の領主であった渋谷氏の居城と伝えられる中世の城跡。 城跡は、往時の姿を現在までよくとどめており、遺存状態が良好な中世城郭として貴重。
県	史跡	釜口古墳	かまぐちこふん	S29.3.30	大磯町	大磯字前谷原			奈良時代初。傾斜のゆるい山腹にあり、横穴式石室をもつ古墳。散蓮華形銅製小匙などが発見された。
県	史跡	たれこ谷戸西横穴群	たれこやとにしおうけつぐん	S41.7.19	大磯町	虫窪字たれこ谷戸			22穴からなり、すでに前壁を失った最末期型のもの。21号穴には蓮の座に座す如来像が浮彫されている。
県	史跡	庄ヶ久保横穴群	しょうがくぼおうけつぐん	S41.7.19	大磯町	国府本郷字庄ヶ久保			八世紀後半。丸穴からなる群で玄室と羨道との境を失った最末期型のもの。線刻画のあるものがある。
県	史跡	楊谷寺谷戸横穴群	ようこくじやとおうけつぐん	S41.7.19	大磯町	楊谷寺谷戸			山腹に四段にわたって分布し、27穴からなる。造築時期により、形が簡略化されていった様子がわかる。
県	史跡	河村城跡	かわむらじょうあと	H8.2.13	山北町	字山北他		H15.2.10 追加指定	河村氏の居城と伝えられる中世の山城。畝堀(障子堀)が良好な状態で確認された。
県	史跡	土肥椋山巖窟(伝源頼朝隠潜地)	とひすぎやまがんくつ(でんみなもとのよるともいんせんち)	S30.11.1	湯河原町	吉浜字鍛冶屋			石橋山合戦で敗れた源頼朝主従が逃げこんだと伝えられる岩穴である。真鶴にも同じ伝説が残っている。
県	史跡	土肥一族の墓所	とひいちぞくのぼしよ	S30.11.1	湯河原町	城堀字御庭平			鎌倉時代の層塔、宝塔や大小五輪塔四十基などが城願寺境内に集まって一族の墓と伝えられている。

名勝(名勝, 史跡・名勝, 天然記念物及び名勝)

指定	分類	名称	数量又は面積	ふりがな	指定年月日	市町村	所在地	所有者等	備考1	備考2	重複指定	概要
国	名勝及び史跡	建長寺庭園		けんちょうじていえん	S7.7.23	鎌倉市	山ノ内			史跡建長寺境内の内	国史跡	鎌倉五山の第一。禅宗式伽藍配置を鎌倉でもっともよく残している。仏殿前の柏横は古図にもある。当該物件を含む建長寺境内は、史跡としても国の指定を受けている。
国	名勝及び史跡	円覚寺庭園		えんがくじていえん	S7.7.23	鎌倉市	山ノ内			史跡円覚寺境内の内	国史跡	鎌倉五山の第二。中国の径山の伽藍配置を学び、三門、仏殿が一直線上にならぶ禅宗様伽藍配置を残す。当該物件を含む円覚寺境内は、史跡としても国の指定を受けている。
国	名勝	山手公園		やまてこうえん	H16.2.27	横浜市	中区山手町、中区妙香寺台					明治時代初頭に横浜の外国人居留地に設置された我が国最初の公園であり、開設当時から継承する多くの諸要素が一体となって、現状に見る優秀な風致景観を形成していることから、学術上、観賞上の高い価値を有する公園である。
国	名勝	三溪園		さんけいえん	H19.2.6	横浜市	中区本牧三之谷、同本牧間門					近代横浜を代表する実業家である原富太郎(三溪)が明治時代後期から造営した自邸の庭園。起伏に富む広大な敷地に古建築を移築し、池や溪流を築造した自然主義に基づく風景式庭園で、学術上・芸術上・鑑賞上の価値は極めて高い。
国	名勝	瑞泉寺庭園		ずいせんじていえん	S46.11.8	鎌倉市	二階堂		H20.3.28 追加指定	史跡瑞泉寺境内の内		関東十刹の一つ。仏殿背後の庭園は夢窓疎石が築いたと伝えられ、発掘整備された。当該物件を含む瑞泉寺境内は、史跡としても国の指定を受けている。
県	天然記念物及び名勝	天神島、笠島及び周辺水域		てんじんじま、かさじまおよびしゅうへんすいしいき	S40.8.10	横須賀市	佐島及び芦名地先の水域		S50.10.17 追加指定		県天然記念物	動植物、地質の海陸共に貴重な自然が豊富な資料として狭い地域に調和している貴重な地域である。当該物件は天然記念物としても、県の指定を受けている。
県	史跡・名勝	江ノ島		えのしま	S35.10.4	藤沢市	江の島				県史跡	第三紀の凝灰質砂岩からなり、洞窟や岩嘴が奇異な形をなして、古くからその名勝をうたわれている。当該物件は史跡としても県の指定を受けている。
県	名勝	洒水の滝		しゃすいのたき	S30.5.10	山北町	平山字向山、字上野山、字滝					礫岩層にかかる三段の滝。最大の一の滝は69.3メートル。修験道の滝行場として有名。

天然記念物

指定	分類	名称	ふりがな	指定年月日	市町村	所在地	備考	概要
国	天然記念物	旧相模川橋脚	きゅうさがみがわきょうきやく	H25.3.27	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市下町屋1-551-2他		関東大震災(大正12年)の液状化現象により水田から出現した中世前半代の橋脚跡。災害復旧などにより保存が難しい填砂や地層の変形といった液状化現象の様相をよくとどめている。
国	天然記念物	早川のピランジュ	はやかわのびらんじゅ	T13.12.9	小田原市	早川飛乱地1374-1		ハダカノキともいわれるサクラ科の常緑広葉樹。分布の北限にあたる。根廻り6メートル、高さ20メートル。
国	天然記念物	諸磯の隆起海岸	もろいそのりゅうきかいがん	S3.3.24	三浦市	三崎町諸磯字石打789		穿孔貝の巣穴によって過去の汀線の位置や高度をみいだすとともに、過去の大地震の間隔や隆起量を推定しうる場所。
国	天然記念物	篝スギ	ほうきすぎ	S9.3.26	山北町	大字中川702		中川ぞいの県道わきの傾斜地に直立する杉の大木。目通り10メートル樹高45メートル、県下の大スギ。
国	天然記念物	箱根仙石原湿原植物群落	はこねせんごくはらしつげんしよくぶつくんらく	S9.1.22	箱根町	仙石原字大原817-66		箱根火山の火口原に発達したもので、ミスゴケ類の湿地からヨシ、ハンノキ群落までみられる代表的な湿原。
国	天然記念物	城願寺のビャクシン	じょうがんじのびやくしん	S14.9.7	湯河原町	城堀字御庭平252		目通5.9メートル、樹高18メートル、推定樹齢750年のビャクシンの大木。源頼朝の家臣により植えられたとの伝説をもっている。
国	天然記念物	山神の樹叢	やまのかみのじゅそう	S14.9.7	湯河原町	城堀字山神331~3		暖帯性の常緑広葉樹林。ホルトノキを中心にヤブニッケイ、タブノキ、ヒメユズリハなどからなる。
県	天然記念物	日野のシイ	ひののしい	S36.3.14	横浜市	港南区日野中央		原家の庭に在るスダジイの大木、樹高約20メートル、目通しは4.3メートル。
県	天然記念物	旧城寺の寺林	きゅうじょうじのじりん	S55.2.15	横浜市	緑区三保町2029-1、2030~4、2038~9		県下の内陸台地に残された典型的な郷土林で、カヤ、アラカシ、シラカシ、ケヤキなどの大木が密閉した樹冠を形成している。
県	天然記念物	根岸八幡神社の社叢林	ねぎしはちまんじんじあのしゃそうりん	S55.2.15	横浜市	磯子区西町171		急な崖上を発達した常緑広葉樹林でタブノキ、スダジイを中心とし、カクレミノ大木も混える。
県	天然記念物	宝生寺・弘誓院の寺林	ほうしょうじ・ぐぜいいんのじりん	S55.2.15	横浜市	南区堀ノ内1-68-1、南区睦町2-226、228、229		タブノキ、スダジイ、シラカシなど関東地方の常緑広葉樹林の主木による横浜市内でも有数のまとまった林相をもつ寺林。
県	天然記念物	益田家のモチノキ	ますだけのもちのき	S56.7.17	横浜市	戸塚区柏尾町		樹高18メートルと19メートルの2本の雌株が並び、旧東海道に面して育ち、樹勢は良好。
県	天然記念物	師岡熊野神社の社叢林	もろおかくまのじんじあのしゃそうりん	H3.2.8	横浜市	港北区師岡町字表谷戸1137-2		針葉樹の植栽もみられず、各階層に常緑広葉樹の種群がバランスよく育成している。
県	天然記念物	森浅間神社とその周辺の樹叢	もりせんげんじんじあのしゅうへんのじゅそう	H6.2.15	横浜市	磯子区森2-463-1他		スダジイが優占する常緑広葉樹林で、市街地内に残された貴重な自然林。
県	天然記念物	東高根のシラカシ林	ひがしたかねのしらかしりん	S46.12.21	川崎市	宮前区神木本町2-10-1		シラカシ群集を中心とした常緑広葉樹林であり、関東平野の内陸台地の本来の植生状態をよく示している。

天然記念物

指定	分類	名称	ふりがな	指定年月日	市町村	所在地	備考	概要
県	天然記念物	春日神社、常楽寺及びその周辺の樹叢	かすがじんじゃ、じょうらくじおよびそのしゅうへんのじゅそう	H4.2.14	川崎市	中原区宮内字白田耕地614 他		市街地内に残された貴重な郷土林。
県	天然記念物	諏訪神社の大杉	すわじんじゃのおおすぎ	S28.12.22	相模原市	緑区青根1304		諏訪神社の御神木。雄大なスギの単木で樹高45.5メートル、目通し9メートル、根回り12.5メートルに達する。
県	天然記念物	石榎尾神社(名倉)の二本杉と社叢	いわたておのじんじゃ(なぐら)のにほんすぎとしゃそう	S47.2.25	相模原市	緑区名倉4523 他		ウラジロガシの群落は、自然林のおもかげを残している。また境内地の中央に二本杉がある。
県	天然記念物	キマダラルリツバメとその生息地	きまだらるりつばめとそのせいそくち	S52.11.18	相模原市	緑区(旧藤野町全域)		幼生時にシリアゲアリと完全な共存をする特別な生態をもつ蝶で、個体数も極めて少ない。
県	天然記念物	カタクリの自生地	かたくりのじせいち	S53.6.23	相模原市	緑区牧野		県内の数が所のカタクリ自生地の中でも、もっとも自然に近い状態で現存している。
県	天然記念物	ギフチョウとその生息地	ぎふちょうとそのせいそくち	S57.12.28	相模原市	緑区(旧藤野町全域)		春の女神と称される愛らしいチョウ。太平洋側での分布の東限域に当たるが、県内では絶滅に瀕している。
県	天然記念物	はまおもと	はまおもと	S28.12.22	横須賀市	佐島水尻1457-1～5及び1458		ヒガンバナ科の常緑多年草。佐島は分布北限域の一つ。自生限界は年平均気温14度の等温線とほぼ一致する。
県	天然記念物	大松寺林	だいしょうじりん	S51.8.20	横須賀市	小矢部3-1082-1、1076		三浦半島の郷土林として残り少ない貴重な歴史を経た常緑広葉樹の寺林。
県	天然記念物	叶神社の社叢林	かのうじんじゃのしゃそうりん	S51.12.17	横須賀市	東浦賀町2-59-1他		常緑広葉樹林が、社叢林として保護され、安定した自然林として残されている。
県	天然記念物	白髭神社の社叢林	しらひげじんじゃのしゃそうりん	S51.12.17	横須賀市	野比字中村261		海岸に面した神社林は風衝作用により低くおさえられ、厳しい立地条件に対応して成立するスタジイ林の典型。
県	天然記念物	三島社の社叢林	みしましゃのしゃそうりん	H4.2.14	横須賀市	武1-2749-1他		アカガシ、スタジイ、モチノキが混生した常緑広葉樹林。
県	天然記念物	勝福寺の大イチョウ	しょうふくじのおおいちょう	S32.2.19	小田原市	飯泉1161		目通し7.5メートル、高さ25メートルある雄株の大イチョウ。
県	天然記念物	神奈川県立小田原高等学校の樹叢	かながわけんりつおだわらこうとうがっこうのじゅそう	S46.3.30	小田原市	城山3-963-20及び城山3-1112-1		学校の南面に残された、数少ない残存照葉樹林。
県	天然記念物	勝福寺と八幡神社境内の樹叢	しょうふくじとはちまんじんじゃけいだいのじゅそう	S47.7.21	小田原市	飯泉1158他、1162-1 他		ケヤキ、ムクノキ、イチョウなどの落葉高木を主としてクスノキ、カヤなどの常緑の高木が生育している社寺林。
県	天然記念物	中津層群神沢層産出の脊椎動物化石	なかつそうぐんかんざわそうさんしゅつのせきついでうぶつかせき	H6.2.15	小田原市	入生田499 神奈川県立生命の星・地球博物館		新生代第三紀鮮新世後期から産出した脊椎動物化石標本で、古環境、生物相を解明するうえで学術的価値が高い。
県	天然記念物	浄見寺のオハツキイチョウ	じょうけんじのおはつきいちょう	S36.3.14	茅ヶ崎市	堤4317		5～10センチメートルの葉柄に不整形の葉をつけるが、その葉片の基部に多少変形ぎみの果実をつけるイチョウの大木。

天然記念物

指定	分類	名称	ふりがな	指定年月日	市町村	所在地	備考	概要
県	天然記念物	鶴嶺八幡のイチヨウ	つるみねはちまんのいちょう	S37.10.2	茅ヶ崎市	浜之郷462		勢いのよい木が4、5本癒着して生長をつづけ現在の幹を形づくったと見られる。目通し8メートル、高さは27メートル。
県	天然記念物	浄見寺の寺林	じょうけんじのじりん	S42.7.21	茅ヶ崎市	堤4318、4329～30		かつてのこの付近の自然林の面影を残した貴重な寺林。
県	天然記念物	五霊神社の大イチヨウとその周辺の樹木	ごりょうじんじゃのおおいちょうとそのしゅうへんのじゅもく	S42.7.21	逗子市	沼間3-10-34		樹高25メートルのイチヨウの大木を中心に、暖帯性の広葉樹林の代表的な種により組成されている。
県	天然記念物	鎧摺の不整合を示す露頭	あぶずりのふせいごうをしめするとう	S52.5.20	逗子市	桜山9-2405-21		三浦半島でもっとも古い地層である葉山層とその上部の三浦層とがなす典型的な不整合を示すもの。
県	天然記念物	漣痕(波調層)	れんこん(はちょうそう)	S32.2.19	三浦市	海外町3958地先岩礁		新生代第三紀中新世の中頃堆積した三崎累層に、当時の波状の漣痕がよく保存されている。
県	天然記念物	城ヶ島のウミウ、ヒメウ及びクロサギの生息地	じょうがしまのうみう、ひめうおよびくろさぎのせいそくち	S35.5.31	三浦市	城ヶ島		城ヶ島南端の高さ約30メートルの懸崖で、冬期の岩棚に約2千羽のウミウ、それにヒメウ、クロサギが共同生息している。
県	天然記念物	三浦市海外町のスランブ構造	みうらしかいとちょうのすらんぷこうぞう	S53.9.1	三浦市	海外町4228-6の内		岩が未固結のコロイド状態の時、海底地すべりによって転位変形した結果生じたものと思われる。典型的な褶曲型スランブ構造。
県	天然記念物	鶴巻の大欅	つるまきのおおけやき	S28.12.22	秦野市	鶴巻南4-23		根回り12.25メートル、目通し10メートル、樹高30メートルの大ケヤキ。
県	天然記念物	妻田の楠	つまだのくすのき	S29.3.30	厚木市	妻田653		常緑広葉樹。樹高約22メートル、目通し約11メートル、根回り約17.5メートル。内陸部には珍しい大きなクスノキ。
県	天然記念物	松石寺の寺林	しょうせきじのじりん	H3.2.8	厚木市	上荻野字真弓4227 他	H20.2.5追加指定	内陸に残されたヤブコウジ・スタジイ群集の数少ない郷土森として重要。
県	天然記念物	大和のシラカシ林	やまとのしらかしりん	S42.7.21	大和市	上草柳1712、1713、1722、1723		相模原台地の傾面景観を残している貴重な林。
県	天然記念物	大福寺の大楠	だいふくじのおおくすのき	S30.5.10	伊勢原市	伊勢原262		根回り18メートル、樹高30メートル、5本の太い枝が約30メートルも四方に枝張りを広げる大クスノキ。
県	天然記念物	宝城坊の二本杉	ほうじょうぼうのにほんすぎ	S30.11.1	伊勢原市	日向1644		約4メートルを隔てて二本並ぶスギの大木。南のものは目通し7.2メートル、樹高50メートル。北のものは目通し5.5メートル、樹高45メートル。
県	天然記念物	大山の原生林	おおやまのげんせいりん	S41.10.25	伊勢原市	大山阿夫利山6-1及び43-6		傾面に残るモミを主体とした原生林。
県	天然記念物	日向薬師の寺林	ひなたやくしのじりん	H3.2.8	伊勢原市	日向字日向山1639 他		自然植生種と植栽樹種で構成されているとともに景観的に優れている。
県	天然記念物	海老名の大欅	えびなのおおけやき	S29.3.30	海老名市	国分南1-1150		樹高約20メートル、目通し約7.5メートル、根回り15.3メートルの大ケヤキ。

天然記念物

指定	分類	名称	ふりがな	指定年月日	市町村	所在地	備考	概要
県	天然記念物	有馬のはるにれ(通称なんじゃもんじゃ)	ありまのはるにれ(つうしょうなんじゃもんじゃ)	S29.7.27	海老名市	本郷3881		落葉高木で寛永年間にこの地に移植されたと伝えられる。樹高20メートル、目通し6.58メートル、幹には空洞がある。
県	天然記念物	大雄山杉林	だいゆうざんすぎばやし	S28.12.22	南足柄市	関本字浦山大雄山最乗寺参道両側5間以内と寺院境内		応永以来植林、保護育成され、現在樹齢約350～450年、約2万本の杉林となっている。
県	天然記念物	御嶽神社の社叢林	みたけじんじやのしゃそうりん	H6.2.15	南足柄市	三竹343-1他		スダジイ、カシを主体とした常緑広葉樹で、貴重な自然林。
県	天然記念物	大磯高麗山の自然林	おおいそこまやまのしぜんりん	S47.3.31	大磯町	高麗580-1、577-2、579、580-2～5		東海道線沿線で常緑広葉樹からなる自然林の残存している唯一のもの。
県	天然記念物	鷹取神社の社叢林	たかとりじんじやのしゃそうりん	H4.2.14	大磯町	生沢字鷹取1401他		スダジイ、タブノキによる深山の郷土林。
県	天然記念物	大磯照ヶ崎のアオバト集団飛来地	おおいそてるがさきのあおばとしゅうだんひらいち	H8.2.13	大磯町	大磯字南下町1398-2地先岩礁		海水を飲むという興味深い習性を持つアオバトが多数飛来する岩礁海岸。
県	天然記念物	ナシ、モモ原木群	なし、ももげんぼくぐん	S47.7.21	二宮町	二宮1217		ナシ11本、モモ1本の品種改良上、各品種に遺伝的に固定した原木である。
県	天然記念物	中井のエンジュ	なかいのえんじゅ	S33.6.17	中井町	雑色郷中226		マメ科の落葉高木。この木は落雷によって損傷を受けているが、根回り9.8メートル、高さ16.2メートルある。
県	天然記念物	頼政神社のトチノキ	よりまさじんじやのとちのき	S39.12.15	山北町	神縄477		落葉高木。主幹がまっすぐに伸び、樹高約25メートルに達する。
県	天然記念物	シダ類植物群落とその生育地	しだるいしょくぶつぐんらくとそのせいそくち	S44.12.2	山北町	皆瀬川字蛇石1238-1及び2、大字山北長岩3869	S53.6.23追加指定	イワダレヒトツバ、ハコネシダ、マメツタ、イワヒバなどのシダ植物による特徴的な断崖植物群落。
県	天然記念物	山北町岸のヒキガエル集合地	やまきたまちきのひきがえるしゅうごうち	S47.2.25	山北町	岸1640、1714		新篇相模風土記稿に「蛙合戦あり」と記載のある場所。繁殖のため、三月中旬産卵のため集まる。
県	天然記念物	西丹沢の董青石、ベスブ石及び大理石	にしたんざわのきんせいせき、べすぶせきおよびだいいりせき	S50.2.7	山北町	中川927-2の内		白石沢を中心とした斜面は、接触変成帯として知られ、珍しい変成鉱物を産出する。
県	天然記念物	山北町高杉のウラジロガシ	やまきたまちたかすぎのうらじろがし	S53.11.17	山北町	皆瀬川字南平1409-11 他		ウラジロガシの大木。樹高約21メートル、根廻り約5メートルで、四方に分枝が広がり約340平方メートルの樹冠を形成する。
県	天然記念物	山北町人遠のネフロレピディナを含む石灰岩	やまきたまちひとどうのねふるれびでいなをふくむせっかいがん	S55.2.15	山北町	皆瀬川字アコヤ1771、1772-イ～ロ		新生代第三紀中新世の下部の示準化石であるネフロレピディナを含む石灰岩。
県	天然記念物	ひめしゃらの純林	ひめしゃらのじゅんりん	S28.12.22	箱根町	元箱根90-2		ツバキ科の落葉高木で純林を形成することは珍しい。また群落分布の北限域にあたる。
県	天然記念物	箱根二子山の風衝低木植物群落	はこねふたごやまのふうしょうていぼくしょくぶつぐんらく	S48.5.18	箱根町	畑宿字二子山395-26、同字二会平334-12		単独峰のため年間を通して強風が続くため、特有の風衝植物群落が生育している。

天然記念物

指定	分類	名称	ふりがな	指定年月日	市町村	所在地	備考	概要
県	天然記念物	早雲寺林	そううんじりん	S53.6.23	箱根町	湯本398 他		スタジイを中心とする寺林で、ヒメハルゼミ(町指定天然記念物)も生息する。
県	天然記念物	真鶴半島沿岸に生息するウメボシイソギンチャクとサンゴイソギンチャク	まなづるはんとうえんがんにせいそくするうめぼしいそぎんちゃくとさんごいそぎんちゃく	S54.2.16	真鶴町・湯河原町	真鶴岬三ツ石周辺海域(ウメボシイソギンチャク)、福浦カツラゴ地先海域(サンゴイソギンチャク)		ウメボシイソギンチャクは三崎以南の暖海の岩礁に分布し、色は濃紅色で非常に美しい種類。一方サンゴイソギンチャクはすこぶる大形の熱帯性のイソギンチャク。
県	天然記念物	真鶴半島の照葉樹林	まなづるはんとうのしょうようじゅりん	H21.2.3	真鶴町	真鶴字岬1171-1他		昔から漁師の間で「魚を育てる森」すなわち「魚付き保安林」として大切に保護され、地元では「御林(おはやし)」として親しまれている。相観的にはクスノキ林やスタジイ林などの照葉樹林と、マツ林からなっている。神奈川県海岸部を代表する照葉樹林であり、半島としてまとまった面積で残されていることは貴重である。
県	天然記念物	八菅神社の社叢林	はすげじんじやのしゃそうりん	H3.2.8	愛川町	八菅山字宮村139-1他		スタジイ林が広範囲にまとまっており、貴重である。
県	天然記念物	丹沢札掛のモミ林	たんざわふだかけのもみりん	S48.12.21	清川村	煤ヶ谷字丹沢山5172の内		ツガを混えて相観的にも、また自然相生としても珍しいモミ林。
県	天然記念物	八幡神社の社叢林	はちまんじんじやのしゃそうりん	S51.3.23	清川村	煤ヶ谷字八幡1554-1～2、1555		安定立地本来の自然植生として残存する貴重な郷土林。

登録有形文化財の登録状況

No	登録	名称	ふりがな	所在地	建設年代	構造概要	所有者	登録日	概要
1	1	神奈川県庁本庁舎	かながわけんちょうほんちょうしゃ	横浜市中区日本大通1	昭和3年	SRC5B1	神奈川県	平成8年12月20日	外観の全体構成はクラシックであるが、細部は幾何学的な独自の意匠が用いられ、後の帝冠様式の先駆けである。スクラッチタイル張りの外観と中央の高塔が特徴的で、「キング」の愛称で親しまれている。
2	2	横浜市西谷浄水場濾過池整水上屋3号棟	よこはましにしゃじょうすいじょうろかちせいすいしつうわやさんごうどう	横浜市保土ヶ谷区川島町52-2	大正4年	煉瓦1	横浜市	平成9年6月12日	整水上屋は、内法10フィート角の正方形で、花崗岩切石の土台に煉瓦一枚積みで外壁を造り、銅板葺の特異な宝形屋根をかける。浄水・排水井上屋は八角形の煉瓦造で規模が一回り大きい。構造及び意匠は整水上屋と共通である。
3		横浜市西谷浄水場濾過池整水上屋4号棟	よこはましにしゃじょうすいじょうろかちせいすいしつうわやよんごうどう	横浜市保土ヶ谷区川島町52-2	大正4年	煉瓦1	横浜市	平成9年6月12日	
4		横浜市西谷浄水場濾過池整水上屋7号棟	よこはましにしゃじょうすいじょうろかちせいすいしつうわやなごうどう	横浜市保土ヶ谷区川島町52-2	大正4年	煉瓦1	横浜市	平成9年6月12日	
5		横浜市西谷浄水場濾過池整水上屋8号棟	よこはましにしゃじょうすいじょうろかちせいすいしつうわやはごうどう	横浜市保土ヶ谷区川島町52-2	大正4年	煉瓦1	横浜市	平成9年6月12日	
6		横浜市西谷浄水場配水池浄水井上屋	よこはましにしゃじょうすいじょうろはいすいちじょうすいいうわや	横浜市保土ヶ谷区川島町52-2	大正4年	煉瓦1	横浜市	平成9年6月12日	
7		横浜市西谷浄水場配水池配水井上屋	よこはなしにしゃじょうすいじょうろはいすいちはいすいいうわや	横浜市保土ヶ谷区川島町52-2	大正4年	煉瓦1	横浜市	平成9年6月12日	
8	3	富士屋ホテル本館	ふじやほてるほんかん	箱根町宮ノ下359	明治24年	木造2	富士屋ホテル株式会社	平成9年12月12日	
9		富士屋ホテル一号館	ふじやほてるいちごうかん	箱根町宮ノ下359	明治39年	木造2	富士屋ホテル株式会社	平成9年12月12日	
10		富士屋ホテル二号館	ふじやほてるにごうかん	箱根町宮ノ下359	明治39年	木造2	富士屋ホテル株式会社	平成9年12月12日	
11		富士屋ホテルアイリー	ふじやほてるあいりー	箱根町宮ノ下359	明治17年	木造2	富士屋ホテル株式会社	平成9年12月12日	
12		富士屋ホテル花御殿	ふじやほてるはなごてん	箱根町宮ノ下359	昭和11年	RC5	富士屋ホテル株式会社	平成9年12月12日	
13		富士屋ホテル食堂	ふじやほてるしょくどう	箱根町宮ノ下359	昭和5年	RC・木造2	富士屋ホテル株式会社	平成9年12月12日	
14		富士屋ホテル菊華荘	ふじやほてるきっかそう	箱根町宮ノ下359	明治28年	木造1	富士屋ホテル株式会社	平成9年12月12日	
15	4	二ヶ領用水久地円筒分水	にかりょうようすいくじえんどうぶんすい	川崎市高津区久地341	昭和16年	RC	川崎市	平成10年4月21日	サイフォンの原理の応用により湧き上がった水を、円筒の周囲に配された4つの水路に分水する。この形式の分水施設は数多く作られたが、その初期の事例である。
16	5	川崎河港水門	かわさきこうすいもん	川崎市川崎区港町66地先	昭和3年	RC	川崎市	平成10年9月2日	鉄筋コンクリートと金森式鉄筋煉瓦が併用される。門構頂部に果物をあしらった飾りを載せるなど土木構造物としては極めて装飾的で異彩を放っている。
17	6	山口家住宅主屋	やまぐちけじゅうたくおもや	伊勢原市上粕屋862	江戸末期/明治元年移築	木造2	個人	平成10年9月2日	当地域の自由民権運動の中心的役割を担った旧家で、六間取りの民家であるが、二階に二間続きの数寄屋風座敷を明治初期に増築している。
18		山口家住宅離れ	やまぐちけじゅうたくはなれ	伊勢原市上粕屋862	江戸末期/明治元年移築	木造2	個人	平成10年9月2日	主屋の北端から雁行形に増築され、奥に二階建ての土蔵を付ける。八帖と六帖の二間からなり、三方に縁側を回す。
19	7	旧横浜居留地煉瓦造下水道マンホール	きゅうよこはまきよりゅうちれんがづくりげすいどうまんほーる	横浜市中区日本大通	明治14~16年	煉瓦	横浜市	平成10年9月2日	明治初年のブライトン設計の陶管下水道を煉瓦造に改造した際の施設。日本人の計画による最初の近代下水道構。
20	8	川島町旧配水計量室上屋	かわしまちょうきゅうはいすいけいりょうしつうわや	横浜市保土ヶ谷区川島町578-12	大正3年	煉瓦1	横浜市	平成10年9月2日	同時期建設の西谷浄水場の下方に位置する。浄水場内の上屋と同様の造りであるが、外装には格別の仕様がとられている。

登録有形文化財の登録状況

No	登録	名称	ふりがな	所在地	建設年代	構造概要	所有者	登録日	概要
21	9	横浜市水道局青山水源事務所旧青山取水口	よこはましすいどうきょくあ おやますいげんじむしよき うあおやましゆすいくち	相模原市緑区青山3482	明治30年	土木	横浜市	平成10年10月9日	取水地を道志川上流右岸に移した際の遺構。流水除けの鉄柵の内側に玉石を詰め、英国グラスゴーのレイドロー・アンド・サンズの鉄管2本立てで直接取水する構造をとる。
22		横浜市水道局青山水源事務所旧青山沈殿池	よこはましすいどうきょくあ おやますいげんじむしよき うあおやましちんでんち	相模原市緑区青山3482	明治30年	土木	横浜市	平成10年10月9日	コンクリート造、約30m角の規模で、2池に分け、法面を玉石貼りとする(第2次拡張時に約半分に縮小)。
23	10	吉池旅館別荘(旧岩崎弥之助別邸和館)	よししいけりよかんべつそう (きゅういわざきやのすけ べつていわかん)	箱根町湯本597-1	明治37年頃	木造1	株式会社吉池旅館	平成10年12月11日	明治期箱根の和風別荘建築を代表する遺構のひとつ。入母屋椼瓦葺、銅板葺四方下屋付きの数寄屋を雁行させる。
24	11	箱根登山鉄道早川橋梁	はこねとざんでつどうはやか わきょうりょう	箱根町塔之澤字臺ヶ嶽192-7 ~大平台字吹付道下10-3	明治21年製作、 大正6年移設	土木	箱根登山鉄道株式会社	平成11年6月7日	明治中期を代表する鉄道遺構であるイギリス製ピン結合200tダブルワーレントラス、東海道線開通時(明治22年)天竜橋梁の1連で、イギリス製煉瓦混合桁と伝えられる。
25	12	昭和電工川崎工場本事務所	しょうわでんこうかわさきこ うじょうほんじむしょ	川崎市川崎区扇町5-1	昭和6年	RC2	昭和電工株式会社川崎工場	平成11年8月23日	RC造り2階建、陸屋根の事務所建築で、正面中央に車寄を低平に突き出し、縦長の窓を並べた簡潔な外観意匠。昭和初期京浜工業地帯における工場事務所建築の代表的事例のひとつ。
26	13	市立港中学校門柱(旧花園橋親柱)	しりつみなとちゅうがっこう もんちゅう(きゅうはなその ばしおやばしら)	横浜市中区山下町241	昭和3年	石造	横浜市	平成11年11月18日	震災復旧事業の一環で大岡川に架けられた花園橋の親柱を移設したもの。石柱と鑄鉄製照明部から構成され、全体にアールデコ調の意匠が施される。
27	14	横須賀市水道局走水源地煉瓦造貯水池	よこすかしすいどうきょくは しりみずすいげんちれんがづ くりちよすいち	横須賀市走水1-1-26	明治35年	煉瓦	横須賀市	平成12年2月15日	上屋付き煉瓦造貯水池。内部空間を扁平ヴォールトが、入口・丸窓を左右対称に配した壁面で覆われ、屋上は盛土される。
28		横須賀市水道局走水源地鉄筋コンクリート造浄水池	よこすかしすいどうきょくは しりみずすいげんちてつきん こんくりとづくりじょうす いち	横須賀市走水1-1-26	明治41年	RC	横須賀市	平成12年2月15日	上屋付き浄水池。内部は鉄筋コンクリートの5連馬蹄形ヴォールトで構成され、外壁には石で縁取りされた丸窓を一列に配す。
29	15	奈良屋旅館一・二号別館	ならやりよかんいち・にご うべっかん	箱根町宮ノ下162	大正7年	木造1	株式会社鈴廣蒲鉾本店	平成12年2月15日	一号館は木造平屋建、入母屋造で、西側に入母屋破風の車寄、南端に書院造風の座敷をもつ。北方に入母屋造中核とした二号館を延ばす。
30	16	横浜国立大学名教自然碑	よこはまこくりつだいがくめ いきょうしぜんひ	横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5	昭和12年/ 昭和54年 移築	石造	国(文部科学省)	平成12年4月28日	横浜高等工業学校初代校長である鈴木達治の功績を讃えて建てられた。端正な比例と素材を生かした造形に気品と記念性がうかがわれる。
31	17	鎌倉国宝館本館	かまくらこくほうかんほんか ん	鎌倉市雪ノ下2-1051-2	昭和3年	RC2	鎌倉市	平成12年4月28日	鉄筋コンクリートによる高床式校倉風建築で、中世の禅宗様の建築様式がコンクリートで再現されるなど近代的な技法により和風表現がされている。
32	18	鎌倉文学館本館	かまくらぶんがくかんほんか ん	鎌倉市長谷1-215	昭和11年	RC・木造3	鎌倉市	平成12年4月28日	もと加賀藩主の家系、前田利為侯爵・陸軍大将の別荘として建てられた、鎌倉に現存する戦前に建てられた最大の洋風邸宅建築。
33	19	小田原文学館(旧田中光顕別邸)本館	おだわらぶんがくかん(きゅ うたなかみつあきべつてい) ほんかん	小田原市南町2-3-4	昭和12年	RC3	小田原市	平成12年9月26日	宮内大臣などを務めた田中光顕の別邸で、展示施設として活用。モダニズムの特徴を示し、近代別荘地の景観を伝えている。
34		小田原文学館(旧田中光顕別邸)別館	おだわらぶんがくかん(きゅ うたなかみつあきべつてい) べっかん	小田原市南町2-3-18	大正13年	木造2	小田原市土地開発公社	平成12年9月26日	田中光顕の別邸で、白秋童謡館として活用。屋根は入母屋造、瓦葺銅板葺。内部は数寄屋風の意匠で、玄関奥には洋室をもつ。
35	20	松永記念館老樺荘(旧松永安左衛門邸)	まつながきねんかんろうきよ そう(きゅうまつながやすざ えもんでい)	小田原市板橋513-7	昭和21年/ 昭和28年 増築	木造1	小田原市	平成12年9月26日	中部電力の設立者である松永安左衛門氏が晩年を過ごした居宅。数寄屋風の意匠を凝らした質の高いつくりになる和風建築。
36		松永記念館葉雨庵	まつながきねんかんよううあ ん	小田原市板橋941-1	大正13年頃/ 昭和61年 移築	木造1	小田原市	平成12年9月26日	実業家の野崎広太(幻庵)が別邸・自怡荘内に営んだ茶室で設計は幻庵自身。洗練された意匠を持ち、床の間・中板及び中柱による室内構成が優れている。
37	21	横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校校舎(旧横浜高等工業学校本館)	よこはまこくりつだいがく きょういくにんげんかがくぶ ふぞくよこはまちゅうがっ こうしょう(きゅうよこはま こうとうこうぎょうがっ こうほんかん)	横浜市区大岡2-31-3	昭和13年	RC3	国(文部科学省)	平成12年12月4日	両翼を全面に突出させたルネッサンス様式の形態をとるが、外見は水平線を強調するとともに、正面中央に縦長の連続窓を配するなどモダニズム的意匠でまとめる。

登録有形文化財の登録状況

No	登録	名称	ふりがな	所在地	建設年代	構造概要	所有者	登録日	概要
38	22	三井翠松園（旧三井高達別荘）本館	みついすいしょうえん（きゅうみついたかみちべっそう）ほんかん	箱根町小涌谷519-9	大正14年	木造二階建、瓦葺	ヒューリック株式会社	平成12年12月4日	広大な和風別荘で、意匠は質実簡明、施工は富士屋ホテルを手がけた河原徳治郎と伝える。
39	23	ジェラール水屋敷地下貯水槽	じえらーるみずやしきちかちよすいそう	横浜市中区元町1-77	明治10年代	煉瓦	横浜市	平成13年4月24日	幕末から横浜に居留したフランス人ジェラールが経営した船舶給水施設で兼営したフランス瓦煉瓦製造工場に地下に築造され、谷戸の湧水を集めて貯水した。
40	24	関戸家住宅主屋	せきどけじゅうたくおもや	横浜市青葉区美しが丘西2-40-8	明治初期	木造1	個人	平成13年8月28日	久保木村の名士の住宅で、桁行14間と横浜市内では最大級の民家。寄棟造で、東側に土間を置いた六間取り形式で、土間に接して馬屋を内部に取り込む。
41		関戸家住宅文庫蔵	せきどけじゅうたくぶんこくら	横浜市青葉区美しが丘西2-40-15	安政5年	土蔵2	個人	平成13年8月28日	桁行3間、梁行2間規模の2階建土蔵。主屋寄りに隠居と伝えられる床付8帖を備えるという特徴がある。
42		関戸家住宅穀蔵	せきどけじゅうたくこくら	横浜市青葉区美しが丘西2-40-8	江戸末期	土蔵2	個人	平成13年8月28日	桁行4間、梁行2間の丁寧な造りの2階建土蔵。
43	25	長島孝一家住宅主屋	ながしまこういちけじゅうたくしゅおく	逗子市新宿1-5-14	明治33年頃	木造1	個人	平成13年8月28日	木造平屋建の和風別荘で、南面に玄関、東面に座敷と広縁、北に離れを配するが、震災後90度振って復旧したと伝えられる。海浜別荘の遺構。
44	26	環翠楼本館北棟	かんすいろうほんかんきたとう	箱根町塔之澤88	大正8年	木造一部RC4	株式会社環翠楼	平成13年8月28日	国道側からは3階建地下1階で、3階に7.2畳の大広間を設ける。
45		環翠楼本館南棟	かんすいろうほんかんみなみとう	箱根町塔之澤88	大正13年	木造4	株式会社環翠楼	平成13年8月28日	平面形状がおむねL型の木造4階建。最上階に10.0畳大の「神代間」と6.0畳大の「万象間」の大広間を持つ。
46		環翠楼別館	かんすいろうべっかん	箱根町塔之澤88	大正期	木造3	株式会社環翠楼	平成13年8月28日	木造3階建、2・3階は本館の3・4階とそれぞれ同レベルで、廊下でつながる。真鶴町から移築したものといわれる。
47	27	神山荘（旧藤山雷太別荘）	しんざんそう（きゅうふじやまらいたべっそう）	箱根町強羅1300-92	昭和10年頃	木造1	宗教法人世界救世教	平成13年10月12日	軽快な玄関の右手に緑色瓦、洋館仕立ての食堂・応接室棟、左手に茅葺きの「中の間」棟と「上の間」棟を配する。
48	28	岩本楼ローマ風呂	いわもとろうろーまぶろ	藤沢市江の島2-2-7	昭和5年頃	木造1	有限会社岩本楼本館	平成13年11月20日	老舗旅館の洋風呂室。ガラスドームを架け、壁面には壁泉やベネチア窓風飾りをタイルやテラコッタで造る。
49	29	箱根小涌園貴賓館（旧藤田平太郎別荘）	はこねこわきえんきひんかん（きゅうふじたへいたろうべっそう）	箱根町二ノ平1297	大正7年	木造1	藤田観光株式会社	平成13年11月20日	北端の玄関から南に座敷を並べ、西に中庭を挟んでサービス部分を配する。各室を廊下で繋ぐ巧みな配置に近代的な特徴がある。
50		箱根小涌園迎賓館	はこねこわきえんげいひんかん	箱根町二ノ平1297	明治8年/昭和28年移築	木造2	藤田観光株式会社	平成13年11月20日	階上を養蚕のための空間とした2階建、入母屋造で屋根の一部を切り下げた養蚕農家独自の外見。
51	30	白雲洞茶苑白雲洞	はくうんどうちやえんはくうんどう	箱根町強羅1300-69	大正5年頃	木造1	箱根登山鉄道株式会社	平成13年11月20日	三井物産総帥益田孝が営んだ山荘の茶室の一つ。寄棟造、茅葺で田舎屋風外観を呈し、室内には古在を数多く用い、内外とも野趣のあふれる独自の意匠。
52		白雲洞茶苑不染庵	はくうんどうちやえんふせんあん	箱根町強羅1300-69	大正5年頃	木造1	箱根登山鉄道株式会社	平成13年11月20日	白雲洞の西に独立して建つ寄棟造、茅葺の茶室。草庵風の侘びた意匠。
53		白雲洞茶苑寄付	はくうんどうちやえんよりつき	箱根町強羅1300-69	大正初期	木造1	箱根登山鉄道株式会社	平成13年11月20日	白雲洞などに至る苑路の手前にあり、これらの茶室の寄付となる建物
54		白雲洞茶苑白鹿湯	はくうんどうちやえんはくろくとう	箱根町強羅1300-69	大正5年頃	木造1	箱根登山鉄道株式会社	平成13年11月20日	寄付東の一段低い位置に築かれた浴室。大岩を巧みに利用し上屋をかけて造られた建物。
55		白雲洞茶苑対字齋	はくうんどうちやえんついじさい	箱根町強羅1300-69	大正11年	木造1	箱根登山鉄道株式会社	平成13年11月20日	白雲洞の東に建つ。寄付を介して渡廊下で連結し、東寄り傾斜地の部分は掛造りとし変化に富んだ外観を造る。
56	31	正眼寺本堂（旧今村繁三別荘）	しょうげんじほんどう（きゅういまむらしげそうべっそう）	箱根町湯本562	明治37年頃/昭和7年移築	木造1	宗教法人正眼寺	平成14年2月14日	正方形平面の入母屋造とし、外装を真壁・一部押縁下見、三方に一見幅の畳廊下と半間幅の縁を設ける開放的な造りとし、内部の欄干に意匠を凝らしている。

登録有形文化財の登録状況

No	登録	名称	ふりがな	所在地	建設年代	構造概要	所有者	登録日	概要
57		正眼寺庫裏	しょうげんじくり	箱根町湯本562	昭和6年	木造1	宗教法人正眼寺	平成14年2月14日	銅板瓦葺、入母屋造、平入りとし、全面に縁を回し、真壁造とする。本堂と並列し、境内の景観に欠かせない存在。
58	32	旧近藤邸	きゅうこんどうてい	藤沢市鶴沼東8-1	大正14年 / 昭和56年 移築	木造2	藤沢市	平成14年8月21日	設計は、遠藤新。木造で平面はT字形、外見は下見板張や軒板などで水平線を強調した造形や、庭側のテラス、建具などにライト風の意匠が顕著にみられる。
59	33	だるま料理店主屋	だるまりょうりてんしゅおく	小田原市本町2-1-30	大正15年	木造2	有限会社エステイ	平成14年8月21日	正面中央に唐破風玄関を設け、比翼入母屋造風屋根とするなど、楼閣風の際だった存在である。
60	34	済生堂薬局小西本店店舗	さいせいどうやっきょくこにしほんでんてんぼ	小田原市本町4-2-48	大正14年頃	木造1	株式会社済生堂薬局小西本店	平成14年8月21日	寄棟造、棧瓦葺、平入り。柱など主要部に欅材を用い、店部分は天井も高く、葉巻等の内部意匠もよく残る。
61	35	山月(旧共寿亭)	さんげつ(きゅうきょうじゅてい)	小田原市板橋913	大正9年	木造2	有限会社山月	平成14年8月21日	入母屋造を基本とした複雑な銅板瓦葺を架け、2階部分は楼閣風になる。室内は数寄屋風で伝統的な造形を巧みに用い丁寧に仕上げる。
62	36	千世倭樓主屋	ちよわろうしゅおく	小田原市風祭50	明治中期 / 平成12年 移築	木造2	株式会社鈴廣蒲鉾本店	平成14年8月21日	秋田県中南部で江戸末期から明治初期頃に広まった曲屋形式を継承した住宅。入母屋造の屋根を架け豪快な外見とする。
63		千世倭樓土蔵	ちよわろうどぞう	小田原市風祭50	明治中期 / 平成12年 移築	土蔵2	株式会社鈴廣蒲鉾本店	平成14年8月21日	切妻造、棧瓦葺、妻入で戸口に重厚な造りの観音扉を設ける。内部木部は漆喰を用いる。
64	37	日本基督教団横須賀上町教会・付属めぐみ幼稚園	にほんきりすときょうだんよこすかうまちきょうかい・ふぞくめぐみようちえん	横須賀市上町2-43	昭和5年頃 / 昭和25年 増築	木造1一部 2階	宗教法人日本基督教団横須賀上町教会	平成15年3月18日	外装下見張で、尖頭アーチ型の上げ下げ窓を礼拝堂の各側面に配する。切妻屋根の道路側に設けられた塔屋に十字架を掲げる。
65	38	猿渡堰堤	さるわたりえんてい	秦野市堀山下・戸川	昭和7年	重力式コンクリート	神奈川県	平成15年3月18日	重力式練積堰堤。湾曲する旧河道を矯正するために堤体左岸側を締切り、岩盤形状に合わせて左岸側に水通しを全面に張り出す特異な構造を有す。
66	39	山ノ神堰堤	やまのかみえんてい	秦野市堀山下・戸川	昭和7年	重力式コンクリート	神奈川県	平成15年3月18日	重力式練積堰堤。水通しの右岸側端部に灌漑用水の水路を設け、堤体全面に導水するために既存の岩盤を利用して堤体右側を筒状に張り出す。
67	40	戸川堰堤	とがわえんてい	秦野市堀山下・戸川	昭和16年 / 昭和25年 高上げ	重力式コンクリート	神奈川県	平成15年3月18日	堤体表面を谷積、隅部を五角形に切り取った切石で丁寧に造る。嵩上げ部分は、コンクリート造りとしつつも堤体表面を下部和同様の谷積石張とする。
68	41	福住旅館別荘主屋	ふくずみりょかんべっそうしゅおく	箱根町湯本613	大正7年	木造1	個人	平成15年3月18日	南を正面としたコ字型平面を持つ、棧瓦葺、寄棟造。北側の1間幅廊下の南方に和室7室と台所、北方に便所と浴室を配する。
69		福住旅館別荘土蔵	ふくずみりょかんべっそういしぐら	箱根町湯本613	明治初期 / 昭和8年 移築	木骨石造2	個人	平成15年3月18日	桁行2間半梁間2間、棧瓦葺、切妻造。外部に白石あるいは湯本石と呼ばれる地元産の凝灰岩を積む。
70	42	福住樓主屋	ふくずみりょうしゅおく	箱根町塔之澤74	明治20年頃 ~ 昭和初期	木造3B1	個人	平成15年3月18日	玄関棟とその奥の棟は前身の「玉之湯旅館」、時代の木骨石造建築を改造したもの。西方に浴室棟や部屋ごとに意匠を変えた客室棟、質の高い書院造りの広間などを連ねる。
71		福住樓茶室	ふくずみりょうちやしつ	箱根町塔之澤74	昭和8年頃	木造1	個人	平成15年3月18日	「洗小亭」と名付けられ、中央に位置する五疊間の北西方に小間、南西方に風呂場を配する。小間は中板付3畳台目の茶室で、野崎幻庵の設計と伝わる。
72	43	金澤園	かなざわえん	横浜市金沢区柴町46	昭和4年	木造2	個人	平成16年3月2日	海岸の近傍に建てられた別荘旅館。入母屋造、棧瓦葺の木造2階建てで、客室は銘木を用いた凝ったつくりの座敷飾りや建具、欄間により、それぞれ趣向を凝らす。戦前の郊外行楽地における宿泊施設の好例を示す。
73	44	長谷川家住宅店舗及び主屋	はせがわけじゅうたくてんぼおよびしゅおく	小田原市国府津3-13-4	昭和2年	木造2	個人	平成16年6月9日	国府津地区の東海道沿いにおいて、関東大震災後の復興期に建てられた店舗兼住居。木造2階建、平入、入母屋造、棧瓦葺で、棟木銘より昭和2年の上棟が知られる。正面軒は出桁造で支え、屋根には緩やかなむくりをつける。国府津における震災復興町家の好例。
74	45	長谷川家住宅土蔵	はせがわけじゅうたくいしぐら	小田原市国府津3-2-25	大正5年	木骨石造2	個人	平成16年6月9日	国府津地区の東海道近傍に建つ木骨石造2階建ての蔵。古写真より大正5年の建築であることが知られる。1階は西面に戸口2箇所を開き、内部は2室構成とする。屋根は切妻造、棧瓦葺で、関東大震災後に設けられた補強帯鉄が外観のアクセントとなっている。

登録有形文化財の登録状況

No	登録	名称	ふりがな	所在地	建設年代	構造概要	所有者	登録日	概要
75	46	神戸屋ふるや店舗及び主屋	こうべやふるやてんでんぼお よびしゅおく	小田原市国府津4-2-18	昭和10 年頃	木造2	個人	平成16年6月9日	国府津駅前に位置し、国道1号線に面した角地に建つ。タクシー会社の車庫兼社屋として建てられたもので、現在では店舗として利用されている。木造であるが、外壁はモルタルで洋風石造建築を模しており、隅の円柱、窓周り、軒部等に特徴的な意匠を備えている。
76	47	旧横浜ゴム平塚製造所記念館	きゅうよこはまごむひらつか せいぞうしょきねんかん	平塚市浅間町1-1	明治39 年頃	木造平屋	平塚市	平成16年7月23日	日英合弁の日本爆発物製造株式会社の支配人室として建設。木造平屋建て、ヴェランダやベイウィンドーなどが特徴。屋根は鉄板葺で、南東に塔屋を頂き、外壁はドイツ下見板張とする。創建当初の姿を良く残し、小規模ながら明治期の木造洋風建築の佳品といえる。
77	48	八段堰堤	はちだんえんてい	伊勢原市大山	昭和3年	重力式コン クリート	神奈川県	平成16年7月23日	金目川水系南沢に築かれる。凝灰岩質の岩盤を基礎として築かれた堤長37m、堤高1.1m、下流法勾配2分、上流法勾配5分の大規模重力式練積堰堤。堤体表面に谷積を施し、正面立面をほぼ左右対称とする。金目川の水源近くに配された、渓流砂防の基幹的施設。
78	49	元滝堰堤	もとたきえんてい	伊勢原市大山	昭和5年	重力式コン クリート	神奈川県	平成16年7月23日	八段堰堤の下流に築かれる。堤長2.5m、堤高4.3mで、下流法勾配4分、上流法を垂直とした重力式練積堰堤で、堤体表面は谷積とする。同時期に花水川流域に築かれた他の堰堤と同様に、水通しの角に丸みをつけるのが特徴的。
79	50	袋町堰堤	ふくろまちえんてい	伊勢原市大山	昭和4年	重力式コン クリート	神奈川県	平成16年7月23日	金目川水系の不動沢に築かれる。堤長2.4m、堤高6.0mで上下流とも法勾配を3分とした重力式練積堰堤で、水通しを岩盤に近い左岸側に設ける。霊山大山への登拝路に近接し、集落への水害を防ぐのみならず、信仰道を保護する役割も果たす砂防施設。
80	51	出山堰堤	でやまえんてい	箱根町大平台	昭和4年	重力式コン クリート	神奈川県	平成16年7月23日	芦ノ湖を水源とする早川の中流域に国道1号と近接して築かれる。堤長5.2m、堤高2.0mの大規模な重力式練積堰堤で、下流法勾配2分、上流法勾配6分とする。2基の副堰堤を一体的につくり、幹線道路の下方に切立つ河岸の脚部と河床の安定効果を高める。
81	52	観音坂堰堤	かんのんざかえんてい	箱根町湯本茶屋	昭和5年	重力式コン クリート	神奈川県	平成16年7月23日	旧東海道沿いを流れる早川支川須雲川に築かれる。岩盤を基礎に利用した堤長5.1m、堤高1.0m、下流法勾配2分、上流法勾配5分の重力式練積堰堤で、本堰堤の約1.5m下流に副堰堤を設ける。石積の堤体を流れる水流が、湯治場の自然景観に彩りを与えている。
82	53	平山橋	ひらやまばし	愛川町田代字下河内～平山	大正2年 /大正1 5年	鋼製トラス	愛川町	平成16年11月8日	相模川水系中津川に架かる3連の鋼製下路式曲弦プラットトラス橋で、橋脚には布積の石張を施し橋長11.2m、支間長は3.7m。大正2年に左岸1連の鋼製トラスと右岸2連の木造トラスで開橋し、大正15年に木造トラスを鋼製トラスに架け替える。現在は歩道橋として利用されている。
83	54	總持寺三松閣	そうじじさんしょうかん	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	大正9年	門 木造	大本山總持寺	平成17年7月12日	総持造の1間高麗門。
84		總持寺香積台	そうじじこうしゃくだい	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	大正9年	木造二階建	大本山總持寺	平成17年7月12日	切妻造、妻入の大規模な2階建。
85		總持寺待鳳館	そうじじたいほうかん	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	大正4年 /昭和32 年移築改 造	木造平屋建	大本山總持寺	平成17年7月12日	迎賓館施設。主体部は尾張徳川家旧書院を移築したもの。
86		總持寺紫雲台	そうじじしうんたい	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	大正4年	木造平屋建	大本山總持寺	平成17年7月12日	入母屋造、軒唐破風付の向拝をもつ壮大な構成。
87		總持寺御霊殿	そうじじごれいでん	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	昭和12年	木造平屋建	大本山總持寺	平成17年7月12日	拝殿・幣殿・奥殿が連続した独特な権現造風。
88		總持寺仏殿（大雄宝殿）	そうじじぶつでん（だいゆう ほうでん）	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	大正4年	木造平屋建	大本山總持寺	平成17年7月12日	方3間もこし付で、創意工夫を凝らし、内外とも荘厳な構成。
89		總持寺虎嘯窟	そうじじこしょうくつ	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	安政年間 /明治44 年移築	木造平屋建	大本山總持寺	平成17年7月12日	貫首の居住施設で丁寧な書院造。
90		總持寺放光堂	そうじじほうこうどう	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	安政年間 /明治44 年移築	木造平屋建	大本山總持寺	平成17年7月12日	桁行30mに及び雄大な規模を持つ。
91		總持寺鐘鼓楼	そうじじしょうくろう	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	大正4年	木造二階建	大本山總持寺	平成17年7月12日	古風な樓造。
92		總持寺衆寮	そうじじしゅりょう	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	大正4年	木造平屋建	大本山總持寺	平成17年7月12日	簡明な住宅建築の形式になる。

登録有形文化財の登録状況

No	登録	名称	ふりがな	所在地	建設年代	構造概要	所有者	登録日	概要
93		總持寺大僧堂	そうじじだいそうどう	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	昭和12年	木造平屋建	大本山總持寺	平成17年7月12日	内部に座禅用の疊敷の床を設け、中央2本の独立円柱上に独特な挿肘木を組む。
94		總持寺百間廊下及び門	そうじじひゃっけんろうかおよびもん	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	大正4年頃	木造平屋建	大本山總持寺	平成17年7月12日	長大な廊下に3つの門を設けた形式。
95		總持寺向唐門	そうじじむかいからもん	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	大正14年	木造	大本山總持寺	平成17年7月12日	前後に唐破風を付けた精緻なつくりの四脚門。
96		總持寺鐘楼	そうじじしょうろう	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	大正4年	木造	大本山總持寺	平成17年7月12日	卓越した造形感覚の吹放し鐘楼。
97		總持寺三宝殿	そうじじさんぼうでん	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	昭和17年	木造平屋建	大本山總持寺	平成17年7月12日	独特な構成になる社殿建築。
98		總持寺放光観音台座	そうじじひかりかんのんだいざ	横浜市鶴見区鶴見2-1-1	大正12年	石造	大本山總持寺	平成17年7月12日	花崗岩製台座で、細部まで行き届いた造形になる。
99	55	光明寺書院	こうみょううじしょいん	横浜市南区庚台66	明治33年 / 大正13年移築	木造平屋建	光明寺	平成17年7月12日	もと小田原御用邸の常宮御座所を移築したもので、近代和風の宮廷建築として貴重。
100	56	山口家住宅主屋	やまぐちけいじゅうたくしゅおく	横浜市港北区篠原台町12-21	昭和13年頃	木造平屋一部二階建	個人	平成17年7月12日	私鉄（東急東横線）沿線住宅地に建つ1間洋館付の木造和風住宅。
101	57	横須賀市上下水道局逸見浄水場緩速ろ過池調整室	よこすかしじょうげすいどうきょくへみじょうすいじょうかんそくろかちちようせいしついち	横須賀市西逸見町2-10	大正8年	鉄筋コンクリート造平屋建	横須賀市上下水道局	平成17年7月12日	緩速ろ過池の各調整室は同形式のRC平屋建で、アングル材を用いて組み上げられた鉄骨を3基並べRC造スラブを支える珍しい構造形式。配水池の各入口は同形式のRC造、直線を基調としたセセッション風の幾何学的デザインでランドマーク的な構造物。ベンチュリーメーター室は近代水道の仕組を今に伝える貴重な施設。
102		横須賀市上下水道局逸見浄水場緩速ろ過池調整室	よこすかしじょうげすいどうきょくへみじょうすいじょうかんそくろかちちようせいしつに	横須賀市西逸見町2-10	大正8年	鉄筋コンクリート造平屋建	横須賀市上下水道局	平成17年7月12日	
103		横須賀市上下水道局逸見浄水場緩速ろ過池調整室	よこすかしじょうげすいどうきょくへみじょうすいじょうかんそくろかちちようせいしつさん	横須賀市西逸見町2-10	大正8年	鉄筋コンクリート造平屋建	横須賀市上下水道局	平成17年7月12日	
104		横須賀市上下水道局逸見浄水場緩速ろ過池調整室	よこすかしじょうげすいどうきょくへみじょうすいじょうかんそくろかちちようせいしつよん	横須賀市西逸見町2-10	大正8年	鉄筋コンクリート造平屋建	横須賀市上下水道局	平成17年7月12日	
105		横須賀市上下水道局逸見浄水場配水池東入口	よこすかしじょうげすいどうきょくへみじょうすいじょうはいすいちひがしいりぐち	横須賀市西逸見町2-10	大正8年	鉄筋コンクリート造	横須賀市上下水道局	平成17年7月12日	
106		横須賀市上下水道局逸見浄水場配水池西入口	よこすかしじょうげすいどうきょくへみじょうすいじょうはいすいちにししいりぐち	横須賀市西逸見町2-10	大正8年	鉄筋コンクリート造	横須賀市上下水道局	平成17年7月12日	
107		横須賀市上下水道局逸見浄水場ベンチュリーメーター室	よこすかしじょうげすいどうきょくへみじょうすいじょうべんちゅりーめーたーしつ	横須賀市西逸見町2-10	大正8年	鉄筋コンクリート造平屋建	横須賀市上下水道局	平成17年7月12日	
108	58	清閑亭	せいかんてい	小田原市南町1-5-73	大正初期	木造平屋一部二階建	小田原市	平成17年7月12日	全体として雁行状平面で数寄屋風の丁寧なつくり。
109	59	箱根湯本ホテル暁亭	はこねゆもとほてるあかつきてい	箱根町湯本茶屋182	大正末期 / 昭和62年移築	木造平屋建	湯本ホテル	平成17年7月12日	須雲川右岸にある端正なつくりの平屋建別荘建築。
110	60	中村家住宅主屋	なかむらけいじゅうたくしゅおく	相模原市南区磯部1734	江戸末期	木造二階建	相模原市	平成18年3月2日	鎌倉大工の石井甚五郎の手による初期の擬洋風建築。
111	61	愛光商会吉浜寮	あいこうしょうかいよしはまりょう	湯河原町吉浜字柏坂1	昭和初期	木造三階建	個人	平成18年3月2日	外壁をモルタル塗の大壁とするが、2階、3階正面は持ち送りで柱形を前に出し、上げ下げ窓を連続して配する。
112	62	鎌倉市長谷子ども会館洋館	かまくらしはせこどもかいかんようかん	鎌倉市長谷1-227-32	明治41年	木造二階建	鎌倉市	平成18年10月18日	洋館は、随所に技巧を凝らした華麗な造形意匠を見せる。蔵は洋館との統一感を意識した洋風の外觀である。
113		鎌倉市長谷子ども会館蔵	かまくらしはせこどもかいかんくら	鎌倉市長谷1-227-32	明治41年	木造平屋建	鎌倉市	平成18年10月18日	

登録有形文化財の登録状況

No	登録	名称	ふりがな	所在地	建設年代	構造概要	所有者	登録日	概要
114	63	旧華頂家住宅主屋	きゅうかちょうけじゅうたくしゅおく	鎌倉市浄明寺2-486-1他	昭和4年	木造地上3階地下1階建	鎌倉市	平成18年10月18日	端正なつくりのハーフ・ティンバー風の洋風住宅建築。
115	64	三河屋本店店舗兼住宅	みかわやほんてんてんぼけんじゅうたく	鎌倉市雪ノ下1-270-1他	昭和2年	木造二階建	個人	平成18年10月18日	若宮大路に面する。店舗兼住宅は正面に長大な差鴨居を渡す重厚なつくりで、北側後方に木造の蔵を配する。
116		三河屋本店蔵	みかわやほんてんくら	鎌倉市雪ノ下1-270-1他	昭和2年	木造平屋建	個人	平成18年10月18日	
117	65	寸松堂主屋	すんしょうどうしゅおく	鎌倉市笹目町292-1他	昭和11年	木造二階建	個人	平成18年10月18日	主屋は、寺院風意匠と城郭風意匠とを巧みに採り入れた商店建築で、北東隅には土蔵造2階建の蔵を配する。
118		寸松堂蔵	すんしょうどうくら	鎌倉市笹目町292-1他	昭和11年	土蔵造二階建	個人	平成18年10月18日	
119	66	神原家住宅長屋門	かんばらけじゅうたくながやもん	相模原市緑区牧野4204	江戸後期	木造平屋建	個人	平成18年10月18日	規模が大きく、軒や小屋組に当初の形式を良好にとどめ、豪壮な屋敷構えを伝える。
120	67	遠藤家住宅主屋	えんどうけじゅうたくしゅおく	相模原市緑区澤井583	江戸後期	木造二階一部三階建	個人	平成18年10月18日	林業と養蚕業を営んだ農家の住宅。主屋は2階正面軒を高くつくり、せがい造とした木造2階建てで、衣裳蔵と穀蔵は扉廻り等に入念な漆喰仕上げの高度な技術を見せる。
121		遠藤家住宅衣裳蔵	えんどうけじゅうたくいしゅうぐら	相模原市緑区澤井583	明治末期	土蔵造二階建	個人	平成18年10月18日	
122		遠藤家住宅穀蔵	えんどうけじゅうたくこくぐら	相模原市緑区澤井583	文化7年	土蔵造二階建	個人	平成18年10月18日	
123	68	和智家住宅主屋	わちけじゅうたくしゅおく	相模原市緑区名倉3788	江戸末期	木造平屋一部二階建	個人	平成18年10月18日	式台を備え、書院造風座敷のある大規模な民家建築。
124	69	角田家住宅主屋	つだけじゅうたくしゅおく	横浜市栄区公田町2306	大正2年頃	木造平屋建	個人	平成18年11月29日	主屋はつし2階建てで、瓦葺屋根の軒を出桁造とする農家系近代和風住宅の好例である。隣接する道具蔵は黒漆喰塗の2階建てで、両開塗戸を備え、主屋とともに重厚な外観を構成する。敷地の東辺をなす石垣は切石積で延長は40m、上部は生垣とし良好な住宅景観を呈す。
125		角田家住宅道具蔵	つだけじゅうたくどうぐぐら	横浜市栄区公田町2306	明治期	土蔵造二階建	個人	平成18年11月29日	
126		角田家住宅石垣	つだけじゅうたくいしがき	横浜市栄区公田町2306	大正期	石造/延長40メートル	個人	平成18年11月29日	
127	70	箱根太陽山荘本館	はこねたいようさんそうほんかん	箱根町強羅1320-374	昭和15年/昭和25・26年増改築	木造二階一部三階建	個人	平成18年11月29日	傾斜地に建つ本館と別館を、道路をまたぐ廊下でつなぐ独特な構成。湯治場の風情を残す近代和風建築である。
128		箱根太陽山荘別館	はこねたいようさんそうべっかん	箱根町強羅1320-375	大正後期/昭和28年増改築	木造二階一部三階建	個人	平成18年11月29日	
129	71	小澤家住宅主屋	おざわけじゅうたくしゅおく	伊勢原市西富岡370	明治初期	木造平屋建/茅葺(鉄板仮葺)	個人	平成19年5月15日	主屋は20畳座敷を備え、桁行11間、梁間7間の規模を誇る。特に柱や梁は太く、建具や床の間まわりの造作は優秀である。表門は旧平塚宿本陣の表門という由緒を持ち、平塚宿における唯一の建築遺構である。また敷地隅には瓦を積んだ練堀で、瓦小口を並べて見せた重厚なつくりの庭堀を残す。
130		小澤家住宅表門	おざわけじゅうたくおもてもん	伊勢原市西富岡370	江戸末期/明治20年頃移築	木造/瓦葺	個人	平成19年5月15日	
131		小澤家住宅庭堀	おざわけじゅうたくにわべい	伊勢原市西富岡370	大正末期	練堀/瓦葺/延長11メートル	個人	平成19年5月15日	
132	72	岩瀬家住宅主屋	いわせけじゅうたくしゅおく	小田原市鴨宮字宝町692	安政5年頃/昭和40年頃・平成19年改修	木造平屋建/茅葺	個人	平成21年1月8日	もと名主の家で、軒先を出桁造りとして深い軒の出を作っている。足柄地方の上層農家建築の一例。

登録有形文化財の登録状況

No	登録	名称	ふりがな	所在地	建設年代	構造概要	所有者	登録日	概要
133	73	茅ヶ崎館広間棟	ちがさきかんひろまとう	茅ヶ崎市中海岸3-11595-1他	大正15年頃	木造平屋一部2階建/鉄板葺・スレート葺及び瓦葺	個人	平成21年1月8日	湘南海岸を望む高台に建つ明治32年創業の老舗旅館で、映画監督・小津安二郎が定宿としていたことでも知られる。広間棟の広間は30畳大で軽快な意匠の座敷飾りを備え、南西側に中二階棟、南東に長屋棟を記して中庭を囲む。広間棟後方の浴室棟は数寄屋風意匠でまとめている。
134		茅ヶ崎館中二階棟	ちがさきかんちゅうにかいと	茅ヶ崎市中海岸3-11595-1他	大正14年	木造平屋建/スレート葺	個人	平成21年1月8日	
135		茅ヶ崎館長屋棟	ちがさきかんながやとう	茅ヶ崎市中海岸3-11595-1他	大正15年頃/昭和8年頃移築	木造平屋建/スレート葺及び瓦葺	個人	平成21年1月8日	
136		茅ヶ崎館浴室棟	ちがさきかんよくしつとう	茅ヶ崎市中海岸3-11595-1他	大正15年頃	木造平屋建/鉄板葺	個人	平成21年1月8日	
137	74	古民家山十邸主屋	こみんかやまじゅうていしゅおく	愛川町中津字松台485-5他	明治16年/平成元年改修	木造平屋建/瓦葺	愛川町	平成21年1月8日	山十の屋号をもつ豪農の旧宅。主屋は大規模で、座敷飾りを備える広間をもつなど豪壮な農家建築。門も大型の薬門で力感にあふれる。
138		古民家山十邸門	こみんかやまじゅうていもん	愛川町中津字松台485-5	明治中期	木造/瓦葺/間口2.8メートル/左右袖塀付	愛川町	平成21年1月8日	
139	75	かいひん荘鎌倉洋館(旧村田家住宅洋館)	かいひんそうかまくらようかん(きゅうむらたけじゅうたくようかん)	鎌倉市由比ガ浜4-1185-2	大正13年/昭和49年頃・昭和57年改修	木造2階建/スレート葺一部銅板葺	鎌倉興業株式会社	平成21年8月7日	富士製紙の社長村田一郎の住宅として建てられ、昭和27年から旅館となっている。腰折屋根やベイウインドウが特徴の瀟洒な建物で、室内意匠も優れている。
140	76	塔之澤一の湯本館	とうのさわいちのゆほんかん	箱根町塔之澤字湯ノ沢90-1他	明治後期/大正6年・大正11年増築/昭和中期、昭和後期改修	木造4階一部地下1階建/銅板葺及び鉄板葺	株式会社一の湯	平成21年8月7日	一の湯は寛永年間創業と伝わる老舗温泉旅館で、塔之澤温泉の入口に位置する。複雑な屋根構成を持ち、室内意匠にも様々なものを採用している建物である。
141	77	田畑家住宅主屋	たばたけじゅうたくしゅおく	横浜市神奈川区白幡上町93	昭和7年/昭和中期・昭和後期改修	木造平屋建/棧瓦葺・スレート葺	個人	平成22年1月15日	和風住宅の玄関脇に急勾配の切妻屋根と出窓をもつ洋館部分を併設した、いわゆる「洋館付き住宅」の典型例である。
142	78	尾崎家住宅主屋	おざきけじゅうたくしゅおく	湯河原町宮上字入谷261-38	昭和16年/昭和25年・昭和27年増築	木造平屋一部2階建/棧瓦葺	個人	平成22年1月15日	温泉地の別荘として南向きの傾斜地に建築。主屋には客間や茶室などがあり、建具や欄間などに凝った意匠がみられ、地下通路で浴室と繋がっている。四阿は庭園の中に建ち、網代張りの天井など瀟洒な意匠を取り入れている。門は皮付丸太を柱に用いるなど、全体として重々しさを排除した数寄屋風の軽快な造りとなっている。
143		尾崎家住宅浴室	おざきけじゅうたくよくしつ	湯河原町宮上字入谷261-38	昭和16年/昭和25年増築	木造平屋建/銅及び鉄板葺	個人	平成22年1月15日	
144		尾崎家住宅四阿	おざきけじゅうたくあづまや	湯河原町宮上字入谷261-38	昭和16年	木造平屋建/銅板葺	個人	平成22年1月15日	
145		尾崎家住宅門	おざきけじゅうたくもん	湯河原町宮上字入谷261-38	昭和16年	銅板葺	個人	平成22年1月15日	

登録有形文化財の登録状況

No	登録	名称	ふりがな	所在地	建設年代	構造概要	所有者	登録日	概要
146	79	上野屋本館	うえのやほんかん	湯河原町宮上字丸山616-1他	昭和5年/ 昭和前期・昭和25年増築/ 平成2年・平成4年改修	木造4階建/ 鉄板葺	有限会社上野屋	平成22年1月15日	江戸時代創業の温泉旅館。背後の山の傾斜に沿って建てられた楼閣風の外観をもつ本館に接続して玄関棟、別館が並ぶ。入り組んだ屋根が複雑な外観を構成し、老舗旅館の風格を漂わせる。
147		上野屋玄関棟	うえのやげんかんとう	湯河原町宮上字丸山616-1他	昭和11年頃/ 昭和25年頃・昭和35年頃・昭和50年頃改修	木造2階建/ 鉄板及び銅板葺	有限会社上野屋	平成22年1月15日	
148		上野屋別館	うえのやべっかん	湯河原町宮上字丸山616-1他	大正12年/ 昭和25年頃・昭和35年頃・平成元年頃改修	木造2階建/ 鉄板葺	有限会社上野屋	平成22年1月15日	
149	80	旧脇村家住宅主屋	きゅうわきむらけじゅうたくしゅおく	逗子市桜山8-2241	昭和9年	木造2階建、瓦葺	逗子市	平成22年4月28日	南西方向に海を臨む丘陵地に立地する昭和初期の和風別荘建築。採光に配慮した部屋配置をとり、南西に窓を連ねた開放感のある居室を持つ。
150	81	旧後藤医院鶴沼分院	きゅうごとういいんくげぬまぶんいん	藤沢市鶴沼橋1-1850-40	昭和8年/ 平成4年・平成19年改修	木造平屋建、銅板葺	藤沢市	平成22年9月10日	木造平屋建ての医院建築。東半部は医院、西半部は住居とした。通風のために床高を高く、出窓を付け二重窓とし、屋根に換気口を三ヶ所設置するなど環境改良の工夫が見られる。
151	82	田丸家住宅主屋	たまるけじゅうたくしゅおく	鎌倉市扇ガ谷2-254-1	大正7年/ 昭和3年・昭和35年・昭和45年改修	木造平屋一部二階建、スレート葺	個人	平成23年1月26日	木造平屋の簡素で軽快な洋風建築。屋根は南北棟を中心に東西棟を十字に架ける複雑な外観の切妻屋根となっている。また、外壁を下見板張としていた点や開口部枠周りの強調、漆喰が塗られた妻面とその下部の板張部分の対比など、細部において洋館らしさを強調する意匠が用いられている。
152	83	高崎家住宅主屋	たかさきけじゅうたくしゅおく	鎌倉市山ノ内字藤源治942-1	昭和5年/ 平成19年改修	木造二階建、瓦葺	個人	平成23年1月26日	木造二階建て切妻造、洋室付附属型の和風住宅。昭和初期においては洋間部分の外壁にも洋風のデザインを施すのが通例な中で、左右対称形の大屋根を架け、妻面に下屋と庇を2段に付けることで、住宅の外観を和風としている点に特徴がある。一方で、間取りは昭和初期における中流住宅の典型となっている。
153	84	寶金剛寺庫裏	ほうこんごうじくり	小田原市国府津字八幡上2038他	寛政12年(1800年)/ 昭和33年改修	木造平屋建、瓦葺	宗教法人寶金剛寺	平成23年1月26日	旧東海道に近い山裾に位置し、庫裏は境内奥で西側に面している。南側の玄関後方に座敷を一列に配し、北側の大広間(改修前は土間)では豪壮な軸組が見える。真言宗寺院庫裏として県下で類例の少ない平面形式を有している。
154	85	日影茶屋本店客室棟	ひかげちゃやほんてんきゃくしつとう	葉山町堀内字五ツ合16-1他	大正12年/ 昭和9年・昭和40年頃改修	木造二階建、瓦葺	株式会社日影茶屋	平成23年1月26日	通りに西面して車寄せを構えた南北棟と北側で直行する東西棟とがL字型に連なる。南北棟は二階を玄関とし、東西棟は各階とも小部屋に分け、老舗旅館の面影を残す。
155		日影茶屋本店石蔵	ひかげちゃやほんてんいしくら	葉山町堀内字五ツ合16-1	大正10年頃	石造二階建、瓦葺	株式会社日影茶屋	平成23年1月26日	石蔵は客室棟の南方に所在し、房州石で積み上げた厚重な外壁や道路側の二階開口両側の半円柱の柱型が特徴である。
156	86	三河屋旅館本館	みかわやりよかんほんかん	箱根町小涌谷字小涌谷503-1	大正13年頃	木造二階一部平屋建/ 鉄板葺一部スレート葺	三河屋旅館株式会社	平成23年10月28日	明治16年創業の老舗旅館の本館。唐破風玄関を構える社寺建築風の主屋や、洋風の内装を持つラウンジ棟等を複合させた旅館建築である。
157	87	旧木下家別邸	きゅうきのしたけべってい	大磯町大磯字北本町1007イ号2	大正元年	木造二階一部地下一階建、スレート葺	大磯町	平成24年2月23日	切妻造スレート葺で左右の屋根上にドーマー窓を開け、各室にベイウィンドウを設ける。別荘地大磯に残る数少ない洋風の別荘建築である。

登録有形文化財の登録状況

No	登録	名称	ふりがな	所在地	建設年代	構造概要	所有者	登録日	概要
158	88	松の茶屋田舎家	まつのちゃやいなかや	箱根町湯本字上町518-1他	大正3年頃	木造平屋一部二階建、茅葺一部瓦葺	公益財団法人三井文庫	平成25年3月29日	箱根湯本で生まれた別荘を拡張整備した元旅館。茅葺屋根をもつ田舎家は、残月の間や露の間などを配し、書院風や草庵風など、多彩な室内空間を併せ持っている。中央棟は複雑な平面構成になり、各室はいずれも上質な造作である。中央棟の谷側には八角形平面の浴室棟を接続するなど、起伏のある敷地を巧みに利用して各棟を配し、旅情を醸し出している。
159		松の茶屋中央棟	まつのちゃやちゅうおうとう	箱根町湯本字上町518-1他	昭和27年 / 昭和後期改修	木造平屋一部二階建、こけら葺一部瓦葺	公益財団法人三井文庫	平成25年3月29日	
160		松の茶屋浴室棟	まつのちゃやよくしつとう	箱根町湯本字上町518-1他	昭和28年	木造平屋建、銅板葺	公益財団法人三井文庫	平成25年3月29日	
161		松の茶屋松月	まつのちゃやしゅうげつ	箱根町湯本字上町518-1他	昭和前期 / 昭和34年移築・昭和後期改修	木造平屋建、銅板葺	公益財団法人三井文庫	平成25年3月29日	
162	89	榺亭本館	らいていほんかん	鎌倉市鎌倉山3-1815-5他	昭和4年 / 昭和5年増築 / 昭和44年改修	木造及び鉄筋コンクリート造平屋建一部地階付 / 瓦葺	個人	平成25年12月24日	榺亭は、現在、和風レストランとして活用されている。もとは、事業家の別荘として建築されたもので、民家の古材を用い、洋間にスタンドグラスを飾って、和洋の意匠を混交させている。山門は、禅宗様意匠を取り入れた四脚門である。
163		榺亭山門	らいていさんもん	鎌倉市鎌倉山3-1815-5	明和7年(1770) / 昭和6年移築	木造 / 瓦葺 / 間口3.2メートル	個人	平成25年12月24日	
164	90	桔梗屋店蔵	ききょうやみせぐら	藤沢市藤沢1-751-1他	明治44年	土蔵造2階建 / 瓦葺	個人	平成25年12月24日	
165		桔梗屋主屋	ききょうやしゅおく	藤沢市藤沢1-750-1	明治44年頃 / 昭和初期増築	木造2階建 / 鉄板葺	個人	平成25年12月24日	桔梗屋は、旧東海道藤沢宿で茶や紙の問屋を営んだ旧家である。店蔵は、土蔵造り、外壁は黒漆喰仕上げであり、店蔵の北側に建つ主屋との1階境には千人庫と呼ぶ厚重な観音開の土戸を設けるなど、優秀な左官技術が窺える。文庫蔵は、旧藤沢宿における近世に遡る希少な遺例で、店蔵とともに東海道の旧宿場の雰囲気伝える。
166		桔梗屋文庫蔵	ききょうやぶんこくら	藤沢市藤沢1-752-1他	文久元年(1861) / 大正14年改修	土蔵造3階建 / 瓦葺	個人	平成25年12月24日	
167	91	旧三鶯八郎右衛門家住宅主屋	きゅうみつはしはちろうえもんけじゅうたくしゅおく	藤沢市羽鳥3-1039-1他	明治11年 / 昭和前期改修	木造2階建 / 瓦葺	個人	平成25年12月24日	
168		旧三鶯八郎右衛門家住宅門	きゅうみつはしはちろうえもんけじゅうたくもん	藤沢市羽鳥3-1039-1他	明治後期	木造 / 瓦葺 / 間口2.7メートル / 左右袖塀及び潜戸付	個人	平成25年12月24日	三鶯家は、源流が室町前期まで遡る旧家で、代々、八郎右衛門を襲名しており、江戸期には羽鳥村の名主を務めた。主屋の土間や板の間では、良材で柱や差物を堅牢に組んでいる。また襖や透彫欄間、釘隠金具等の造作も人念で、格調高い室内意匠をもっている。正面に構える門や、それに接続する石塀が旧家の屋敷構えを形成する。
169		旧三鶯八郎右衛門家住宅石塀	きゅうみつはしはちろうえもんけじゅうたくいしべい	藤沢市羽鳥3-1039-1他	明治後期	石造 / 総延長33メートル	個人	平成25年12月24日	
170	92	伊藤屋旅館本館	いとうやりよかんほんかん	湯河原町宮上字橋下484-1他	大正15年	木造2階建 / 瓦葺	個人	平成26年4月25日	
171		伊藤屋旅館奥棟	いとうやりよかんおくとう	湯河原町宮上字橋下484-2他	大正前期	木造2階建 / 瓦葺	個人	平成26年4月25日	伊藤屋は政府の高官を宿泊させる目的で明治21年に創業した旅館である。南面して建つ本館とその後方に建つ奥棟ともに、客室の内部造作は座敷飾など繊細な意匠で、通風採光に配慮したものになっている。丸面取を施した門柱、切石を積み蒲鉾型の笠石を載せた石垣とともに登録する。
172		伊藤屋旅館門柱及び石垣	いとうやりよかんもんちゅうおよびいしがき	湯河原町宮上字橋下484-3他	昭和初期 / 平成20年頃移築	門柱 石造 / 間口7.1メートル、石垣 石造 / 総延長47メートル	個人	平成26年4月25日	

登録有形文化財の登録状況

No	登録	名称	ふりがな	所在地	建設年代	構造概要	所有者	登録日	概要
173	93	坂井家住宅和館	さかいけじゅうたくわかん	鎌倉市扇ガ谷	昭和2年 /昭和16 年頃改修	木造2階建 /瓦葺	公益財団法人 鎌倉風致保存 会	平成26年10月7日	扇ガ谷の奥寄りに坂井英太郎の鎌倉別邸として建築された。木造二階建てで、南に面して建ち、正面東寄りに玄関を構え、背面東寄りに家政部を張出す。南面の開口を広げて採光するほか、玄関や取次の間、背面廊下を広めに作り、家政部分にも配慮がみられる別邸建築。
174		坂井家住宅洋館	さかいけじゅうたくようかん	鎌倉市扇ガ谷	昭和2年	木造2階建 /スレート 葺	公益財団法人 鎌倉風致保存 会	平成26年10月7日	和館の南東隅に接続して建つ木造二階建ての建物。敷地の高低差を利用し、洋館の二階に和館の一階を接続する。外壁はモルタル塗りシン吹付とし、二階出窓の上下に見切を入れるなど、和館と対照的に見せる。二階を洋風の応接室として、洋館併設住宅の特徴を伝える。
175	94	林家住宅主屋	はやしけじゅうたくしゅおく	藤沢市鶴沼桜が岡	昭和12年 /昭和33 年改修	木造平屋一 部2階建/ 銅板葺一部 瓦葺/門付	個人	平成26年10月7日	急勾配の切妻屋根で、外壁をハーフティンバーとする。内部は、母体となっている古民家の木太い軸部や梁組を現しつつ、間仕切りにテューターアーチを用い、ステンドグラスを飾るなど巧みに和洋を折衷する。上質な意匠の住宅で、戦前の郊外型住宅の好例を示す。
176	95	藤田屋旅館本館	ふじたやりよかんほんかん	湯河原町宮上	大正12年 /昭和4 年・昭和 26年改修	木造2階建 /瓦葺一部 銅板葺	個人	平成26年12月19日	藤田屋旅館は、東棟・西棟ともに、室内のトコや欄間に繊細な意匠の組子細工や透彫が見られ、東棟では各室の戸口に多様な数寄屋意匠の小庇が付されている。温泉街の旅情を醸す老舗旅館建築である。
177	96	藤間家住宅主屋	とうまけじゅうたくしゅおく	茅ヶ崎市柳島	昭和7年	木造平屋建 /鉄板葺	個人	平成27年3月26日	藤間家住宅主屋は、設計者西村伊作の作風の一端を示す近代住宅である。洋間部分を含めた東立面全体を洋風意匠とし、その他の部分を和風意匠とする。和洋の意匠を対比的に採用した、落ち着いたたたずまいの住宅である。
178	97	環山	かんざん	箱根町木賀	昭和初期 /昭和56 年・平成 24年改修	木造平屋建 /茅葺一部 瓦葺	個人	平成27年3月26日	環山は、多様な数寄屋意匠でまとめられた田舎家風山荘で、入母屋造茅葺の広間棟と寄棟造茅葺の茶室棟を繋げた独特な構成を持つ。箱根に残る戦前の財界人の数寄屋別荘としても価値がある。
179	98	旧稲元屋呉服店内蔵	きゅういなもとやごふくてん うちぐら	藤沢市藤沢	昭和10年	土蔵造2階 建/銅板葺	個人	平成27年8月4日	旧稲元屋呉服店内蔵は、東海道藤沢宿で呉服商を営んだ稲元屋の土蔵である。外壁を人造石洗出し及び研出し仕上げとして石造風に目地を切り、蔵前を付ける。宿場の面影を伝える土蔵である。
180		旧稲元屋呉服店一番蔵	きゅういなもとやごふくてん いちばんぐら	藤沢市藤沢	明治中期	土蔵造2階 建/鉄板葺	個人	平成27年8月4日	旧稲元屋呉服店一番蔵は、東海道藤沢宿で呉服商を営んだ稲元屋の土蔵で内蔵の南に東面して並び建つ。外壁を漆喰塗りとし、内部には関東大震災後に多数の筋違や金物が付加される。震災復旧の様子を窺うことができ、藤沢宿の土蔵の古例としても価値がある。

登録記念物の登録状況

No	登録	名称	ふりがな	登録基準	所在地	所有者	登録日	概要
1	1	山下公園	やましたこうえん	名勝地関係	横浜市中区山下町	横浜市	平成19年2月6日	関東大震災後の復興事業の一環として、横浜港に臨んで造成された日本で最初の臨海都市公園。保健・休憩の場として重要な機能を持ち、園内にはインド水塔、石積護岸、右造バルコニーなど当時の公園施設が多く遺存するなど景趣に富む。
2	2	日本大通り	にほんおおどおり	名勝地関係	横浜市中区日本大通	横浜市	平成19年2月6日	慶応2年(1866)の大火後に、東の外国人居留地と西の日本人街を隔てる防火道路として明治4年(1871)に設計され、明治10年(1877)までに完成した横浜市内の並木街道で、公園史上の意義が深く、風致に富んだ優秀な景趣を持つ。
3	3	横浜公園	よこはまこうえん	名勝地関係	横浜市中区横浜公園	横浜市	平成19年2月6日	明治9年(1876)に居留外国人と日本人がともに使える「彼我公園」として開園し、日本大通りとともに横浜の中心市街地における重要な空間軸を成してきた都市公園。
4	4	禅寺丸柿	ぜんじまるがき	動物植物地質鉱物関係	川崎市麻生区王禅寺他	個人	平成19年7月26日	禅寺丸柿は、鎌倉時代前期に現在の川崎市麻生区王禅寺地内、星宿山王禅寺(せいしゅくざんおうぜんじ)の山中で発見され、果実の甘さが記録されたことにより日本で最古の甘柿とされている。日本最古の甘柿として江戸時代から戦後まで多く生産された。明治時代に誕生した柿生村の由来となった、この地域では重要なものである。
5	5	恩賜箱根公園	おんしはこねこうえん	名勝地関係	足柄下郡箱根町元箱根	神奈川県	平成25年8月1日	明治時代に芦ノ湖東岸の塔ヶ島に新築された箱根離宮の跡地が、戦後、神奈川県に下賜され、恩賜箱根公園として公開された。箱根外輪山、富士山を望む良好な立地で、離宮当時の地形・植生、施設の痕跡を生かした公園整備が行われている。
6	6	強羅公園	ごうらこうえん	名勝地関係	足柄下郡箱根町強羅	箱根登山鉄道株式会社	平成25年8月1日	高級避暑地・別荘地である箱根の強羅地区では、大正3年(1914年)に小田原電気鉄道株式会社が上流階級の親睦・保養のために強羅公園を開園した。ヨーロッパ風の明確な軸線に基づく意匠・構成及び強羅の地質を生かした多数の巨岩を用いる点は、独特である。
7	7	神仙郷	しんせんきょう	名勝地関係	足柄下郡箱根町強羅	宗教法人 世界救世教	平成25年8月1日	第二次世界大戦中～戦後に、世界救世教の創始者である岡田茂吉が箱根強羅地区の自然環境の特質を巧みに生かした理想郷として作庭した和風庭園で、昭和27年(1952)に完成した。その意匠・構成は独特かつ良好に維持されており、造園文化の発展を知る上で意義深い。

神奈川県文化財目録

発行日 平成27年9月

発行 横浜市中区日本大通33

編集 神奈川県教育委員会生涯学習部文化遺産課
